

江戸川区立葛西小学校

単元名	くらべた こと が あるかな, おおいのは どちらかな			教科書の ページ	①p.1~2
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容	幼児期の学びの想起

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・幼児期に育った数や量への関心・感覚を想起して、算数の学習への期待を持つ。 ①p.1~2	1	①p.1 の写真を見て、幼児期に数や量に着目した経験を話し合う。 ②p.2 の写真を見て、直感的に数の多少を判断する。	[態度]発言・行動観察

単元名	1. なかまづくりと かず			教科書の ページ	①p.3~35
配当時数	14 時間	活動時期	4 月中旬~ 5 月上旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ) (エ)(ク), イ(ア)

単元の目標		10 までの数について、個数の比べ方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数のまとまりに着目して数の大きさの比べ方や数え方を考える力及び数の構成に着目して数を多面的に捉える力を養うとともに、数に親しみ、数で表すこと及び比べることのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	10 までの数について、1 対 1 対応により集合の要素の個数を比べる方法や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、集合の要素の個数を比べたり、数を正しく数え数字を読んだり書いたり、数の合成、分解をしたりすることができる。
	思考・判断・表現	数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成に着目し、1 つの数をほかの 2 つの数の和や差として捉え言葉や半具体物などを用いて表現したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	数の比べ方や数え方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさをを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) た り る か な		① p.3 ~ 5	1 時 間
・集合の要素の個数の多少を 1 対 1 対応の方法で比べることができ、数が同じ、違う(多い, 少ない)などの意味を理解する。 ①p.3~5	1	①コアラと傘などの数の多少を線で結んで比較する。 ②直接対応できない 2 つの集合の要素の個数について、比較の方法を考える。 ③媒介物(ブロック)を用いて比較する。 ④数量の相等, 多少の意味を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) おなじかずのなかまをさがそう ① p.6 ~ 11 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・数量の大きさを表す「いち」「に」…「ご」の数詞と、「1」「2」…「5」の数字が対応していることを知り、1～5個のものの数を数えることができる。 ・1～5の数字の書き方を理解する。 <p>①p.6～9</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①p.6～7の絵を見て、いろいろな集合を見つけ、要素の個数に着目する。 ②同じ個数の集合を見つけ、「いち」「に」…「ご」の数詞を対応させる。 ③各要素の数や数図に「1」…「5」の数字を対応させる。 ④具体物を数える練習をする。 ⑤1～5の数字の書き方を知り、数字を書く練習をする。(p.8～9) 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> ・1～5の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけることができる。 <p>①p.10～11</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①p.10の絵を見て、数量を数えて数字を書く。 ②1～5の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる。(p.11 上段) ③ブロックを用いて、5を様々な形で表し、数の多様な見方にふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 5はいくつといくつ ① p.12 ~ 13 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・5の構成を理解する。 <p>①p.12～13</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①おはじきを用いた活動を通して、5はいくつといくつに分けられるか考える。 ②5の構成を捉え、5はいくつといくつで表す。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) おなじかずのなかまをさがそう ① p.14 ~ 19 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・数量の大きさを表す「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞と、「6」「7」…「10」の数字が対応していることを知り、6～10個のものの数を数えることができる。 ・6～10の数字の書き方を理解する。 <p>①p.14～17</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①p.14～15の絵を見て、いろいろな集合を見つけ、要素の個数に着目する。 ②同じ個数の集合を見つけ、「ろく」「しち」…「じゅう」の数詞を対応させる。 ③各要素の数や数図に「6」…「10」の数字を対応させる。 ④具体物を数える練習をする。 ⑤6～10の数字の書き方を知り、数字を書く練習をする。(p.16～17) 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・ 6～10 の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけることができる。</p> <p>①p.18～19</p>	1	<p>①p.18 の絵を見て、数量を数えて数字を書く。また、「上のカエルが 3 びきと下のカエルが 3 びきで、カエルは 6 びき」などのように、集合を構成的に表す。</p> <p>②6～10 の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を互いに対応させる。(p.19 上段)</p> <p>③6～10 の数について、p.19 下段の線結びを通して、具体物、半具体物、数図、数字を相互に関連づける。</p>	<p>[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録</p>
(5) い く つ と い く つ ① p.20 ～ 31 6 時 間			
<p>・ 6 の構成を理解する。</p> <p>①p.20～21</p>	1	<p>①ブロックを用いた活動を通して、6 はいくつといくつに分けられるか考える。</p> <p>②6 の構成を捉え、6 はいくつといくつで表す。</p> <p>③数の構成的な見方を活用して、ものの数を数える。</p> <p>④p.30 の上段のような活動に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録</p>
<p>・ 7 の構成を理解する。</p> <p>①p.22～23</p>	1	<p>①ブロックを用いた活動を通して、7 はいくつといくつに分けられるか考える。</p> <p>②7 の構成を捉え、7 はいくつといくつで表す。</p> <p>③数の構成的な見方を活用して、ものの数を数える。</p> <p>④p.30 の上段のような活動に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録</p>
<p>・ 8 の構成を理解する。</p> <p>①p.24～25</p>	1	<p>①数カードを用いた活動を通して、8 の構成を考える。</p> <p>②8 の構成を捉え、8 はいくつといくつで表す。</p> <p>③数の構成的な見方を活用して、ものの数を数える。</p> <p>④p.30 の上段のような活動に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録</p>
<p>・ 9 の構成を理解する。</p> <p>①p.26～27</p>	1	<p>①数カードを用いた活動を通して、9 はいくつといくつに分けられるか考える。</p> <p>②9 の構成を捉え、9 はいくつといくつで表す。</p> <p>③数の構成的な見方を活用して、ものの数を数える。</p> <p>④p.30 の上段のような活動に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録</p>
<p>・ 10 の構成を理解する。</p> <p>①p.28～29</p>	1	<p>①ブロックを用いて、10 の構成や 10 に対する補数を考える。</p> <p>②10 の構成を捉え、10 はいくつといくつで表す。</p>	<p>[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録</p>

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 10の構成の理解を確実にする。 <p>①p.30～31</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①p.30 上段の, 10 に対する補数を言う活動に取り組む。 *デジタルコンテンツ設定有 ②p.30 下段の, 10 を合成する活動に取り組む。 ③数の構成的な見方を活用して, ものの数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
(6) おおきさをくらべよう ① p.32 ~ 33 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 1～10の数について, 大小を比較することができ, その系列を理解する。 <p>①p.32～33</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①数図カードや数カードによる数の大小比較をする。 ②1 個～10 個の, 少ない順に並んだブロックを見て, それぞれのブロックの数を数字で書く。 ③数カードによる数の大小比較を基に 1～10 までの数字を並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
(7) 0 というかず ① p.34 ~ 35 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 1 つもないことを 0 と表すことを理解する。 10 までの数の系列について多面的にみることが出来る。 <p>①p.34～35</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①輪投げの結果を見て, 0 という数について知る。 ②2 ずつ交互に唱えたり, 大きい数から小さい数の順に唱えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	2. なんばんめ			教科書のページ	①p.36～39
配当時数	2 時間	活動時期	5 月中旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(イ), イ(ア) B(1)ア(ウ)

単元の目標		数を用いた順序の表し方を理解し、基点に着目して順序を考える力を養うとともに、数を用いて順序を表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	数を用いた順序や位置の表し方を理解し、数を用いて順序や位置を表すことができる。
	思考・判断・表現	数を順序や位置を表すものとしてみて、基点に着目して順序や位置を考え、数を用いて順序や位置を表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	数を用いて順序や位置を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) なんばんめ		① p.36 ～ 39	2 時間
・数は順序を表す際にも用いられることを知り、前後に関わる順序の表し方を理解する。 ① p.36～37	1	①短距離走の順位を、数を用いて表す。 ②じゃんけん列車の絵を見て、前後に関わる順序を数で表す。 ③集合数と順序数の違いを意識しながら、p.37 下段の色をぬる。 ④教室の中にあるものなど、身近な具体物を使って、数を用いて順序や位置を表す練習をする。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・上下、左右に関わる順序や位置の表し方を理解する。 ①p.38～39	1	①p.38 の動物の絵を見て、上下に関わる位置を数で表す。 ②p.38 の机の上の果物を見て、左右に関わる位置を数で表す。 ③p39 の絵を見て、パンダの位置の表し方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	どのように かわるかな			教科書の ページ	①p.40～41
配当時数	1 時間	活動時期	5 月中旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ) (ク), イ(ア) D(1)ア (ア)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 数の構成について、数の関数的な見方に気づき、数の変わり方を説明することができる。 ①p.40～41	1	①6の構成について、ヒヨコが1増えると卵が1減るという関係を捉える。 ②6の構成についてまとめ、●が1増えると○が1減るという関数的な見方に触れ、説明する。 ③7の構成についてまとめ、●が1増えると○が1減るという関数的な見方に触れ、説明する。	[思判表]発言・記録

単元名	しあげよう			教科書の ページ	①p.42～43
配当時数	1 時間	活動時期	5 月中旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(エ)(ク)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 10までの数について数を多様にみてきたことをふりかえり、理解を確実にする。 ①p.42～43	1	①数の構成や数を数える問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	かずを さがそう			教科書の ページ	①p.44
配当時数	—	活動時期	5 月中旬	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりから、10までのものの数を探すことを通して、数の理解を深める。 ①p.44	—	①教室の中にあるものなどで、10までのものを探し数を数える。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	3. あわせていくつ ふえるといくつ			教科書のページ	②p.2～12
配当時数	8時間	活動時期	5月下旬～ 6月上旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(エ) (2)ア(ア) (イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を理解し、数量の関係に着目して加法の意味や加法計算の仕方を考える力を養うとともに、加法の意味や加法計算の仕方を操作や式に表して考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	合併や増加など、加法が用いられる場合について知り、加法の意味を理解し、和が10以内の加法計算が確実にできる。
	思考・判断・表現	加法の意味に着目し、合併や増加などの場面を加法の式に表し、その計算の仕方を1位数の構成や操作などを用いて考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	加法の意味や加法計算の仕方について、数構成や操作などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) あ わ せ る		② p.2 ～ 4	2 時 間
・2つの数量の合併の場合について、加法の意味や、式の表し方を理解する。 ②p.2～3	1	①〔プロローグ〕クッキーをお皿に入れている絵や、ジャガイモをかごに入れている絵を見て、あわせる場面であることを確認する。 ②金魚を水槽に入れている絵を見て、合併の場面であることを確かめ、ブロック操作で表す。 ③ブロック操作で合併の場面を表す。 ④合併の場面を加法の式に表したり、式を読み取り場面を選んだりすることを通して、式は場面を表していることを確認する。 ⑤用語「たしざん」を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・合併の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。 ②p.4	1	①合併の場面を加法の式に表し、答えを求める。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) ふ え る		② p.5 ~ 9	3 時 間
<ul style="list-style-type: none"> ・数量の増加の場合について、加法の意味や、式の表し方を理解する。 ・増加の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。 <p style="text-align: right;">②p.5~6</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① [プロローグ] クッキーをお皿に入れている絵や、ジャガイモをかごに入れている絵を見て、もともとあったものに後から加えて増やす場面であることを確認する。 ② 金魚を水槽に入れている絵を見て、増加の場面であることを確かめ、ブロック操作で表す。 ③ ブロック操作で増加の場面を表す。 ④ 増加の場面を加法の式に表す。 ⑤ 加法の意味を統合する。 ⑥ 増加の場面を加法の式に表したり、式を読み取り場面を選んだりすることを通して、式は場面を表していることを確認する。 ⑦ 増加の場面を加法の式に表し、答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> ・増加の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。 ・和が 10 以内の加法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・文章題の解決を通して、加法の意味理解を深める。 <p style="text-align: right;">②p.7~8</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 増加の場面を加法の式に表し、答えを求める。 ② 和が 10 以内の加法計算をする。 ③ 問題文を読み、合併や増加の場面をとらえ、立式、解決をする。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> ・加法の計算能力を伸ばす。 <p style="text-align: right;">②p.9</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 計算カードを使って、和が 10 以内の加法計算の練習をする。 *デジタルコンテンツ設定有 ② 被加数と加数の並び方を見て空欄のカードを考えたり、同じ答えのカードを探したりする活動を通して、1 つの数を 2 つの数の和としてとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
(3) 0 の た し ざ ん		② p.10	1 時 間
<ul style="list-style-type: none"> ・0 を含む加法の計算の意味を理解する。 <p style="text-align: right;">②p.10</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 2 回の玉入れゲームの合計を求める場面を、0 を含む加法の式に表す。 ② 0 を含む式から、玉入れゲームの結果を考えて図に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(4) おはなしづくり		② p.11	1 時間
・加法の意味理解を基にして、式を読み取ってお話をつくり、説明することができる。 ②p.11	1	①p.11の絵を見て、いろいろな観点で合併や増加の場面をとらえ、4+3の式になるお話をつくる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
ま と め		② p.12	1 時間
・学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。 ②p.12	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	②p.13
配当時数	—	活動時期	6月上旬	学習指導要領の内容 —

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 ②p.13	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	4. のこりは いくつ ちがいは いくつ		教科書の ページ	②p.14～25
配当時数	9 時間	活動時期	6 月中旬～下 旬	学習指導要 領の内容
				A(1)ア(エ) (2)ア(ア) (イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		減法の意味と被減数が 10 以内の減法計算の仕方を理解し、数量の関係に着目して減法の意味や減法計算の仕方を考える力を養うとともに、減法の意味や減法計算の仕方を操作や式に表して考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	求残や求補、求差など、減法が用いられる場合について知り、減法の意味を理解し、被減数が 10 以内の減法計算が確実にできる。
	思考・判断・表現	減法の意味に着目し、求残や求補、求差などの場面を減法の式に表し、その計算の仕方を数の構成や操作などを用いて考え、表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	減法の意味や減法計算の仕方について、数構成や操作などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) へ る	② p.14	～ 18	4 時 間
・ 求残の場合について、減法の意味や、式の表し方を理解する。 ②p.14～15	1	①鉛筆を筆箱から取っている絵や、チョウが飛んでいく絵を見て、数が減る場面であることを確認する。 ②金魚を水槽から出している絵を見て、求残の場面であることを確かめ、ブロック操作で表す。 ③ブロック操作で求残の場面を表す。 ④求残の場面を減法の式に表す。 ⑤求残の場面を減法の式に表したり、式を読み取り場面を選んだりすることを通して、式は場面を表していることを確認する。 ⑥用語「ひきざん」を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 求残の場面を減法の式に表し、答えを求めることができる。 ②p.16	1	①求残の場面を減法の式に表し、答えを求める。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 被減数が 10 以内の減法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・ 求補の場合について、減法の意味を理解する。 ②p.17	1	①被減数が 10 以内の減法計算をする。 ②ウサギが並んでいる絵を見て、全体の数と白いウサギの数から黒いウサギの数を求める場面であることをとらえ、答えの求め方を考える。 ③ブロック操作で求補の意味を表す。 ④減法の意味を統合する。 ⑤求補の場面を減法の式に表す。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・減法の計算能力を伸ばす。 ②p.18	1	①計算カードを使って、被減数が10以内の減法計算の練習をする。 *デジタルコンテンツ設定有 ②被減数と減数の並び方を見て空欄のカードを考えたり、同じ答えのカードを探したりする活動を通して、1つの数を2つの数の差としてとらえる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 0 の ひ き ざ ん ② p.19 1 時 間			
・0を含む減法の計算の意味を理解する。 ②p.19	1	①残ったカードの数を求める事象を、0を含む減法の式に表し、その意味を理解する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) ち が い ② p.20 ~ 23 2 時 間			
・求差の場合について、減法の意味を理解する。 ②p.20~21	1	①折り紙が2列に並んでいる絵を見て、1対1対応によって2量の多少を確かめ、その差の求め方を考える。 ②ブロック操作で求差の意味を考える。 ③減法の意味を統合する。 ④求差の場面を減法の式に表す。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・文章題の解決を通して、求差の意味理解を深める。 ②p.22~23	1	①問題文や絵から、「どちらが何個多い」、「○と△の数の違いは何個」の求答事項について考える。 ②ブロック操作で求差の場面であることを確かめ、減法の式に表す。 ③絵に線をひくなど1対1対応して、答えを確かめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) お は な し づ く り ② p.24 1 時 間			
・減法の意味理解を基にして、式を読み取ってお話をつくり、説明することができる。 ②p.24	1	①p.24の絵を見て、いろいろな観点で求残、求補、求差の場面をとらえ、6-4の式になるお話をつくる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
ま と め ② p.25 1 時 間			
・学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。 ②p.25	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	5. どちらがながい			教科書のページ	②p.26～31
配当時間	5時間	活動時期	7月上旬～中旬	学習指導要領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		長さの比較などの活動を通して、長さや測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるものの長さについて任意単位などにより比較する力を養うとともに、長さについての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	長さについての基礎的な意味や、比較の方法、任意単位による測定の方法を理解し、長さについての基礎的な感覚を身につけ、直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、長さを比べることができる。
	思考・判断・表現	身の回りにあるものの長さに着目して、直接比較や間接比較、任意単位による長さの比べ方を考えたり、任意単位により長さを数値で表したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心を持ち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) どちらがながい	② p.26 ~ 31	5時間	
・身の回りにあるものの長さを、直接比較や間接比較の方法で比べることができる。 ②p.26～28	1	① [プロローグ] p.26の高さや長さを比べている写真を見て、身の回りにあるものの長さについての関心・感覚を引き出す。 ②2本の鉛筆の長さの比べ方を考える。 ③ストローとリボンの長さの比べ方を考える。 ④直接比べることのできない長さ（便箋や色鉛筆ケースの縦、横の長さ）の比べ方を考える。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①長さの直接比較の仕方（一方の端をそろえて、曲がっているものはまっすぐに伸ばす）をまとめる。 ②便箋を折ったり、媒介物を用いたりすることによって、直接比べることのできない長さを比べられることをまとめる。	[知技]発言・行動観察
・前時までの学習をふまえ、身の回りにあるものの長さを間接比較の方法で比べることができる。 ②p.29	1	①紙テープに写し取った長さを黒板に貼って比べる。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・身の回りにあるものの長さは、任意単位のいくつ分としてとらえることで、数として表したり、比較したりできることを理解する。 ②p.30</p>	1	<p>①p.30の写真を見て話し合い、机の縦と横の長さの比べ方を考える。 ②身の回りにあるものの長さを、指の幅や色鉛筆などを単位として「いくつ分」で表す。 ③任意単位を使うと、長さを数で表し、比べられることをまとめる。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録</p>
<p>・任意単位による長さの比較についての理解を深める。 ②p.31</p>	1	<p>①電車の長さを、車両の数で表す。 ②身の回りにあるものの長さを、ますを単位として「いくつ分」で表す。 ③長さの差も、ますのいくつ分で表せることを確認する。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察</p>

単元名	6. わかりやすく せいりしよう			教科書のページ	②p.32～34
配当時間	2 時間	活動時期	9 月上旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) D(1)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		ものの個数について簡単な絵や図に表す方法を理解し、データの個数を簡単な絵や図に表し、それらの特徴を読み取る力を養うとともに、簡単な絵や図を用いてデータの個数を表したり、捉えたりしたことを振り返り、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	ものの個数を種類ごとに分類整理し、簡単な絵や図を用いて表したり読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	データの個数に着目し、身の回りの事象について簡単な絵や図を用いて特徴を捉えている。
	主体的に学習に取り組む態度	簡単な絵や図を用いて、データの個数を表したりその特徴を捉えたりした過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) わかりやすく	せいりしよう	② p.32 ~ 34	2 時間
・ものの個数を種類ごとに整理して、簡単な絵や図に表すことができる。 ②p.32～33	1	①つりゲームの結果を見て、種類ごとの個数に関心を持つ。 ②種類ごとの個数を、整理する方法を考える。 ③絵や図の大きさを揃えて表すことを確認する。 ④長さの学習を踏まえ、端を揃えて表すことを確認する。 ⑤つりゲームの結果を、p.33 の図に表す。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・簡単な絵や図から、データの個数の特徴を読み取ることができる。 ②p.34	1	①つりゲームの結果を表した図を見て、個数の多少を比べたり、個数を読み取ったりする。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	②p.35
配当時間	—	活動時期	9 月上旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 ②p.35	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	7. 10 より おおきい かず			教科書の ページ	②p.36～47
配当時数	9 時間	活動時期	9 月上旬～中 旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ) (エ)(オ)(キ)(ク), イ (ア) (2)ア(エ), イ(ア)

単元の目標		40 までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、10 をひとまとまりにして数の数え方などを考える力及び数の構成に着目して数の計算の仕方を考える力を養うとともに、数で表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	40 までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解し、40 までの数を数え数字を読んだり書いたり、20 までの数の構成を加法や減法の式に表すことができる。
	思考・判断・表現	10 のまとまりに着目し、40 までの数の数え方や読み方、書き方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成や既習の計算を活用して、20 までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、言葉やブロックなどで表現したりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	数の構成を活用して数の数え方や加減計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 10 より おおきい かず		② p.36 ～ 43	6 時間
・ 20 までの数の数え方、唱え方を理解する。 ②p.36～38	1	① [プロローグ] p.36 を見て、さらさんとあつとさんの拾ったドングリの数を数え、既習を確認する。 ②まさしさんのドングリの数を数え、10 個より多いという見通しをもつ。 ③p.37 の、まさしさんとみきさんのドングリの数を数える。 ④まさしさんのドングリは 10 と 3 で「じゅうさん」と読み、「13」と書くことを確認する。 ⑤みきさんのドングリは 10 と 6 で「じゅうろく」と読み、「16」と書くことを確認する。 ⑥1 位数を、他の 2 つの数の和としてみたことをおさえ、「10 といくつ」という見方を確認する。 ⑦20 までの数を数え、数詞を唱える。	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
・ 20 までの数の読み方、書き方を理解する。 ②p.39	1	①写真を見て、あめや卵の数を数える。 ②10 と 9 で 19, 10 と 10 で 20 と書き表す。 ③下段の図を見て、20 までの数を読んだり書いたりする。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・ 20 までの数の数え方の理解を深める。</p> <p>②p.40</p>	1	<p>①写真を見て, 10 といくつかになっている卵の数を数える。</p> <p>②5 個で 1 パックになっているトマトや, 2 個で 1 パックになっているヨーグルトの数を, 工夫して数える。</p> <p>③折鶴の数を, 10 のまとまりをつくって数える。</p> <p>④バス停に人が並んでいる絵を見て, 20 までの数の順序数について考える。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察</p> <p>[思判表] 発言・記録</p>
<p>・ 20 までの数の構成を理解する。</p> <p>②p.41</p>	1	<p>①20 までの数の分解について, ブロックによる操作活動などを通して数で表す。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察</p> <p>[思判表] 発言・記録</p>
<p>・ 数直線を知り, 数直線で数が表せることや, 20 までの数についての大小や系列を理解する。</p> <p>②p.42～43</p>	1	<p>①図を見て, カエルやネコ, ウサギの跳んだ距離と位置を調べ, 数直線上の動物の位置を数で表す。</p> <p>②すぐろくと数直線の共通点, 相違点を考え, 数直線の特徴や性質を確認する。</p> <p>③数直線を手がかりにして, 20 までの数の大小を考える。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察</p> <p>[思判表] 発言・記録</p>
	1	<p>①数直線を手がかりにして, 20 までの数の系列を考える。</p> <p>②数直線を見ながら, 基準の数との大小, 方向などを考える。</p> <p>③2 とびで唱えたり, 大きい数から小さい数の順に唱えたりする。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察</p> <p>[思判表] 発言・記録</p>
<p>(2) か ず と し き ② p.44 ~ 45 2 時 間</p>			
<p>・ 20 までの数の構成を和や差でとらえ, 10 と 1 位数の加法とその逆の減法をすることができる。</p> <p>②p.44</p>	1	<p>①数の構成 (10 といくつか) に基づいて, $10+5$ などの式に表す。</p> <p>②数の構成 (10 といくつか) に基づいて, $15-5$ などの式に表す。</p> <p>③10 と 1 位数の加法とその逆の減法の計算の仕方を考える。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察</p> <p>[思判表] 発言・記録</p>
<p>・ 20 までの数の構成を和や差でとらえ, $12+3$, $15-3$ などの計算ができる。</p> <p>②p.45</p>	1	<p>①20 までの数について, その数の構成に着目して, $12+3$ や $15-3$ などの式に表し, 計算の仕方を考える。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察</p> <p>[思判表] 発言・記録</p>

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) 20 より おおきい かず		② p.46 ~ 47	1 時間
<p>・40までの数の数え方, 読み方, 書き方を理解する。 ②p.46~47</p>	1	<p>①写真を見て, 卵や数え棒, 色紙, ペンの数を数える。 ②卵は20と3で「にじゅうさん」と読み, 「23」と書くことを確認する。 ③20と6で26と書き表す。 ④色紙は10が3こで「さんじゅう」と読み, 「30」と書くことを確認する。 ⑤30と4で34と書き表す。 ⑥40までの数について, 数え棒の数を数えたり, カレンダーの数を讀んだりする。</p>	<p>[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察</p>

単元名	8. なんじ なんじはん			教科書のページ	②p.48～49
配当時間	1時間	活動時期	9月中旬	学習指導要領の内容	C(2)ア(7), イ(7)

単元の目標		何時、何時半の時刻の読み方を理解し、時計の短針と長針の関係を基に時刻の読み方や表し方を考える力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	何時、何時半の時刻の読み方を理解し、何時、何時半の時刻を読んだり、時計で表したりすることができる。
	思考・判断・表現	短針と長針の関係を捉えて、それぞれの針の位置を基に時刻の読み方を考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻に関心を持ち、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) なんじ なんじはん ②p.48～49 1時間			
・時計を見て、何時、何時半を読み取ることができる。 ②p.48～49	1	①絵を見て、1日の生活と関連づけながら何時、何時半の時刻を読む。 ②模型時計を使って、表された時刻を読んだり、指示された時刻を表したりする（短針の読み取りや、短針の動き方の確認に重点を置く）。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	②p.50
配当時間	—	活動時期	9月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 ②p.50	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	9. 3つの かずの けいさん		教科書の ページ	②p.51～54
配当時数	3 時間	活動時期	9 月中旬～下 旬	学習指導要 領の内容
				A(1)ア(イ) (2)ア(ア) (イ)(ウ)(エ), イ(ア)

単元の目標		3つの数の加減計算の仕方を理解し、3つの数の加減計算の仕方を操作や式を用いて考える力を養うとともに、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3つの数の加減計算の場面を1つの式に表せることを理解し、その計算が確実にできる。
	思考・判断・表現	2つの数の加法や減法を基にして、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	3つの数の加減計算について、式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 3つの かずの けいさん ②p.51～54 3時間			
・3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。 ②p.51～52	1	①p.51の絵を見て、式を考える。 ②3つの数の加法の場面を1つの式に表す。 ③2つの数の加法計算を基にして、3つの数の加法計算の仕方を考え、計算する。 ④場面を1つの式に表すよさを確認する。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・3つの数の減法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。 ②p.53	1	①p.53の絵を見て、式を考える。 ②3つの数の減法の場面を1つの式に表す。 ③2つの数の減法計算を基にして、3つの数の減法計算の仕方を考え、計算する。 ④減法の式も、3つの数の計算を1つの式に表せることを確認する。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・3つの数の加減混合の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え、説明することができる。 ②p.54	1	①p.54の絵を見て式を考え、解決する。 ②3つの数の加減混合計算の場面を1つの式に表す。 ③3つの数の加減混合計算の仕方を考え、計算する。 ④4つの数の加減計算をする。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

単元名	10. どちらが おおい			教科書の ページ	②p.55～58
配当時間	4 時間	活動時期	9 月下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるもの体積について任意単位などにより比較する力を養うとともに、体積についての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	体積についての基礎的な意味や、保存性、比較の方法、任意単位による測定の方法を理解し、体積についての基礎的な感覚を身につけ、直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、身の回りに入る入れ物に入る水の体積を比べることができる。
	思考・判断・表現	身の回りに入る入れ物に入る水の体積に着目して、直接比較や間接比較、任意単位による体積の比べ方を考えたり、任意単位により体積を数値で表したりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りに入る入れ物に入る水の体積に関心を持ち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) どちらが おおい ②p.55～58 4 時間			
・身の回りに入るもの体積に関心を持ち、直接比較の方法で比べることができる。 ②p.55～56	1	① [プロローグ] 水を形状の異なる容器に入れても、体積が変わらないことを確認する。 ②形の異なる 2 つの容器に入る水の体積の大小を比べる方法を考える。 ③直接比較の方法で体積を比べる。	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
・身の回りに入るもの体積を、間接比較の方法で比べることができる。 ②p.56～57	1	①3つの容器に入る水の体積の大小を比べる方法を考える。 ②間接比較の方法で体積を比べる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・身の回りに入るもの体積を、任意単位を用いて、数として表したり、比較したりする方法を考え、説明することができる。 ②p.57～58	1	①水の体積を数で比べる方法を考える。 ②容器に入っている水の体積を、コップを単位として「いくつ分」で表す。 ③長さの学習を振り返り、任意単位で比較するよさを確認する。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・任意単位による長さの比較についての理解を深める。 ②p.58	1	①任意単位による比較の方法で、身の回りのいろいろな入れ物に入る水の体積を比べる。	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	②p.59
配当時数	—	活動時期	9月下旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 <p>②p.59</p>	—	<ul style="list-style-type: none"> ①「おぼえているかな？」に取り組む。 ②教師が示した1位数が書いてあるカードを見て、10に対する補数を答える活動に取り組む。 	[知技]発言・行動観察

単元名	11. たしざん			教科書のページ	②p.60～69
配当時間	10 時間	活動時期	10 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(エ) (2)ア(ア) (イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「10 といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。
	思考・判断・表現	10 のまとまりに着目し、1 位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	1 位数どうしの加法計算の仕方について、「10 といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 9+4 の けいさん ②p.60～64 4 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加数分解）を理解する。 ②p.60～62 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① [プロローグ] p.60 を見て、「あわせてなんこ」を求める場面であることから、加法であることを考え、立式する。既習の加法計算を振り返る。 ② p.61 を見て、9+4 は未習の計算であることを確認する。 ③ 9+4 の計算の仕方を考える。 	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 操作や図を用いて、9+4 の計算の仕方を説明する。 ② 加数分解による計算方法をまとめる。 ③ 加数分解の方法で 9+3 の計算をする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習をふまえ、1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。 ②p.63～64 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 被加数 8 や 7 の場合の計算の仕方を考える。 ② 加数分解すると、10 のまとまりがつくりやすいことについてまとめる。 	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 被加数が 9～6 の場合の計算練習に取り組む。 	
(2) 3+9 の けいさん ②p.65～66 2 時間			
1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。 ②p.65～66	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 場面から加法であると判断して、立式する。 ② 3+9 の計算の仕方を考える。 ③ 被加数を分解しても、10 のまとまりをつくれることをまとめる。 	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分が計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。 ② 計算練習に取り組む。 ③ 文章題を解決する。 	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) かあど れんしゅう ②p.67～68 3時間			
・加法の計算能力を伸ばす。 ②p.67～68	3	①計算カードを用いたいろいろな活動を通して、練り上がりのある1位数どうしの加法計算の練習をする。 *デジタルコンテンツ設定有 ②答えが12になるカードを集めたり、同じ答えのカードを並べたりして、数の並び方の規則性を見出し、数の関数的な見方に触れる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ ②p.69 1時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。 ②p.69	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	②p.71
配当時数	—	活動時期	10月中旬	学習指導要領の内容 —

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 ②p.71	—	①「おぼえているかな？」に取り組む ②友達が示した1位数が書いてあるカードを見て、10に対する補数を答える活動に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	12. かたちあそび			教科書のページ	②p.72～75
配当時数	4 時間	活動時期	10 月下旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		身の回りにあるものの形について、基本的な立体図形の特徴や機能を捉え、立体図形についての理解の基礎となる感覚を豊かにしながら、立体図形の形に着目して特徴や機能を捉えたり、構成や分解を考えたりする力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	身の回りにあるものの形について、その概形や特徴、機能を捉えたり、構成や分解をしたりするとともに、図形についての豊かな感覚をもっている。
	思考・判断・表現	身の回りにあるものの形に着目し、図形の特徴や機能を捉えたり、構成や分解をしたりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの形について、観察や構成、分解したり、形の特徴や機能を捉えたりした過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) かたちをつくろう ②p.72～73 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 立体図形に親しむ。 箱などの身の回りの具体物の概形をとらえ、立体図形の特徴や機能を知る。 ②p.72～73	2	①作りたい乗り物や建物などを決め、それらの概形や特徴をとらえる。 ②空き箱や空き缶を積んだり重ねたりして作る。 ③いろいろな形のものを積んだり転がしたりして、立体図形の特徴や機能を調べる。	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
(2) かたちのとくちようをまとめよう ②p.74 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 箱などの身の回りの具体物から形を捨象し、立体図形の特徴をまとめる。 ②p.74	1	①前時の活動を通して分かった形の特徴や機能をもとに、立体図形を分類したり、形あてをしたりする。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
(3) かたちをうつしてえをかこう ②p.75 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 立体図形を構成する面の形に着目して、平面図形を見出し、説明することができる。 ②p.75	1	①教科書の写真を見て、どの箱の、どの面を写し取ったのかを話し合う。 ②立体図形の面の形を見て、身の回りのものの形と同じものを見出し、その形を生かした絵をかき、発表し合う。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

単元名	13. ひきざん			教科書のページ	②p.76～85
配当時数	10 時間	活動時期	11 月上旬～下旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(エ) (2)ア(ア) (イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10 といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。
	思考・判断・表現	数の構成に着目し、11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10 といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 13 - 9 の けいさん		② p.76 ~	80 4 時間
<ul style="list-style-type: none"> 11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。 ②p.76～78	1	① [プロローグ] p.76 を見て、「のこりはなんこ」を求める場面であることから、減法であることを考え、立式する。既習の減法計算を振り返る。 ②p.77 を見て、13-9 は未習の計算であることを確認する。 ③13-9 の計算の仕方を考える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
	1	①操作や図を用いて、13-9 の計算の仕方を説明する。 ②減加法による計算方法をまとめる。 ③減加法の方法で 12-9 の計算をする。	
<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習をふまえ、11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。 ②p.79～80	1	①減数が 8 や 7 の場合の計算の仕方を考える。 ②10 のまとまりから 1 位数をひくとよいことについてまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	①減数が 9～5 の場合の計算練習に取り組む。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 12 - 3 の けいさん	② p.81 ~ 82	2 時間	
・ 11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。 ②p.81~82	1	①場面を読み取り、立式をする。 ②12-3の計算の仕方を考える。 ③減数を分解して計算してもよいことを確認し、減々法による計算方法についてまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①自分が計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。 ②計算練習に取り組む。 ③文章題を解決する。	
(3) かあどれんしゅう	② p.83 ~ 84	3 時間	
・ 減法の計算能力を伸ばす。 ②p.83~84	3	①計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習をする。 *デジタルコンテンツ設定有 ②答えが8になるカードを集めたり、同じ答えのカードを並べたりして、数の並び方の規則性を見出し、数の関数的な見方に触れる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
ま と め	② p.85	1 時間	
・ 学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。 ②p.85	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	どんな けいさんになるのかな？		教科書のページ	②p.86~87
配当時数	2 時間	活動時期	12 月上旬	学習指導要領の内容 A(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ 加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 ②p.86~87	1	①問題文を読み、それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①絵を見て作問し、解決する。	

単元名	けいさんぴらみっど			教科書のページ	②p.88～89
配当時数	2 時間	活動時期	12 月上旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(エ) (2)ア(ア) (イ)(ウ)(エ), イ(ア)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習事項を総合的に適用して問題を解決することを通して、既習内容の理解を確認する。 ②p.88～89	1	①ピラミッドの計算に取り組み、既習の加減計算の練習をする。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①p.89 下の問題に取り組み、数は2つの数の和や差としてとらえられることを確認する。	

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	②p.90
配当時数	—	活動時期	12 月上旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 ②p.90	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	14. おおきい かず		教科書のページ	②p.91～105
配当時数	14 時間	活動時期	1 月上旬～下旬	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク), イ(ア) (2)ア(エ), イ(ア)

単元の目標		2 位数や簡単な 3 位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、10 を単位として数を捉える力及び数の構成に着目して数の計算の仕方を考える力を養うとともに、数で表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	2 位数や簡単な 3 位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解し、120 程度までの数を数え数字を読んだり書いたり、2 位数の数の構成を加法や減法の式に表すことができる。
	思考・判断・表現	既習の数の表し方の仕組みを基に、120 程度までの数の数え方や読み方、書き方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成や既習の計算を活用して、簡単な場合の 2 位数の加減計算の仕方を考え、言葉やブロックなどで表現したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	数の構成を活用して数の数え方や加減計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) おおきい かずを かぞえよう ②p.91～96 5 時間			
・ 2 位数の数え方、唱え方や、位取りの原理と記数法を理解する。 ②p.91～92	1	①p.91 の写真を見て、種の数の数え方を考える。 ②数えた数の表し方について話し合う。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①p.92 を見て、10 のまとまりとばらに分けて表せばよいことをまとめ、位取り記数法を知る。	
・ 2 位数の数え方の理解を確実にする。 ②p.93～95	1	①p.93 の卵やペン、シールの数を数える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①p.94～95 のペットボトルのふたなどの数を、印をつけるなどの工夫をして数える。	
・ 2 位数の構成を理解する。 ②p.96	1	①ブロックや位取り板で数を表す。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 99 より おおきい かず ②p.97～98 1 時間			
・ 100 の唱え方、読み方、書き方を理解する。 ②p.97～98	1	①p.97 の落ち葉の数を数え、99 の次は 100 と書き表すことを知る。	[知技]発言・行動観察
(3) かずの ならびかた ②p.99～100 2 時間			
・ 数表から数の並び方の規則性を捉え、数の規則性や構成を説明することができる。 ②p.99	1	①0～100 の数表を見て、気づいたことを発表する。 ②数表の数の並び方の規則性についてまとめる。 ③数表の数の並び方を用いて、数をあてる活動に取り組む。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 100 までの数の系列や大小を理解する。 <p>②p.100</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①数直線を見て、100 までの数と対応づける。 ②数直線を用いて数の系列や大小を確かめる。 	[知技] 発言・行動観察
(4) 100 より おおきい かず ②p.101 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 具体物を数えることを通して、120 程度までの数の唱え方や系列を理解する。 <p>②p.101</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①p.101 の落ち葉の写真を見て、100 とあといくつあるかを確かめる。 ②100 と 3 で「ひゃくさん」と読み、「103」と書くことを知る。 ③120 程度までの数の唱え方、並び方を知る。 	[知技] 発言・行動観察
(5) かずと しき ②p.102~104 3 時間			
※本小単元の内容は「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。			
<ul style="list-style-type: none"> 2 位数の数の構成(何十といくつ)を基にした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。 <p>②p.102</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①数の構成(何十といくつ)に基づいて、$30+4$、$34-4$ などの式に表す。 ②何十と 1 位数の加法とその逆の減法の計算の仕方を考える。 	[知技] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりや繰り下がりのない 2 位数と 1 位数との加減計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。 <p>②p.103</p>	1	①2 位数を位ごとに分解してとらえて一の位の数に着目し、 $25+3$ や $28-3$ などの計算の仕方を考える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 2 位数の数の構成(10 がいくつ)を基にした何十±何十の計算の仕方を理解し、その計算ができる。 <p>②p.104</p>	1	①数の構成(10 がいくつ)に基づいて、 $30+20$ や $50-20$ などの式に表し、計算の仕方を考える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
まとめ ②p.105 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの数に興味をもち、2 位数の理解を確実にする。 <p>②p.105</p>	2	<p>[いかしてみよう]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①グループで「かずさがしビンゴ」に取り組む。 ②学校内にあるものの中から、120 程度までのものを探し、その数を数える。 ③十の位の数字に着目しながら、かずさがしビンゴに取り組む。 	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察

単元名	15. どちらが ひろい			教科書の ページ	②p.106～107
配当時数	1 時間	活動時期	1 月下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		面積の比較などの活動を通して、面積とその測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるもの面積について任意単位などにより比較する力を養うとともに、面積についての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	面積についての基礎的な意味や比較の方法、任意単位による測定の方法を理解し、面積についての基礎的な感覚を身につけ、直接比較や任意単位による測定などによって、身の回りにあるものの面積を比べることができる。
	思考・判断・表現	身の回りにあるものの面積に着目して、直接比較や任意単位による面積の比べ方を考えたり、任意単位により面積を数値で表したりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの面積に関心をもち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) どちらが ひろい ②p.106～107	1 時間		
・身の回りにあるものの面積に関心をもち、直接比較やますの数で比べることができる。 ②p.106～107	1	①レジャーシートなど、身の回りのものの面積を比べる。 ②面積の直接比較の方法を知り、実際に比較してみる。 ③敷き詰められたタイルの面積を、タイルの数で比べる。 ④長さの学習を振り返り、任意単位で比較するよさを確認する。 ⑤陣取り遊びをして、面積をますの数で比べる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	16. なんじなんぷん			教科書のページ	②p.108～110
配当時数	2 時間	活動時期	2 月上旬	学習指導要領の内容	C(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		何時何分の時刻の読み方を理解し、時計の短針と長針の関係を基に時刻の読み方や表し方を考える力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	何時何分の時刻の読み方を理解し、何時何分の時刻を読んだり、時計で表したりすることができる。
	思考・判断・表現	短針と長針の関係を捉えて、それぞれの針の位置を基に時刻の読み方を考えたり、時計盤の目盛りに着目して長針の読み方を工夫して考えたりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻に関心を持ち、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) なんじなんぷん ②p.108～110 2 時間			
・時計を見て、時刻を読み取ることができる。 ②p.108～110	1	①絵を見て、1日の生活と関連づけながら時刻を読む(はじめは、10分刻みや5分刻みを中心に扱うようにする)。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①模型時計を使って、表された時刻を読んだり、指示された時刻を表したりする。 ②長針を5とびで数えて時刻を読んだり、「30分」や「45分」などを基点として時刻を捉えたりする。	

単元名	ビルをつくろう			教科書のページ	②p.111
配当時数	1 時間	活動時期	2 月上旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(エ)(ク), イ(ア) (2)ア(イ)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・数の乗法・除法的構成を理解する。 ②p.111	1	①12枚の色板でどんな長方形のビルができるか考える。 ②できたビルについて話し合う。 ③色板の枚数を変えて、ビルをつくる活動に取り組む。	[思判表]発言・記録

単元名	17. たしざんと ひきざん			教科書のページ	②p.112～119
配当時数	5 時間	活動時期	2 月中旬	学習指導要領の内容	A(2)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面についても加減計算が適用できることを理解し、数量の関係を図に表し計算の意味を考える力を養うとともに、加減の意味を図に表して考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面も加減の式に表せることを理解し、問題を解決することができる。
	思考・判断・表現	数量の關係に着目し、順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面を図や式に表して考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面を図に表して問題を解決した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) たしざんと ひきざん ②p.112～115 2 時間			
・ 順序数を集合数に置き換えると、加減法が適用できることを理解する。 ②p.112～113	1	①①の問題文を読み、場面について考える。 ②図を基に問題の構造をとらえ、順序数を含む場合も加法が適用できることを考える。 ③②の問題文を読み、図を基に問題の構造をとらえ、立式して答えを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 異種の数量を同種の数量に置き換えると、加減法が適用できることを理解する。 ②p.114～115	1	①③の問題文を読み、場面について考える。 ②図を基に問題の構造をとらえ、異種の数量の場合も加法が適用できることを考える。 ③④の問題文を読み、図を基に問題の構造をとらえ、立式して答えを求める。	[知技]発言・行動観察
(2) おおい すくない ②p.116～117 2 時間			
・ 求大の場合について、加法が適用できることを理解する。 ②p.116	1	①問題文を読み、場面について考え、図に表す。 ②図を基に求大の構造をとらえ、立式について考える。 ③適用問題に取り組み、解決する。	[知技]発言・行動観察
・ 求小の場合について、減法が適用できることを理解する。 ②p.117	1	①問題文を読み、場面について考え、図に表す。 ②図を基に求小の構造をとらえ、立式について考える。 ③適用問題に取り組み、解決する。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) ずに かいて かんがえよう ②p.118～119 1時間			
<p>・場面を図に表して問題の構造をとらえ、式や言葉を用いて説明することができる。</p> <p>②p.118～119</p>	1	<p>①問題文を読み、p.118 の図の続きをかく。</p> <p>②図を基に問題の構造をとらえ、問題文の数値に 1 をたした数が答えになることを理解する。</p> <p>③図を用いて 1 の意味について確かめたり、式から他者の考えを読み取って伝え合ったりする。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	18. かたちづくり			教科書のページ	②p.120～124
配当時数	5 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		身の回りにあるものの形について、基本的な平面図形の特徴を捉え、平面図形についての理解の基礎となる感覚を豊かにしながら、平面図形の形に着目して特徴を捉えたり、構成や分解を考えたりする力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	身の回りにあるものの形について、その概形や特徴を捉え、中空のものも中実のものと同じように見られることを理解し、色板や棒を並べていろいろなものの形を構成したり分解したりすることができる。
	思考・判断・表現	身の回りにあるものの形に着目し、図形の特徴を捉えたり、いろいろな形を構成、分解したりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの形について、形の特徴を捉えたり、構成、分解したりした過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) か た ち づ く り		②p.120 ～ 124	5 時 間
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの形の特徴をとらえ、色板を並べていろいろな図形を作る活動を通して、図形の構成を説明することができる。 ②p.120～121	1	①p.120 の絵を見て、形の構成に関心をもつ。 ②直角二等辺三角形の色板を使って、いろいろな形を構成する。 *デジタルコンテンツ設定有 ③色板が 2 枚で三角や四角ができることなど、図形の構成、分解を確認する。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
	1	①4 枚の色板で基本図形を構成する。 ②1 枚だけ色板を動かして形を変えていく活動に取り組む。 ③色板をずらす、回すなどすることで、いろいろな図形を構成、分解できることを確認する。	
<ul style="list-style-type: none"> 決められた枚数の色板を並べて、いろいろな図形を作る活動を通して、図形の特徴についての理解を深める。 ②p.122	1	①決められた枚数の色板で、いろいろな形を作る。	[知技] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 数え棒を並べたり格子点を直線で結んだりして、いろいろな図形を作る活動を通して、形を線でもとらえることができる。 ②p.123～124	1	①前時までに色板で作った形を基に、数え棒を並べて、いろいろな形を作る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	①格子点を直線で結んで、いろいろな形をかく。	

単元名	1ねんの ふくしゅう			教科書の ページ	②p.125～128
配当時数	3時間	活動時期	3月上旬	学習指導要 領の内容	A～D

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 ②p.125～128	3	①問題を解決する。	[知技]発言・行動観察

江戸川区立葛西小学校

単元名	学びの とびら			教科書の ページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容	第 1 学年の内容

目標	時数	学習活動
<p>・「もくじ」「授業のページ」「算数マイノートをつくろう」「新しい算数を使った学習の進め方」のページを使って、教科書の使い方や算数科の学び方、問題解決の方法を共有し、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。</p> <p>上 p.2～7</p>	1	<p>①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることに触れ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み上げられていること、以後の学習へつながることに気づかせる。 また、p.1 下欄を見て、前学年までに働かせ、成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点に触れる。 <p>②「授業のページ」(30分) p.2～3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 <p>③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業のページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートのつくり方を学級で共有する。 <p>④「新しい算数を使った学習の進め方」(3分) p.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「ふりかえりコーナー」(知識のふりかえり)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し、適宜活用するとよいことを知らせる。 <p>※「指導者・保護者のみなさまへ」について</p> <p>これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣(特に家庭での自学自習)を身に付けるためには保護者の理解・協力が必須であると考え掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

単元名	1. わかりやすく あらわそう [グラフと ひょう]		教科書の ページ	上 p.8~11
配当時数	3 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容
				D(1)ア(ア), イ(イ)

単元の目標		簡単な表やグラフについて理解し、データを整理する観点を定め、簡単な表やグラフを通じて特徴を捉え、考察する力を養うとともに、表やグラフを用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	データを整理する観점에着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りの事象に関心を持ち、表やグラフを用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) グラフと ひょう 上 p.8~10 2 時間			
[プロローグ] 上 p.8	1	①p.8 の絵を提示し、昼休みの過ごし方について話し合うことを通して、身の回りにある数量を分類整理して表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・身の回りにある数量を、整理する観点を決めて分類整理し、グラフや一次元表に表すことができる。 上 p.9		①絵を見て、昼休みにしたことごとにグラフにまとめる。 ②昼休みにしたことの人数を数え、表にまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察
・データを整理する観点到着目し、グラフや一次元表を読み取り、そのよさに気付き説明することができる。 上 p.10	1	①グラフや表を読み、そのよさについて話し合う。	[思判表]発言・記録
まとめ 上 p.11 1 時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.11	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	2. たし算のしかたを考えよう [たし算のひっ算]			教科書の ページ	上 p.12~23, 127
配当時数	8 時間	活動時期	4 月中旬～ 5 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		2 位数の加法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の加法計算が、1 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	数の仕組みに着目し、2 位数の加法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数の加法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) たし算(1) 上 p.12~16 3 時間			
[プロローグ] 上 p.12	1	①p.12 の写真を提示し、買い物で代金を求める場面を想定した話し合いを通して、既習の加法計算を振り返るとともに、2 位数どうしの加法計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・2 位数の加法計算の仕方を考えることを通して、加法の筆算の仕方を理解する。 上 p.13~15	1	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②35+12 の計算の仕方を考える。 ③各自の方法を発表し、検討する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・2 位数+1 位数=2 位数(繰り上がりなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.16	1	①32+4 の筆算の仕方を考える。 ②43+5, 7+52, 3+70 の筆算の仕方を考える。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察
(2) たし算(2) 上 p.17~19 3 時間			
・2 位数+2 位数=2 位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。 上 p.17~18	1	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②35+29 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①35+29 の筆算の仕方を考え、まとめる。 ②計算練習をする。	
・2 位数+1, 2 位数=2 位数(繰り上がりあり、答えの一の位に空位あり、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.19	1	①28+32, 28+6, 3+87 の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) たし算の きまり 上 p.20~21 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・加法について交換法則が成り立つことを理解する。 上 p.20~21 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①問題場面から数量の関係をとらえ、テープ図を完成させる。 ②テープ図を基に立式する。 ③$17+24=41$ と $24+17=41$ の2つの式を比べて、気づいたことを発表する。 ④加法計算をして、交換法則を用いて答えを確かめる。 	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.22~23, 127 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.22~23 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> ・【発展】巻末 p.127 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、加法についての理解を深める。 			

単元名	3. ひき算のしかたを考えよう [ひき算のひっ算]		教科書の ページ	上 p.24～35, 127
配当時数	8 時間	活動時期	5 月上旬～下旬	学習指導要 領の内容
				A(2)ア(7)(エ), イ(7)

単元の目標		2 位数の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の減法計算が、1 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	数の仕組みに着目し、2 位数の減法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数の減法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) ひき算(1) 上 p.24～28 3 時間			
[プロローグ] 上 p.24	1	①p.24 の写真を提示し、買い物で残金を求める場面を想定した話し合いを通して、既習の減法計算を振り返るとともに、2 位数どうしの減法計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・2 位数の減法計算の仕方を考えることを通して、減法の筆算の仕方を理解する。 上 p.25～27	1	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②47-15 の計算の仕方を考える。 ③各自の方法を発表し、検討する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・2 位数-1, 2 位数(繰り下がりがなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.28	1	①筆算の仕方をまとめる。 ②計算練習をする。	
・2 位数-1, 2 位数(繰り下がりがなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.28	1	①36-26, 36-32, 36-2 の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。	[知技]発言・行動観察
(2) ひき算(2) 上 p.29～31 3 時間			
・2 位数-2 位数(繰り下がりあり)の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。 上 p.29～30	1	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②47-18 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①47-18 の筆算の仕方を考え、まとめる。 ②計算練習をする。	
・2 位数-1, 2 位数(繰り下がりあり、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.31	1	①40-18, 45-38, 45-8, 40-8 の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) ひき算の きまり 上 p.32~33 1時間			
・減法と加法の関係を理解し、 答えの確かめに用いることができる。 上 p.32~33	1	①問題場面から数量の関係をとらえ、 テープ図を完成させる。 ②テープ図を基に立式し、答えを求める。 ③41-15の答え26に減数の15をたした 結果を被減数と比べる。 ④減法計算をして、減法と加法の関係を 用いて答えを確かめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.34~35, 127 1時間			
・学習内容の定着を確認する とともに、数学的な見方・考 え方を振り返り価値づける。 上 p.34~35	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り 組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.127の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、 減法についての理解を深める。			

単元名	どんな 計算に なるのかな？			教科書の ページ	上 p.36~37
配当時数	2時間	活動時期	5月下旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア), イ(イ)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2位数の加減法を適用して 問題を解決することを通して、 演算を決定する能力を 伸ばす。 上 p.36~37	1	①問題文を読み、どのような式になるかを 考えて解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①絵を見て作問し、友達と問題を出し合 うなどして解決する。	

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	上 p.38
配当時数	—	活動時期	5月下旬	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.38	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	4. 長さを はかって あらわそう [長さの たんい]			教科書の ページ	上 p.39～51
配当時数	9 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、長さについて量の感覚を身に付け、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係、物差しの目盛りの仕組みを理解し、およその見当を付け長さの単位を適切に選択して身の回りのものの長さを測定したり、指定された長さの直線をひいたりすることができる。
	思考・判断・表現	普遍単位の必要性に気付き、身の回りのものの特徴を長さに着目して捉え、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心を持ち、量の感覚を身に付け、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 長さの たんい 上 p.39～47 6 時間			
[プロローグ] 上 p.39～40	1	①p.39 の写真を提示し、3 本の鉛筆の長さの長短を予想し、長さを比較する方法を考えさせ、任意単位の比較では限界があることについての話し合いを通して、長さの測定や表し方について考えるという単元の課題を設定する。	
・ 普遍単位の必要性に気付き、長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、簡易物差しによる測定活動を通して、測定の仕方を身に付ける。 上 p.41～42	1	①普遍単位の必要性に気付き、長さの単位「センチメートル (cm)」を知る。 ②2cm は 1cm の 2 つ分、3cm は 3 つ分、…であることをおさえながら、1cm 目盛りの簡易物差しの目盛りの数を書き込む。 ③1cm 目盛りの簡易物差しで、いろいろなものの長さをはかる。 ④手や指で 10cm の長さをつくり、身の回りから 10cm の長さのものを見つける。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 1cm に満たない長さを表すのに、新たな下位単位の必要性に気づいている。 ・ 長さを表す単位「ミリメートル (mm)」を知り、1cm=10mm の関係を理解する。 上 p.43～44	1	①葉書の縦の長さをはかり、1cm 未満の長さの表し方を考える。 ②1cm を 10 等分した 1 つ分の長さを「1 ミリメートル」といい、「1mm」と書くことを知る。 ③1cm=10mm の関係を確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 物差しの目盛りの読み方を理解し、長さの測定の仕方に習熟する。 上 p.45	1	①物差しの目盛りを読む練習をする。 ②物差しを使って、いろいろなものの長さをはかる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 直線の意味を知り,同じ長さを, $\bigcirc\text{cm}$$\bigcirc\text{mm}$ と, $\bigcirc\text{mm}$ の両方で表すことができる。 上 p.46~47 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「直線」の意味を知る。 ②「センチメートル (cm)」、「ミリメートル (mm)」を用いて,直線の長さを表す。 	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 指定された長さの直線を,物差しを使ってひくことができる。 上 p.47 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①物差しを用いた直線のひき方を練習する。 *デジタルコンテンツ設定有 	[知技]発言・行動観察
(2) 長さの計算 上 p.48 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 長さの加減計算の仕方を理解する。 上 p.48 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①折れ線全体の長さや2本の折れ線の長さの差を,加減計算を適用して求める。 	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.49~51 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し,問題を解決する。 上 p.49 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① [いかしてみよう] 物差しを使って,いろいろなものの長さをはかり,測定結果を記録してまとめ,発表し合う。 ②「ますりんつうしん」を読み,長い直線のひき方について知り,算数への興味・関心を高める。 	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに,数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.50~51 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	5. 100 より 大きい 数を しらべよう [3 けたの 数]			教科書の ページ	上 p.52~67, 128
配当時数	12 時間	活動時期	6 月上旬~下旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) (2)ア(イ), イ(ア)

単元の目標		1000 までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
	思考・判断・表現	10 や 100 のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	10 や 100 のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 数の あらわし方と しくみ 上 p.52~61 8 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 3 位数の読み方や表し方を理解する。 上 p.52~55 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①写真を見て、235 個のクリップの数を工夫して数える。 ②235 の数構成と命数法、記数法を知る。 ③クリップの数を数字で表す。 ④用語「百の位」を知る。 	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①205 個のブロックの数を数字で表す。 ②棒や色紙の数を数字で表す。 ③3 位数を書いたり読んだりする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 数カードを並べて数を表すことを通して、3 位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 上 p.56~57 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3 位数を数カードで表したりする。 *デジタルコンテンツ設定有 	[知技]発言・行動観察
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①3 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ②3 位数の構成を、等式を使って表す。 	
<ul style="list-style-type: none"> 230 などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。 上 p.58 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①10 円玉が 14 枚でどれだけになるかを、10 を単位にして考える。 ②230 円は 10 円玉で何枚になるかを、10 を単位にして考える。 	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 数直線の読み取りを通して、3 位数の大小、順序を理解する。 上 p.59 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 1000 の構成、数の読み方、書き方及び 1000 付近の数を理解する。 上 p.60 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①図の●の数を工夫して数え、百を 10 こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。 	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・1000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。</p> <p>上 p.61</p>	1	<p>①780 のいろいろな見方を表現する。</p> <p>②表現した見方を、式を使って表す。</p>	[思判表] 発言・記録
(2) 何十、何百の 計算 上 p.62～63 1 時間			
<p>・何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。</p> <p>上 p.62～63</p>	1	<p>①10 枚の束の色紙の絵を見て、$50+70$、$120-30$ の計算の仕方を考える。</p> <p>②100 枚の束の色紙の絵を見て、$300+200$、$600-200$ の計算の仕方を考える。</p> <p>③10 や 100 を単位にして数を単位としてとらえると、1 位数の加減計算に帰着できることをまとめる。</p> <p>④数の構成（何百といくつ）に基づいて、$500+30$ などの計算の仕方を考える。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
(3) 数の 大小 上 p.64～65 2 時間			
<p>・不等号「$>$」「$<$」を知り、数の大小関係を式に表すことができる。</p> <p>上 p.64</p>	1	<p>①3 つの学校の児童数の大小を比較する。</p> <p>②不等号「$>$」「$<$」を用いた式の表し方を知り、数の大小を不等号を用いて表す。</p>	[知技] 発言・行動観察
<p>・数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。</p> <p>上 p.65</p>	1	<p>①問題を読み、150 円で買える品物を調べる。</p> <p>②数と式の大小、相等関係の表し方を知る。</p>	[知技] 発言・行動観察
まとめ 上 p.66～67, 128 1 時間			
<p>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p>上 p.66～67</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<p>・【発展】巻末 p.128 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、1000 までの数についての理解を深める。</p>			

単元名	6. 水の かさを はかって あらわそう [水の かさの たんい]			教科書の ページ	上 p.68～77
配当時数	8 時間	活動時期	6 月下旬～ 7 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		体積について、測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、体積について量の感覚を身に付け、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	体積について単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当を付け体積の単位を適切に選択して身の回りにある入れ物に入る水の体積を測定することができる。
	思考・判断・表現	長さの学習を基に、普遍単位の必要性に気付き、身の回りにある入れ物の特徴をその中に入る水の体積に着目して捉え、目的に応じた単位で体積を的確に表現したり、比べたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、量の感覚を身に付け、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 水の かさの たんい 上 p.68～75 6 時間			
[プロローグ] 上 p.68	1	①p.68 のコマ絵を提示し、2 人の比べ方についての話し合いを通して、任意単位の比較では限界があることに気付かせ、容器に入る水の体積の単位と測定について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 普遍単位の必要性に気付き、体積を表す単位「デシリットル(dL)」を知り、その読み方や書き方を理解する。 上 p.69～71	1	①プロローグの話し合いを受けて、同じ大きさのプリンカップで 2 つの水筒に入る水の体積を比較する。 ②共通の任意単位で 2 つの水筒に入る水の体積を数値化する。 ③共通の任意単位であっても、比較の限界があることを知る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 体積を表す単位「リットル(L)」について知り、1L=10dL の関係を理解する。 上 p.71～72	1	①体積の単位「デシリットル(dL)」を知る。 ②水筒に入る水の体積を dL を使って表す。 ③身の回りの容器に入る水の体積を 1dL のますではかる。	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
・ L や dL を用いた体積の表し方を理解する。 上 p.73	1	①L, dL を用いて、体積を表す。	[知技] 発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・体積を表す単位「ミリリットル(mL)」について知り、1L = 1000mL の関係を理解する。 上 p.74	1	①絵を見て、1dL より少ないはしたの表し方に着目する。 ②体積の単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L=1000mL の関係を確認する。	[知技]発言・行動観察
・体積の加減計算の仕方を理解する。 上 p.75	1	①2 つの水筒に入る水の体積の和や差を、加減計算を適用して求める。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.76~77 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上 p.76	1	[いかしてみよう] ①身の回りから、L や mL の表示がされている容器を探す。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.76~77	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	上 p.78
配当時数	—	活動時期	7月上旬	学習指導要領の内容 —

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.78	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	7. 時計を生活に生かそう [時こくと 時間]			教科書のページ	上 p.79～83, 128
配当時数	2 時間	活動時期	7 月中旬	学習指導要領の内容	C(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		時刻と時間の概念、日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	時刻と時間の区別、及び日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。
	思考・判断・表現	時間の単位に着目し、図などを用いて時刻と時間の求め方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 時こくと 時間 上 p.79～83, 128 2 時間			
[プロローグ] 上 p.79	1	①日常生活の中で、どんなときに時計を読んでいるかについての話し合いを通して、時刻と時間に関わる時計をさらに生活に生かしていくという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・「時刻」「時間」の意味や、時、分の関係を理解する。 上 p.80～81		①絵を見て、各場面の時刻を読む。 ②図を見て、「時刻」と「時間」の意味の違いを考える。 ③簡単な場合の時刻や時間を求める。 ④1 時間＝60 分であることを知る。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・「午前」「午後」の意味や、日、時の関係を理解する。 上 p.82～83	1	①絵を見て、同じ読み方の時刻が 1 日に 2 回あることに気づき、「午前」と「午後」の意味を知る。 ②午前、午後ともに 12 時間あることから、1 日＝24 時間であることをおさえる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.128 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、時刻と時間についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.84
配当時数	—	活動時期	7 月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.84	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	8. 計算のしかたをくふうしよう [計算のくふう]			教科書の ページ	上 p.85～89
配当時間	5 時間	活動時期	9 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)(3)

単元の目標		加法の結合法則，簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して，加減計算についての理解を深め，計算の仕方を数や式をよく見て考える力を養うとともに，計算法則，数の見方や構成を活用して計算方法を考えた過程を振り返り，そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	加法の結合法則や（ ）の使い方を理解するとともに，簡単な加減法の暗算ができる。
	思考・判断・表現	（ ）の中を 1 つの数とみて，式の意味を考え表現したり場面を式に表したりするとともに，3 口の数の加法計算について，数量の関係に着目し，結合法則などを基に工夫して計算している。
	主体的に学習に取り組む態度	加減の計算方法について，計算法則，数の見方や構成を活用して考えた過程や結果を振り返り，数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) たし算のきまり 上 p.85～87 2 時間			
・加法の結合法則と，（ ）の使い方を理解し，3 口の数の加法計算ができる。 上 p.85～87	1	①問題場面から数量の関係をとらえ，立式する。 ② $7+12+8$ の計算の仕方を考える。 ③（ ）の使い方を知り，それを使って考えを式に表し，加法計算をする。 ④加法ではたす順序を変えても答えは同じになることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・3 口の数の加法計算の場面を，（ ）を用いた式に表したり，（ ）を用いた式から考えを読み取ったりすることができる。 上 p.87	1	①問題場面から数量関係をとらえ，（ ）を用いて 3 口の加法の式を立てる。 ②（ ）を用いた式を読み，どのように考えたかを説明する。	[思判表]発言・記録
(2) たし算とひき算 上 p.88 2 時間			
・簡単な加減法の暗算の仕方を理解し，その計算ができる。 上 p.88	1	① $26+7$ の計算を加数分解や被加数分解で暗算する。 ②加法の暗算の練習問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	① $42-7$ の計算を工夫して暗算する。 ②減法の暗算の練習問題に取り組む。	
まとめ 上 p.89 1 時間			
・学習内容の定着を確認するとともに，数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.89	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	9. ひっ算のしかたを考えよう [たし算とひき算のひっ算]			教科書の ページ	上 p.90~103, 129
配当時間	10 時間	活動時期	9 月上旬~下旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		既習の筆算を基に、2 位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の加法及びその逆の減法の計算について、1 位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解し、筆算の手順を基に確実に計算することができる。
	思考・判断・表現	既習の筆算を基に、数の仕組みに着目し、2 位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2, 3 位数の加減の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) たし算の ひっ算 上 p.90~93 2 時間			
[プロローグ] 上 p.90	1	①p.90 の絵からメダルの数を考えるを求める計算の仕方についての話し合いを通して、既習の加減計算を振り返るとともに、数が大きくなった場合の加減計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 2 位数+2 位数=3 位数 (百の位への繰り上がりあり) の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.91~92		①問題場面から数量の関係をとりえ、立式する。 ②83+46 の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 2 位数+2 位数=3 位数 (十、百の位への繰り上がりあり) や、2 位数+1, 2 位数=3 位数 (百の位への波及的繰り上がりあり) の筆算の仕方を、数の見方や既習の加法筆算の仕方をもとに考え、説明することができる。 上 p.93	1	①76+58 の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③46+57, 93+8 の筆算の仕方を考える。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) れんしゅう 上 p.94 1 時間			
・ 学習内容を適用して問題を解決する。 上 p.94	1	①「れんしゅう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) ひき算の ひっ算 上 p.95～99 4 時間			
・3位数－2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.95～96	1	①問題場面から数量の関係をとりえ、立式する。 ②129－53の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、数の見方や既習の筆算の仕方をもとに考え、説明することができる。 上 p.97	1	①146－89の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・3位数－1, 2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.97～99	1	①102－65の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①計算練習をする。 ②文章題に取り組む。	
(4) 大きい数の ひっ算 上 p.100～101 2 時間			
※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。			
・3位数＋1, 2位数（百の位への繰り上がりなし）や3位数－1, 2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.100～101	1	①415＋32の筆算の仕方を、15＋32を基に考える。 ②345－21の筆算の仕方を、45－21を基に考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察
	1	①18＋345, 526＋9の筆算の仕方を考え、それらの計算練習をする。 ②483－27, 524－6の筆算の仕方を考え、それらの計算練習をする。	
まとめ 上 p.102～103, 129 1 時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.102～103	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.129の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、加減法についての理解を深める。			

単元名	10. さんかくやしかくの形をしらべよう [長方形と正方形]			教科書の ページ	上 p.104～116
配当時間	10 時間	活動時期	9 月下旬～ 10 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)ア(ア)(イ), イ(イ) 内容の取扱い(5)

単元の目標		平面図形に進んで関わり，図形についての感覚を豊かにしながら，三角形，四角形などの構成要素をとらえそれらの意味や性質を理解し，図形を構成する要素に着目してとらえる力を養うとともに，それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	三角形や四角形，直角，長方形，正方形，直角三角形の意味や性質を理解するとともに，紙を折って直角を作ったり，長方形や正方形などを作図したりすることができる。
	思考・判断・表現	辺や頂点など図形を構成する要素に着目し，三角形や四角形，長方形や正方形などの特徴を見だし，説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの形の中から，三角形や四角形，長方形や正方形などを見つけ図形としてとらえ，数学的に表現・処理したことを振り返り，数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 三角形と 四角形 上 p.104～107 3 時間			
[プロローグ] 上 p.104	1	①p.133 のパズルを使い，p.104 に示されたいろいろな形を作り，それらの形についての話し合いを通して，平面図形に親しむとともに，三角や四角の形について調べるといった単元の課題を設定する。 *デジタルコンテンツ設定有 (所要時間は 30 分程度)	
・ 辺や頂点の数に着目して図形を分類する活動を通して，三角形，四角形の意味や性質を理解する。 上 p.105～107	1	①辺や頂点の数に着目して，パズルの各ピースを仲間分けする。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 図形を弁別する活動などを通して，三角形，四角形についての理解を確実にする。 上 p.107	1	①「三角形」，「四角形」の意味や性質を理解する。 ②用語「辺」「頂点」を知る。	
・ 図形を弁別する活動などを通して，三角形，四角形についての理解を確実にする。 上 p.107	1	①三角形，四角形を弁別する。 ②格子点を直線で結んで，三角形や四角形などの基本図形を構成する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 長方形と 正方形 上 p.108～113 5 時間			
・ 直角の意味を知り，身の回りから直角を見つけることができる。 上 p.108～109	1	①身の回りから四角形の形をしたものを探す。 ②紙を折って直角を作る。 ③操作を通して，平角を 2 等分した形を「直角」ということを知る。 ④身の回りから直角を探す。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 長方形を構成要素に着目して見ることを通して，長方形の意味や性質を理解する。 上 p.109～110	1	①不定形の紙を折って長方形を作る。 ②すべてのかどが直角であることを確かめる。 ③「長方形」の意味や性質をまとめる。 ④長方形を弁別する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 正方形を構成要素に着目して見ることを通して、正方形の意味や性質を理解する。 上 p.111 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①長方形の紙を折ってはみだした部分を切り取って正方形を作る。 ②すべてのかどが直角で、すべての辺の長さが等しいことを調べる。 ③「正方形」の意味や性質をまとめる。 ④正方形を弁別する。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 長方形、正方形を対角線で分割してできた三角形を、構成要素に着目して見ることを通して、直角三角形の意味や性質を理解する。 上 p.112 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①長方形、正方形を対角線で分割してできた形について考える。 ②「直角三角形」の意味や性質をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 方眼を利用した長方形、正方形、直角三角形のかき方を、方眼の仕組みや図形の性質に着目して考え、作図することができる。 上 p.113 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①方眼を利用して、指定された長方形、正方形、直角三角形を作図する。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 上 p.114～116 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上 p.114 	1	<ul style="list-style-type: none"> [いかしてみよう] ①身の回りから長方形や正方形の形をしたものを探す。 ②合同な長方形や直角三角形などを使って敷き詰め模様を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.115～116 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	11. 新しい 計算を 考えよう [かけ算(1)]		教科書の ページ	下 p.2~24
配当時数	22 時間	活動時期	10 月中旬～ 11 月下旬	学習指導要 領の内容 A(1)ア(エ), イ(ア) (3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ) 内容の取扱い(4)

単元の目標		乗法の意味について理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（5, 2, 3, 4の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) かけ算 下 p.2~12 7 時間			
[プロローグ] 下 p.2	1	①p.2 の絵を提示し、①②の場面で人数の数えやすさについての話し合いを通して、新しい計算（かけ算）について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・「1つ分の数」「いくつ分」ととらえ、「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。 下 p.3~8	1	①絵を見て、それぞれの乗り物に乗っている子どもの人数を調べる。 ②総数が同じでも1台に乗っている人数が違うことから、「1つ分の数」と「いくつ分」ととらえる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・乗法の場面を式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。 下 p.8~9	1	①絵やおはじきを使って、全体の人数の求め方を言葉で説明する。 ② $5 \times 3 = 15$ の式の意味を知る。 ③「1つ分の数」と「いくつ分」が分かれば、全部の数を求められることをまとめる。 ④用語「かけ算」と記号「 \times 」を知る。	[知技]発言・行動観察
	1	①3, 4ページの絵を見て、乗り物に乗っている人数をかけ算の式で表現する。 ②5, 4のまとまりになっているものの写真を見て、乗法の式に表す。 ①乗法の式から、その場面をおはじきで表す。 ②並んだおはじきを乗法の場面としてとらえ、乗法の式に表す。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.10</p>	1	<p>①問題場面から数量の関係をとらえ、立式や答えの求め方について考える。</p> <p>②乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることをまとめる。</p>	[知技]発言・行動観察
<p>・倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.11</p>	1	<p>①3cmの2つ分を、3cmの「2ばい」ということを知る。</p> <p>②3cmの2倍の長さを求めるときも、3×2のかけ算の式になることを知る。</p>	[知技]発言・行動観察
<p>・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.12</p>	1	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①身の回りからかけ算の式になる場面を見出す。</p> <p>②どのような乗法の式になるかを、「1つ分の数」×「いくつ分」＝「全部の数」を基に説明する。</p>	[思判表]発言・記録
(2) 5の段, 2の段の九九 下 p.13~16 6時間			
<p>・5の段の九九の構成の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.13~14</p>	1	<p>①お菓子が1箱に5個ずつ入っているときの1~4箱分の個数を求める。</p> <p>②累加や5とび、アレイ図などを用いて5の段の九九を構成する。</p>	[知技]発言・行動観察
<p>・5の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.14</p>	1	<p>①用語「九九」を知り、5の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>②5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。</p>	[知技]発言・行動観察
	1	①5の段の九九を用いて問題を解決する。	
<p>・2の段の九九の構成の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.15~16</p>	1	<p>①1皿にすしが2個ずつ乗っているときの1~5皿分の個数を求める。</p> <p>②累加や2とび、アレイ図などを用いて2の段の九九を構成する。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・2の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.16</p>	1	<p>①2の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>②2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。</p>	[知技]発言・行動観察
	1	①2の段の九九を用いて問題を解決する。	
(3) 3の段, 4の段の九九 下 p.17~21 7時間			
<p>・3の段の九九の構成の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.17~18</p>	1	<p>①1パックに3個ずつ入っているプリンの1~4パック分の個数を求める。</p> <p>②$3 \times 4$の答えにいくつたせば3×5になるかを考える。</p> <p>③$3 \times 5$の答えに3をたせば3×6になることを活用して、3の段の九九を構成する。</p> <p>④用語「かけられる数」「かける数」を知る。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・3の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下 p.18	1	①3の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ②3の段の九九の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。	[知技]発言・行動観察
	1	①3の段の九九を用いて問題を解決する。	
・4の段の九九の構成の仕方を理解する。 下 p.19～20	1	①1袋に4個ずつ入っているみかんの1～5袋分の個数を求める。 ②4×5のかける数が1増えると答えはいくつ増えているか確かめる。 ③4の段では、かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・4の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下 p.20	1	①4の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ②4の段の九九の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。	[知技]発言・行動観察
	1	①4の段の九九を用いて問題を解決する。	
・問題づくりによる、式の読みや式に表現することを通して、5, 2, 3, 4の段の理解を深める。 下 p.21	1	① $2 \times 5 = 10$, $5 \times 2 = 10$ で表される問題の式と答えをそれぞれ考え、乗法の式の意味について理解を確かめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.22～24 2時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.22～24	2	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
		①p.28の「ますりん通信」を読み、分配法則について関心をもつ。	

単元名	九九ビンゴ			教科書のページ	下 p.25
配当時数	1時間	活動時期	11月下旬	学習指導要領の内容	A(3)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・かけ算九九を活用して九九ビンゴに取り組み、かけ算九九の習熟を図る。 下 p.25	1	①九九ビンゴに取り組みながら、かけ算九九を習熟する。	[態度]発言・行動観察

単元名	12. 九九をつくろう [かけ算(2)]			教科書のページ	下 p.29～50
配当時間	17 時間	活動時期	11 月下旬～ 12 月中旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(エ), イ(ア) (3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ) (オ), イ(ア)(イ) 内容の取扱い(4)

単元の目標		乗法の意味について理解を深め、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にするとともに、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九(6, 7, 8, 9, 1 の段)を構成し、確実に唱えたりすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 6 のだん, 7 のだんの 九九 下 p.29～32 6 時間			
・ 6 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下 p.29～30	1	①6 の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6 の段の九九を構成する。	[態度] 発言・行動観察
・ 6 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下 p.30	1	①6 の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ②6 の段の九九を見直し、九九表やレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	①6 の段の九九を用いて問題を解決する。	
・ 7 の段の九九の構成の仕方を理解する。 下 p.31～32	1	①7 の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則など既習の考えを活用して、7 の段の九九を構成し、九九表に答えを書く。	[態度] 発言・行動観察
・ 7 の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下 p.32	1	①7 の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ②7 の段の九九を見直し、九九表やレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	①7 の段の九九を用いて問題を解決する。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 8の段, 9の段, 1の段の九九 下 p.33~38 5時間			
<ul style="list-style-type: none"> 8の段の九九の構成の仕方を考え, 説明することができる。 下 p.33 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①8の段の九九の構成の仕方について考える。 ②既習の性質やきまりを活用して, いろいろな方法で8の段の九九を構成する。 	[思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 8の段の九九を確実に唱え, 適用することができる。 下 p.34 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①8の段の九九を唱えたり, カードを用いたりして練習をする。 ②8の段の九九を用いて問題を解決する。 	[知技] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 9の段の九九の構成の仕方を考え, 説明することができる。 下 p.35 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①9の段の九九の構成の仕方について考える。 ②既習の性質やきまりを活用して, いろいろな方法で9の段の九九を構成する。 	[思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 9の段の九九を確実に唱え, 適用することができる。 下 p.36 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①9の段の九九を唱えたり, カードを用いたりして練習をする。 ②9の段の九九を用いて問題を解決する。 	[知技] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 1の段の九九を構成し, かけ算の意味の理解を確実にする。 下 p.37 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①場面をとらえ, 1×6 の式からかけ算の意味を確かめる。 ②1の段の九九を唱える。 	[知技] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 九九を, 答えの大きい方から唱えたり, 途中から唱えたり, 交互に唱えたりする活動を通して, 九九の習熟・定着を図る。 下 p.38 		<ul style="list-style-type: none"> ①九九を, 答えの大きい方から唱えたり, 途中から唱えたり, 交互に唱えたりする活動に取り組む。 ②「ますりん通信」を読み, 九九の由来について関心をもつ。 	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
(3) 九九のひょうと きまり 下 p.39~41 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 九九表からきまりを見つける活動を通して, 乗数と積の関係や, 乗法の交換法則についての理解を深める。 下 p.39~40 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①九九表を見て, これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や, 乗法の交換法則を確認する。 ②りくの吹き出しを読み, 分配法則について調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 	[態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 乗法の性質やきまりを用いて, 簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え, 説明することができる。 下 p.41 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①九九表を基に, 学習してきた性質やきまりを用いて, 被乗数が2位数のかけ算について答えの求め方を考える。 	[思判表] 発言・記録
(4) ばいと かけ算 下 p.42 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 2cmの3倍の長さを求めたり, 図を見て基準量の何倍かを考えたりし, 「倍」についての理解を深める。 下 p.42 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①2cmの3倍の長さをかけ算を使って求める。 ②㊦, ㊧のテープの図を見て, ㊧のテープの長さは㊦のテープの長さの何倍かを考える。 	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(5) もんだい 下 p.43~47 1時間			
[今日のふかい学び] ・乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。 下 p.43~47	1	①チョコレートの数のいろいろな求め方を、図を基に考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③同じ数のまとまりに着目すればかけ算を用いて解決できることをまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
まとめ 下 p.48~50 2時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.48~50	2	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.51
配当時数	—	活動時期	12月中旬	学習指導要領の内容 —

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.51	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	13. 1000 より 大きい 数を しらべよう [4けたの 数]		教科書の ページ	下 p.52～65
配当時数	11 時間	活動時期	1 月中旬～下旬	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(オ), イ(ア) (2)ア(イ), イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		10000 までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	4 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
	思考・判断・表現	数のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	数のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 4けたの 数 下 p.52～62 9 時間			
・ 10000 未満の数の数え方と命数法、記数法、4 位数の位取りの仕組みを理解する。 下 p.52～54	1	①絵を見て、2354 個の一円玉の数を工夫して数える。 ②2354 の数構成と命数法を知る。 ③数えた一円玉の数を数字で書き表す方法を考え、記数法を知る。 ④用語「千のくらい」を知る。	[態度]発言・行動観察
・ 空位のある 4 位数の記数法を理解するとともに、4 位数の位取りの仕組みの理解を深める。 下 p.55	1	①2054 を表す数カードを見て、その数を数字で表す。 ②4 位数を読んだり書いたりする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 数カードをならべて数を表すことを通して、10000 未満の数の構成について理解する。 下 p.56～57	1	①位取り板と数カードを使って各位の数を読み取ったり、4 位数を数カードで表したりする。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察
	1	①4 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ②4 位数の構成を、等式を使って表す。	
・ 2300 などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。 下 p.58	1	①100 を 18 こ集めた数について考える。 ②2300 は 100 をいくつ集めた数かについて考える。 ③数構成（100 がいくつ）に基づいて、 $800+700$ や $1000-800$ の計算をする。	[思判表]発言・記録
・ 数直線の読み取りを通して、4 位数の大小、順序を理解する。 下 p.59	1	①数直線の 1 目盛りの大きさや、指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・10000の構成、数の読み方、書き方及び10000付近の数を理解する。 下 p.60～61	1	①図の●を工夫して数え、千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くことを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 ②4位数の大小を、不等号を使って表す。 ③数直線上で10000付近の数を読む。	
・10000までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。 下 p.62	1	①3800を、多様な見方にとらえ、言葉や式で表す。 ②500とびで数を数えたり、大きい数から小さい数へ順に2とびで唱えたりする。	[思判表]発言・記録
まとめ 下 p.63～65 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.63	1	[いかしてみよう] ①身の回りから数が使われている場面を探し、数には、ものの大きさを表しているものと、表していないものがあることを知る。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.64～65	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	14. 長い 長さをはかって あらわそう [長いものの長さのたんい]			教科書の ページ	下 p.66～73
配当時数	6 時間	活動時期	1 月下旬～ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		長いものの長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、長さについて量の感覚を身に付け、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当を付け長さの単位を適切に選択して身の回りのものの長さを測定し表現することができる。
	思考・判断・表現	上位単位の必要性に気付き、身の回りのものの特徴を長さに着目して捉え、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心を持ち、量の感覚を身に付け、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 長いものの長さのたんい 下 p.66～70 3 時間			
[プロローグ] 下 p.66	1	①p.66 の写真を提示し、「ひろ」と、「あた」「つか」の比較についての話し合いを通して、長いものの長さについて考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・長さを表す単位「メートル (m)」を知り、1m=100cm の関係を理解する。 下 p.67～68		①両手を広げた長さを 30cm 物差しではかる。 ②120cm について、上位単位の必要性を考える。 ③長さの単位「メートル (m)」を知り、1m=100cm の関係を確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・同じ長さを、○m○cm と、○cm の両方で表すことができる。 下 p.69	1	①棒をつないだ全体の長さを、加法を適用し、「メートル (m)」,「センチメートル (cm)」を用いて、長さを表す。	[知技]発言・行動観察
・測定活動を通して 1m の量感を養う。 下 p.70	1	①床から 1m の高さだと思ふ体の箇所を予想し、1m 物差しを使って確かめるとともに、床から 1m の高さにある体の箇所を把握する。 ②1m 物差しを使って、いろいろなものの長さを見当をつけてからはかる。 ③指定された長さについて、適切な単位を選ぶ。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
まとめ 下 p.71～73 3 時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.71	2	[いかしてみよう] ①「テープものさし」を作成し、いろいろなものの長さを測定する。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.72～73	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	15. 図をつかって考えよう [たし算とひき算]		教科書の ページ	下 p.74~81, 111
配当時間	5 時間	活動時期	2 月上旬~中旬	学習指導要 領の内容 A(2)ア(エ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		加法と減法の相互関係について理解し、数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえ、式について考える力を養うとともに、加法と減法の相互関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	加法と減法の相互関係について理解し、加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や式に表し、問題を解決することができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえ、式について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	加法と減法の相互関係に関心を持ち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) たし算とひき算 下 p.74~79 4 時間			
[プロローグ] 下 p.74	1	①p.74 の図を見て、□で隠れている枚数についての話し合いを通して数量の関係をとらえ、図を使って加法と減法の関係について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・加法逆の減法(未知数が後に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 下 p.75~76		①テープ図を基に、数量の関係をとらえる。 ②加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・減法逆の加法(未知数が先に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 下 p.77	1	①テープ図を基に、数量の関係をとらえる。 ②減法逆の加法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	[知技]発言・行動観察
・加法逆の減法(未知数が先に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 下 p.78	1	①テープ図を完成させ、数量の関係をとらえる。 ②加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	[知技]発言・行動観察
・減法逆の減法の問題づくりを通して、場面をテープ図や式に表現し、問題を解決する力を伸ばす。 下 p.79	1	①減法逆の減法の問題づくりを行う。 ②つくった問題場面をテープ図に表し、問題を解決する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.80~81, 111 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.80~81	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.111 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 			

単元名	16. 分けた 大きさの あらわし方を しらべよう [分数]		教科書の ページ	下 p.82~90, 112
配当時間	5 時間	活動時期	2 月中旬~下旬	学習指導要 領の内容
				A(1)ア(カ)

単元の目標		1/2 や 1/3 などの簡単な分数について知り、数とその表現に着目し、分けた大きさの表し方を考える力を養うとともに、具体物や図などを用いて数学的に表現・処理した過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	具体物を操作することなどによって、1/2 や 1/3 などの簡単な分数について知り、いくつかに分けた大きさの1つ分をつくったり、それらの大きさを分数を使って表現したりすることができる。
	思考・判断・表現	分数について、元の大きさと分けた大きさの関係や、分けた大きさはすべて等しいことに着目して考えている。
	主体的に学習に 取り組む態度	具体物や図などを用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 分数 下 p.82~87 3 時間			
[プロローグ] 下 p.82	1	①p.82 の絵を見て、同じ大きさに分けた 1 つ分の表し方についての話し合いを通して、分けた大きさの数字を使った表し方を調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 半分にした大きさを二分の一といい、1/2 と書くことを理解する。 下 p.83~84	1	①正方形の紙を半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ②二分の一の意味と書き方を知る。 ③元の大きさの 1/2 の 2 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ④長方形の紙を半分に折って切り、元の大きさの 1/2 を作る。 ⑤元の大きさの 1/2 かどうかを判定する。	[知技]発言・行動観察
・ 四半分にした大きさを四分の一といい、1/4 と書くことを理解する。 下 p.85~86	1	①長方形の紙を半分の半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ②四分の一の意味と書き方を知る。 ③用語「分数」を知る。 ④元の大きさの 1/4 の 4 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ⑤八分の一の意味と書き方を知る。	[知技]発言・行動観察
・ 3 つに分けた 1 つ分の大きさを三分の一といい、1/3 と書くことを理解する。 下 p.87	1	①同じ長さになるように 3 つに分けたテープの 1 つ分の長さを、分数を使って表す方法を考える。 ②三分の一の意味と書き方を知る。 ③元の大きさの 1/3 の 3 つ分は、元の大きさになることを確かめる。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) ばいと 分数 下 p.88～89 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係に着目し、それらの大きさを倍や分数を使って表すことができる。 下 p.88～89 	1	①2人のテープの長さを比べ、りくさんのテープの長さはあみさんのテープの長さの2倍、あみさんのテープの長さはりくさんのテープの長さの1/2であることを確かめる。 ②長さが違う2つのテープの長さについて、一方は他方の2(4)倍、他方は一方の1/2(1/4)であることを確かめ、まとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.90, 112 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.90 	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.112の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、分数についての理解を深める。 			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.91
配当時数	—	活動時期	2月下旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 下 p.91 	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	17. はこの 形を しらべよう [はこの 形]			教科書の ページ	下 p.92～97, 113
配当時数	5 時間	活動時期	2 月下旬～ 3 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)ア(ウ), イ(ア)

単元の目標		箱の形をしたものを観察したり作ったりする活動を通して、正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し、図形を構成する要素に着目してとらえる力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	箱の形をしたものの構成要素について理解し、正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。
	思考・判断・表現	頂点、辺、面などの図形を構成する要素に着目し、箱の形の特徴を見だし、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの形の中から、箱の形をしたものを見つけ、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) はこの 形 下 p.92～96 4 時間			
[プロローグ] 下 p.92	1	①身の回りから探した箱の形についての話し合いを通して、図形への興味・関心を高め、箱の形について調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 15 分程度)	
・箱の形(直方体や立方体)に親しみ、立体と平面の関係を知り、その面の形や数をとらえることができる。 下 p.93～94	1	①箱の作り方について考える。 ②箱の面を紙に写し取る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・組み立てた箱を考察することを通して、箱の形についての理解を深める。 下 p.95	1	①用語「面」を知る。 ②紙に写し取った箱の面の形や数を調べる。	[思判表]発言・記録
・直方体や立方体の頂点、辺の数などの構成要素を理解する。 下 p.96	1	①箱の形の骨格模型を作るために必要な粘土玉(頂点)の数とひご(辺)の長さや本数を調べる。 ②1つの頂点には、違う長さの辺が1本ずつ集まることをとらえる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 下 p.97, 113 1 時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p. 97	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.113 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、箱の形についての理解を深める。			

単元名	計算ピラミッド			教科書の ページ	下 p.98～99
配当時数	2 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容を総合的に適用して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。 下 p.98～99	1	①計算ピラミッドに取り組み、既習の加減計算の練習をする。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①p.99 上の問題に取り組み、下のますに同じ数を入れたときのきまりを見つける。 ②p.99 上の問題で見つけたきまりが、他の数でも成り立つかどうか確かめる。	

単元名	2 年の ふくしゅう			教科書の ページ	下 p.100～104
配当時数	4 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要 領の内容	A～D

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.100～104	4	①問題を解決する。	[知技]発言・行動観察

江戸川区立葛西小学校

単元名	学びのとびら			教科書のページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容	第 2 学年の内容

目標	時数	学習活動
<p>・「もくじ」「授業のページ」「算数マイノートをつくろう」「新しい算数を使った学習の進め方」のページを使って、教科書の使い方や算数科の学び方、問題解決の方法を共有し、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。</p> <p>上 p.2～7</p>	1	<p>①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることに触れ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み上げられていること、以後の学習へつながることに気づかせる。 また、p.1 下欄を見て、前学年までに働かせ、成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点に触れる。 <p>②「授業のページ」(30分) p.2～3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 <p>③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業のページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートのつくり方を学級で共有する。 <p>④「新しい算数を使った学習の進め方」(3分) p.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「ふりかえりコーナー」(知識のふりかえり)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し、適宜活用するとよいことを知らせる。 <p>※「指導者・保護者のみなさまへ」について</p> <p>これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣(特に家庭での自学自習)を身に付けるためには保護者の理解・協力が必須であると考え掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

単元名	1. 九九を見なおそう [かけ算]		教科書のページ	上 p.8~25
配当時数	9 時間	活動時期	4 月中旬~下旬	学習指導要領の内容 A(3)ア(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(3)(4)

単元の目標		乗法に関して成り立つ性質やきまりなどの理解を深め、数学的表現を適切に活用して九九の範囲を超える計算の仕方を考える力を養うとともに、乗法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法に関して成り立つ性質やきまりを理解し、それらを活用して被乗数や乗数が 0 や 10 の乗法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	乗法に関して成り立つ性質やきまりに着目し、九九の範囲を超える乗法の計算方法を、図や式を用いて考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	九九の範囲を超える乗法の計算方法について、式や図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) かけ算のきまり 上 p.8~19 5 時間			
[プロローグ] 上 p.8	1	①九九を唱えたり、九九の問題を出し合ったり、その答えになるかけ算の式を考えたりする活動を通して、九九の定着を確認するとともに、既習の九九を見なおし理解を深めていくという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・乗数が 1 ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係や乗法の交換法則の理解を深める。 上 p.9~11	1	①乗数と積の関係や交換法則を使って、 7×4 の答えの見つけ方を考える。 ②各々の考えを発表し、他者の考えと比較する。 ③前時で出された考えを整理し、乗数と積の関係や交換法則をまとめる。 ④適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・乗法の分配法則(被乗数を分解)を理解し、九九の答えを求めることができる。 上 p.12	1	①被乗数を 2 つの数に分けて、 9×7 の答えの求め方を考える。 ②被乗数を分解しても積は変わらないことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・乗法の分配法則(乗数を分解)を理解し、九九の答えを求めることができる。 上 p.13	1	①乗数を 2 つの数に分けた 9×7 の答えの求め方を考え、説明する。 ②被乗数を分解しても、乗数を分解しても、積は変わらないことをまとめる。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
・被乗数や乗数が 10 のときの答えを、乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて考え、説明することができる。 上 p.14	1	①10 の段の答えを、累加の考えや既習のかけ算のきまりを用いて求め、九九表に記入する。 ②被乗数が 10 のときのかけ算の答えの求め方を乗法の性質やきまりを活用して考え、答えを求める。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
[今日の深い学び] ・被乗数が10を超える場合の答えを、乗法に関して成り立つきまりや性質を用いて考え、説明することができる。 上 p.15～19	1	①12×4 の答えのいろいろな求め方を考え、図や式を使って表す。 *デジタルコンテンツ設定有 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③分配法則を用いたり、10といくつに分けたりすると、10より大きい数の乗法の答えを求められることをまとめる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
(2) 0 のかけ算 上 p.20～21 1時間			
・被乗数や乗数が0の場合の式の意味を理解し、計算の答えを求めることができる。 上 p.20～21	1	①問題場面を捉え、被乗数や乗数が0の場合になる場合の乗法の式について考える。 ②被乗数や乗数が0の場合もかけ算の式に表せること、答えは0になることを確認し、まとめる。 ③表を基に、得点のとり方を式に表す。 ④式を基に、得点のとり方を考える。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
(3) かける数とかけられる数 上 p.22 1時間			
・ $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の \square にあてはまる数を九九を用いて求めることができる。 上 p.22	1	①被乗数、または乗数が未知数の式で、九九を適用して未知数を求める。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.23～25 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的に捉え論理的に考察し、問題を解決する。 上 p.23	1	[いかしてみよう] ①九九の答えを活用した模様づくりに取り組む。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。 上 p.24～25	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.26
配当時数	—	活動時期	4月下旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.26	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	2. 時こくと時間のもとめ方を考えよう [時こくと時間のもとめ方]		教科書の ページ	上 p.27～33, 144
配当時数	4 時間	活動時期	4 月下旬	学習指導要 領の内容
				C(2)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		秒について知り、時間に関する理解を深めるとともに、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	秒について知り、他の時間の単位との関係を理解するとともに、時刻や時間を求めることができる。
	思考・判断・表現	時間の単位に着目し、時間を既習の量と統合的に捉えるとともに、図などを用いて時刻や時間の求め方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 時こくと時間のもとめ方 上 p.27～31 2 時間			
[プロローグ] 上 p.27	1	①時刻や時間について、町のような調査の計画をたてる場面を通し、時刻や時間の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ある時刻から一定時間後の時刻や 2 つの時刻の間の時間を求めることができる。 上 p.28～29		①8 時 40 分から 30 分後の時刻や、9 時 50 分から 10 時 10 分までの時間を、文字盤や数直線を手がかりにして求める。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ある時刻から一定時間前の時刻や時間と時間の和を求めることができる。 上 p.30～31	1	①11 時 10 分の 30 分前の時刻を、文字盤や数直線を手がかりにして求める。 ②40 分と 30 分を合わせた時間を、数直線を手がかりにして求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 短い時間 上 p.32 1 時間			
・時間を表す単位「秒」について知り、分と秒の単位関係を理解する。 上 p.32	1	①1 分より短い時間の表し方について考える。 ②時間の単位「秒」や、1 分=60 秒の関係を知る。 ③秒の針の動きに合わせて手を打ったり、目をつぶって 1 分経過したと思ったら手をあげたりする量感を養う活動に取り組む。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.33, 144 1 時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.33	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.144 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に時刻と時間の求め方についての理解を深める。			

単元名	3. 同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう [わり算]		教科書の ページ	上 p.34～46, 145
配当時数	9 時間	活動時期	5 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容
				A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)

単元の目標		除法の意味について理解し、九九一回適用の除法計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、除法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気付き今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	除法が用いられる場合や除法と乗法などとの関係について知り、除法の意味について理解するとともに、除法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、等分除と包含除を除法として統合して捉えるとともに、具体物や図、式を用いて計算の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	除法の意味や計算方法について、式や図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や今後の学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 1 人分の数をもとめる計算 上 p.34～38 3 時間			
[プロローグ] 上 p.34	1	①p.38 の絵を提示し、等分と不等分について話し合うことを通して、同じ数ずつ分けるときの計算を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 除法に関する用語、記号を知り、等分除の意味について理解する。 上 p.35～37	1	①同じ数ずつ分ける場面であることを捉える。 ②12 個のクッキーを 3 人で等分すると 1 人分は何個になるかを、半具体物を操作して調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ③上記の操作結果を $12 \div 3 = 4$ と式に表すことを知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 等分除の場面から、分け方や分けた後の数量の関係を式に表し、答えの見つけ方を考え、説明することができる。 上 p.37～38	1	① $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。 ② $\square \times 5 = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけれられることをまとめる。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
(2) 何人に分けられるかをもとめる計算 上 p.39～43 4 時間			
・ 包含除の場面も除法の式に表されることや、包含除の意味について理解する。 上 p.39～41	1	①p.39 の絵から、等分除との違いを確認する。 ②12 個のパイを 1 人に 3 個ずつ分けると何人に分けられるかを半具体物を操作して調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ③上記の操作結果を $12 \div 3 = 4$ と除法の式に表すことを理解する。	[知技]発言・行動観察
	1	①用語「わられる数」「わる数」を知る。 ②適用問題に取り組む。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 包含除の場面から、分け方や分けた後の数量の関係を式に表し、答えの見つけ方を考え、説明することができる。 上 p.41~42 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。 ② $5 \times \square = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけられることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表] 発言・記録 [知技] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 等分除と包含除を、「わり算」として統合的に捉え、除法計算の答えを求めることができる。 上 p.43 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① $6 \div 2$ の式になる問題をつくる。 ② 等分除と包含除の問題を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表] 発言・記録 [知技] 発言・行動観察
(3) 0 や 1 のわり算 上 p.44 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 被除数が 0 の場合や被除数と除数が同じ数値の場合の除法計算ができる。 上 p.44 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① クッキーを 4 人で分けたときの 1 人分の数を求める場面で、クッキーが 8 個、4 個のときを順に考え、1 個もないときは何個になるかを考える。 ② クッキーが 1 個もないときも $0 \div 4 = 0$ と除法の式に表すことを知る。 	[知技] 発言・行動観察
まとめ 上 p.45~46, 145 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。 上 p.45~46 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 「たしかめよう」に取り組む。 ② 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】 巻末 p.145 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に除法の活用についての理解を深める。 			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.47
配当時数	—	活動時期	5 月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 上 p.47 	—	① 「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技] 発言・行動観察

単元名	4. 大きい数の筆算を考えよう [たし算とひき算の筆算]			教科書の ページ	上 p.48～57, 146
配当時数	8 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		3～4 位数の加減法の筆算の仕方を理解しその技能を身に付け、既習の数の見方や筆算の仕方を活用して筆算の仕方を考える力を養うとともに、筆算の仕方をまとめる過程を振り返り、既習と統合的に捉えようとしたり今後の学習に生かそうとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3～4 位数の加減計算は、2 位数などの基本的な計算を基にしてできていることを理解し、それらの計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数の見方に着目し、2～3 位数の場合の筆算の仕方を活用して 3～4 位数の加減法の筆算の仕方を図や式などを用いて考え表現し、筆算の仕方を一般化してまとめている。
	主体的に学習に 取り組む態度	3～4 位数の加減法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 3 けたの数のたし算 上 p.48～50 2 時間			
[プロローグ] 上 p.48	1	①p.48 の式や筆算を提示し、今までに学んできた加減計算について振り返るとともに、新たな課題となる 3～4 位数の加減計算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 3 位数+3 位数の筆算の仕方を、数の見方や既習の加法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.49～50		①問題場面を捉え、図を基に式をたてる。 ②既習内容を基に、 $365+472$ の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方（繰り上がりなし、一の位または十の位で繰り上がりあり）をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・ 3 位数+3 位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.50	1	① $347+178$, $763+459$ の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方（一、十の位で繰り上がりあり、各位で繰り上がりあり）をまとめる。	[知技]発言・行動観察
(2) 3 けたの数のひき算 上 p.51～53 3 時間			
・ 3 位数-3 位数の筆算の仕方を、数の見方や既習の減法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.51	1	①場面を捉え、図を基に立式について考える。 ②既習内容を基に、 $315-194$ の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方（繰り下がりなし、一の位または十の位へ繰り下がりあり、一の位及び十の位へ繰り下がりあり）をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・3位数-3位数の筆算（波及的繰り下がりあり）の仕方を、数の見方や既習の減法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.52～53	1	①402-175の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方（一の位へ波及的繰り下がりあり）をまとめる。 ③練習問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・1000-3位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.53	1	①1000-265の計算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。	[知技]発言・行動観察
(3) 大きい数の筆算 上 p.54～55 2時間			
・4位数を含む加減筆算の仕方を、既習の筆算の仕方を基に考え、統合的にまとめる。 上 p.54	1	①2483+7156, 7156-2483の計算の仕方を考える。 ②5102±4398の計算の仕方を考える。 ③計算の仕方をまとめる。	[思判表]発言・記録
・4位数±4位数の計算の仕方を確実に身につけ、計算することができる。 上 p.55	1	①4位数±4位数などの型の計算練習をして、数が大きくなっても加減筆算の仕方は変わらないことをまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.56～57, 146 1時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.56～57	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.146の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に加減の筆算についての理解を深める。			

単元名	考える力をのばそう「重なりに注目して」		教科書のページ	上 p.58～59
配当時数	1時間	活動時期	6月上旬	学習指導要領の内容 A(2)(7)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2つの量の重なる部分に着目する問題を通して、数量の関係を図に表し考える能力を伸ばす。 上 p.58～59	1	①題意を捉える。 ②テープ図の()にあてはまる数字を書いて図を完成させる。 ③図を見て様々な立式をし、答えの求め方を考える。 ④求め方を発表し、検討する。 ⑤2つの量の重なる部分を求める問題を解く。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	5. 長い長さをはかって表そう [長いものの長さのはかり方と表し方]		教科書の ページ	上 p.60～69
配当時数	7時間	活動時期	6月中旬～下旬	学習指導要 領の内容
				C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		量の単位や測定について理解し適切に単位を用いて長さを表したり、およその見当を付け計器を適切に選択して測定したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して既習の単位を含めた単位の関係を統合的に考える力を養うとともに、身の回りのものの長さを測定した過程を振り返り、量感覚を身に付け、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さの単位（キロメートル(km)）や測定の意味を理解し、長さについての豊かな感覚をもつとともに、それらを活用して適切に長さを単位で表したりおよその見当をつけ適切な単位や計器を選択して測定したりすることができる。
	思考・判断・表現	身の回りのものの特徴や任意の単位に着目し、測定の方法や単位の関係について説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	長さについての単位や測定を用いて身の回りのものの長さを測ったり、既習の単位との関係について考えたりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 長いものの長さのはかり方	上 p.60～63 3時間		
[プロローグ] 上 p.60	1	①p.60の写真を提示し、これまで学習してきた長さの単位や測定を振り返る活動を通して、1mより長いものの測定と表現について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・長いものやまるいものの長さを測定するには、巻尺が適していることやその使い方を理解し、測定することができる。 上 p.61～63	2	①運動マットの長さを測定するにはどうすればよいかを考える。 ②長いものの長さを測定するには、巻尺が適していることを知り、巻尺の目盛りの読み方を知る。 ③教室の縦と横の長さを巻尺で測定する。 ④長さの見当をつけてからいろいろなものの長さを巻尺で測定する。 ⑤測定対象に応じた計器を選択する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 長い長さのたんい	上 p.64～66 1時間		
・道のりや距離の意味を知り、長さを表す単位「キロメートル(km)」について理解する。 上 p.64～66	1	①「きより」と「道のり」の意味を知り、絵地図を見て距離や道のりを調べる。 ②長い道のりや距離を表す単位「キロメートル(km)」を知る。 ③「ますりんつうしん」を読んで、昔の長さの単位「里」について知り、長さへの興味・関心を高める。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 上 p.67～69 3時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的活動を通して学習内容の理解を深め、長さについての量感を養う。 <p style="text-align: right;">上 p.67</p>	2	<p>[いかしてみよう]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 10m の距離を予想し、巻尺を用いて確認する。 ② 1km を歩いてかかった時間や歩数を調べ、その長さを体感する。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">上 p.68～69</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 「たしかめよう」に取り組む。 ② 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	6. 数をよく見て暗算で計算しよう [暗算]			教科書のページ	上 p.70～73
配当時数	3 時間	活動時期	6 月下旬	学習指導要領の内容	A(2)ア(イ), イ(ア)内容の取扱い(2)

単元の目標		2 位数同士の加減法の暗算の仕方について理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して暗算の仕方を考える力を養うとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	被減数が 100 の減法の暗算や 2 位数同士の加減法を暗算で計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や加減法に関して成り立つ性質に着目して、暗算による計算の仕方を工夫して考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数同士の加減法を暗算で計算したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 暗算 上 p.70～73 3 時間			
[プロローグ] 上 p.70	1	①p.70 の写真を見て、筆算を用いずに代金やおつりを求める活動を通して、工夫して計算することで筆算を用いずに加減の計算をすることができるようになるという単元の課題を設定する。	
・被減数が 100 の暗算の仕方を、数の構成を基に考え、説明することができる。 上 p.71～72		①100－79 の計算を暗算でする方法を考え、説明する。 ②問題場面を理解し、100－62 の計算などを暗算で行う方法を考え、説明する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・数の構成を基に、2 位数同士の加減法の暗算の仕方を説明することができる。 上 p.72～73	1	①44＋29 や 52－38 の暗算の仕方を考え、説明する。	[思判表]発言・記録
・2 位数同士の加法や減法の暗算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。 上 p.73	1	①2 位数同士の加減法を暗算を用いて計算する。	[知技]発言・行動観察

単元名	7. わり算を考えよう [あまりのあるわり算]		教科書のページ	上 p.74～83, 146
配当時数	7 時間	活動時期	7 月上旬～中旬	学習指導要領の内容 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)

単元の目標		わり切れない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の関係に着目し、数学的に処理した過程を振り返り、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について理解し、それらを活用して数量の関係を捉えることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合して捉え、除法の意味や計算に成り立つ性質について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) あまりのあるわり算 上 p.74～80 5 時間			
[プロローグ] 上 p.74	1	①p.74 のイラストを見て、既習の余りのないわり算の計算についての話し合いを通して、わり切れない除法の意味や計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。	
・ 除数と商が 1 位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。 上 p.75～76		①14÷3 の答えの見つけ方を考える。 ②計算結果を式に表すと $14 \div 3 = 4$ 余り 2 となることを知る。 ③わり算には、わり切れるときとわり切れないときがあること知る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 余りと除数の関係を理解する。 上 p.77	1	①13÷4 の計算について余りと除数の関係を調べる。	[知技] 発言・行動観察
・ 等分除の計算についても、包含徐の計算の方法を基に考え、説明することができる。 上 p.78	1	①題意を捉え、 $16 \div 3$ と立式し、答えの見つけ方を考える。 ②文章題に取り組む。	[思判表] 発言・記録
・ わり切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。 上 p.79	1	①わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	[知技] 発言・行動観察
・ わり切れない場合を含む、除法の計算ができる。 上 p.80	1	①計算練習と答えの確かめをする。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技] 発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) あまりを考える問題 上 p.81 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 余りの捉え方について理解を深める。 <p style="text-align: right;">上 p.81</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 題意を捉え、$23 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 ② 計算では5余り3だが、答えを5としてよいか話し合う。 ③ 答えは商+1になることをまとめる。 ④ 題意を捉え、$30 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 ⑤ 計算では7余り2だが、商をそのまま答えとしてよいか、それとも商+1とすべきかを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
まとめ 上 p.82~83, 146 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">上 p.82~83</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 「たしかめよう」に取り組む。 ② 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】 巻末 p.146 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に余りと規則性についての理解を深める。 			

単元名	8. 10000 より大きい数を調べよう [大きい数のしくみ]			教科書の ページ	上 p.84～97, 147
配当時数	10 時間	活動時期	9 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		万の単位や1億までの整数について知り、十進位取り記数法や4桁区切りによる命数法(万進法)を基に、大きな数の読み方や計算の仕方を考えるとともに、整数の表し方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	万の単位や1億までの整数を知り、十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、10倍、100倍、1000倍、1/10にした数や数の相対的な大きさを不等号を用いて表す方法を理解している。
	思考・判断・表現	整数の仕組みや表し方に着目し、万の単位を用いた整数の仕組みについて類推して考え、大きな数の大小の比べ方や表し方を統合的に捉え説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	1億までの数の仕組みや表し方について、統合的に捉えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 数の表し方 上 p.84～93 7 時間			
[プロローグ] 上 p.84	1	①p.84の写真を提示し、身の回りで見かける大きい数を読んだり表したりする活動や既習の大きい数についての自由な話し合いなどを通して、「10000」より大きい数について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・一万の位までの数の読み方や書き方、構成や命数法について、数の見方や既習の整数の表し方をもとに考え、理解する。 上 p.85～86		①絵を見て、入場券の枚数を数える。 ②24153の数構成と命数法をまとめる。 ③紙の数を数字で表す。 ④「一万の位」を知る。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・十万、百万、千万の数の仕組みと千万の位までの読み方や書き方、数の構成について理解する。 上 p.87～88	1	①一万を10こ集めた数を「十万」といい、「100000」と書くことを知る。 ②一万～千万の数の表し方の仕組みを考え、それぞれ10こ分の関係になっていることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①一万の位の左から順に「十万の位、百万の位、千万の位」ということを知る。 ②適用問題に取り組む。	
・数の相対的な大きさについて、1000を基に考え、説明することができる。 上 p.89	1	①1000を23こ集めた数はいくつかを考える。 ②34000は1000を何こ集めた数かを考える。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・1万より大きい数の大小や順序、「1億」についてを知る。 上 p.90～91	1	①「数直線」を知る。 ②数直線に表された数を読んだり、数を数直線に表したりする。 ③千万を10こ集めた数を「一億」といい、「100000000」と表すことを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・数や式の相等関係や大小関係の表し方を理解することができる。 上 p.92	1	①数の構成に基づく、大きい数の計算の仕方を考える。 ②□にあてはまる、「=、>、<」の記号を書く。 ③「等号」「不等号」の用語と意味についてまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・数の構成を多面的に捉え、数の見方を豊かにする。 上 p.93	1	①16000について、いろいろな表し方を考え、言葉や式で表す。 ④式に表された、他者の考えを読み取り、表現する。	[思判表]発言・記録
(2) 10倍した数と10でわった数 上 p.94～95 2時間			
・整数を10倍した数の表し方を理解する。 上 p.94～95	1	①25の10倍の数を考える。 ②もとの数と10倍した数の並び方を比べる。 ③25の10倍の数を考える。	[知技]発言・行動観察
・整数を100倍、1000倍した数、10でわった数の表し方を理解する。 上 p.95	1	①25の10倍を10倍した数を考える。 ②25の10倍を10倍し、さらに10倍した数を考える ③25の1000倍した数を考える。 ④もとの数を10倍、100倍、1000倍した数の位の上がり方についてまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.96～97, 147 1時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.96～97	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.147の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に一億までの数についての理解を深める。			

単元名	9. 大きい数のかけ算のしかたを考えよう [かけ算の筆算(1)]		教科書の ページ	上 p.98~112, 147
配当時数	11 時間	活動時期	9 月下旬~ 10 月上旬	学習指導要 領の内容 A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)(4)

単元の目標		2 位数や 3 位数に 1 位数をかける乗法の計算の仕方について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりするとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2~3 位数×1 位数の乗法の筆算の仕方を理解し、それらを活用して計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や既習の乗法計算に着目し、2~3 位数×1 位数の筆算について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2~3 位数×1 位数の筆算について、乗法九九などの基本的な計算を基に考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 何十、何百のかけ算 上 p.98~101 2 時間			
[プロローグ] 上 p.98	1	①九九表の空欄の求め方を考える活動を通して、2~3 位数に 1 位数をかける乗法の計算の仕方や性質を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・何十、何百に 1 位数をかける計算の仕方について、10 や 100 を基に考え、説明することができる。 上 p.99~101	1	①20×3 の計算の仕方を考える。 ②その式を立てたわけを説明する。 ③200×3 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①2×3, 20×3, 200×3 の式を比較する。 ②被乗数が 10 倍になると、答えも 10 倍になっていることをまとめる。 ③被乗数が 100 倍になると答えも 100 倍になることをまとめる。	
(2) 2 けたの数に 1 けたの数をかける計算 上 p.101~106 5 時間			
・2 位数×1 位数 (部分積がみな 1 桁) の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.101~103	1	①問題場面を捉え、立式する。 ②23×3 の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①23×3 の筆算の仕方をまとめる。 ②適用問題に取り組む。	
・2 位数×1 位数 (一の位の数との部分積が 2 桁) の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.104	1	①1 辺 16cm の正方形の周長を求める式を立てる。 ②16×4 の筆算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.105	1	① 42×3 , 58×3 の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。	[知技]発言・行動観察
・2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.106	1	① 29×4 , 76×4 の筆算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察
(3) 3けたの数に1けたの数をかける計算 上 p.107～110 3時間			
・3位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方について、2位数×1位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.107～108	1	①問題場面を捉え、立式する。 ② 312×3 の計算の仕方を考える。 ③ 312×3 の筆算の仕方を考える。 ④筆算の仕方をまとめる。	[思判表]発言・記録
・3位数×1位数（部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方について、既習の乗法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.109	1	① 386×2 の筆算の仕方を考える。 ② 937×4 の筆算の仕方を考える。	[思判表]発言・記録
・3つの数の乗法が1つの式に表せることを知り、乗法の結合法則について理解する。 上 p.110	1	①問題場面を捉え、代金の求め方について考える。 ②場面を3つの数の乗法の式で表す。 ③3つの数の乗法の結合法則をまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.111～112, 147 1時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.111～112	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.147 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に2～3位数×1位数のかけ算についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	上 p.113
配当時数	—	活動時期	10月上旬	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.113	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	10. わり算や分数を考えよう [大きい数のわり算, 分数とわり算]			教科書の ページ	上 p.114~117
配当時数	4 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	A(4)ア(オ), イ(ア)(イ) (6)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除数の計算や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養うとともに、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について説明している。 分数で表されている場面を適切に捉え、除法の計算を用いて答えを求めることができる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 既習の計算の仕方やテープ図などを用いて、数の構成に着目して簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について考え、説明している。 等分することや分数の意味に着目して、分数で表された数を除法を用いて計算することを考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を、既習の除法計算などを基に考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 分数と除法の関係やもとの数と分数の関係を考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 大きい数のわり算 上 p.114~115 2 時間 ※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。			
<ul style="list-style-type: none"> 60÷3の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上 p.114	1	①60÷3の計算の仕方を、60を10の6こ分と捉えて既習の計算を使って考える。 ②問題演習に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 69÷3の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上 p.115	1	①69÷3の計算の仕方を、69を60と9に分けて考える。 ②問題演習に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 分数とわり算 上 p.116~117 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。 上 p.116	1	①80cmの1/4の長さの求め方を考える。 ②分数で表された数を除法を用いて表すことができることを知る。	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。 上 p.117	1	①84cmや88cmの1/4の長さを求める。 ②もとの長さの1/4の長さが異なる理由を考える。 ③もとの大きさと分数の関係をまとめる。	[知技]発言・行動観察

単元名	どんな計算になるのかな？			教科書の ページ	上 p.118～119
配当時数	1 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	A(2)(3)(4)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・加減乗除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 上 p.118～119	1	①問題文を読み，それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。 ②絵を見て作問し，解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	11. まるい形を調べよう [円と球]			教科書のページ	上 p.120～132
配当時数	8 時間	活動時期	10 月下旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(ウ), イ(ア)内容の取扱い(6)

単元の目標		円や球の構成する要素や性質について理解しコンパスを用いた作図や長さを測り取ることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して構成の仕方や身の回りのものを円や球として考える力を養うとともに、図形をかいたり確かめたりする活動を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	円の中心や半径、直径について理解し、円に関連して球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで円をかいたり、等しい長さを測り取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方について考えたり、身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかを考えたり、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	円や既習の図形の作図を基に模様をかくなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形のもつ美しさに関心をもったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 円 上 p.120～127 5 時間			★他教科との関連: 英語
[プロローグ] 上 p.120	1	①p.120 の写真から、身の回りにある図形について説明する。 ②p.121 のイラストを提示し、玉入れゲームにおける並び方について話し合いをしながら、並ぶ位置によってかごからの距離が違うことに気づかせ、円の構成や性質の仕方を捉えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・中心、半径の用語を知り、円の構成や性質について理解する。 上 p.121～123		①かごからの距離が同じになる並び方を考え、並び方を線で表す。 ②かごからの距離が同じになるように並ぶとき、人数が増えればきれいなまるい形になることを捉える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①p.153 の付録を使って、いろいろな大きさの円をかく。 ②1 つの点から長さが等しくなるようにかいたまるい形を「円」ということ、及び「中心」「半径」の意味を知る。 ③1 つの円に半径となる線をたくさんひいて、半径は無数にあることや、どれも同じ長さであることを確認する。 ④身の回りから、円の形をしたものを探す。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・直径の意味や直径と半径の関係を理解する。 上 p.123～124	1	①円の中心の見つけ方を考える。 ②「直径」の意味を知る。 ③直径の長さは半径の長さの2倍であることをまとめる。 ④円周上の2点を結ぶ直線のうち、最長のものが直径であることを確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・コンパスを使って、円をかきことができる。 上 p.125	1	①円をかくにはコンパスを使うと便利であることを知る。 ②コンパスの使い方に注意して、指定された半径の円をかき。 ③コンパスを使って、模様づくりに取り組む。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察
・コンパスは等しい長さを測り取ったり移したりすることができること理解する。 上 p.126～127	1	①直線と折れ線の長さを比較する方法を考える。 ②コンパスは等しい長さを測り取るのに使えることを捉え、長さの比較に用いる。 ③p.127の絵を使って、指定された大きさの円をかいて宝の場所を探す活動に取り組む。	[知技]発言・行動観察
(2) 球 上 p.128～129 1時間			
・球の特徴について理解する。 上 p.128～129	1	①ボールなどの具体物を真上や真横から観察する。 ②球の特徴を調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ③「球」や球の「中心」、「半径」、「直径」について知る。 ④球の形をしたものの直径の長さをはかる。 ⑤「算数のおはなし」を読んで、「直径」「半径」の漢字の意味を知り、用語の意味の理解を深める。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.130～132 2時間			
・学習内容を適用して問題を解決する。 上 p.130	1	[いかしてみよう] ①コンパスで円をかき活動を通して模様をかき、こまを作る。 ②円と球の関係を具体物を用いて考える。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.131～132	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「タングラム」		教科書のページ	上 p.134
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 基本図形を組み合わせていろいろな形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 <p style="text-align: right;">上 p.134</p>	—	①正方形を7分割した基本図形を使って、他の基本図形やいろいろな具体物の形を作る。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	12. 数の表し方やしくみを調べよう [小数]		教科書のページ	下 p.2~20
配当時数	12 時間	活動時期	11 月上旬～中旬	学習指導要領の内容 A(5)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		小数の意味や表し方について理解し、加法や減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して小数の表し方や仕組み、計算の仕方を考えるとともに、身の回りにある小数で表された数の意味について振り返り、日常生活に生かそうとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	端数部分の大きさを表す際に小数を用いることや小数の仕組みについて理解し、それらを活用して 1/10 の位までの小数の加減の計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数の表現や数のまとまりに着目し、小数は整数の十進位取り記数法を拡張したものとして捉え、小数を含む数の大小関係や加減の計算方法について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	小数の表し方や意味や加減計算の仕方について、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 1 より小さい数の表し方 下 p.2~7 4 時間			
[プロローグ] 下 p.2	1	①p.2 の写真を提示し、身の回りにある数の並びが同じで小数点のあるものとないものの数表示を話題として取り上げ、自由な話し合いなどを通して、小数や小数の表し方を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・整数で表せない端数部分の大きさの表し方を、既習の単位の学習に着目して考え、説明することができる。 下 p.3~5	1	①水を 1L のますではかったときの 1L に満たないはしたのかさの表し方を考える。 ②1L を 10 等分した 1 十分のかさを「0.1L」ということを知る。 ③はしたのかさはその 3 十分で 0.3L で、合わせて 1.3L になることを知る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・長さ (cm) の端数部分の表し方を水のかさを小数を用いて表したことに基いて考え、説明することができる。 下 p.6	1	①前時の学習を振り返りながら小数を使ってはしたの大きさを表す。 ②用語「小数」「小数点」「整数」を知る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・長さ (cm) の端数部分の表し方を水のかさを小数を用いて表したことに基いて考え、説明することができる。 下 p.6	1	①8cm7mm のテープの長さを cm 単位で表すことを考える。 ②長さや重さの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・数直線上の 1 目盛りがいくつを表すのかを基に、数直線上の小数を表す目盛りを読んだり小数を数直線に表したりする方法を考え、説明することができる。 下 p.7	1	①数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。 ②小数の相対的な大きさについて考える。	[思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 小数のしくみ 下 p.8~9 2時間			
・用語「小数第一位」を知り、小数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 下 p.8	1	①147.2の構成について考える。 ②用語「小数第一位」を知る。 ③位取り板と数カードを使って、147.2の構成を捉える。	[知技]発言・行動観察
・小数の大小関係について理解する。 下 p.9	1	①数直線を使って、小数の大小を考える。 ②小数の大小を比較する時には、整数の場合と同じように、位の数字に着目すればよいことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 小数のしくみとたし算、ひき算 下 p.10~12 3時間			
・小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位同士の小数の加法の計算方法を考え、説明することができる。 下 p.10	1	①場面を捉え、立式について考える。 ② $0.3+0.2$ の計算の仕方を、0.1を単位として $3+2$ の計算に帰着して考える。 ③既習の $30+20$ と $0.3+0.2$ を統合的に捉える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・小数の表し方と仕組みに着目し、小数第一位同士や1から小数をひく減法計算の仕方を考え、説明することができる。 下 p.11	1	①場面を捉え、立式について考える。 ②前時の学習を使って、 $0.5-0.2$ や $1-0.4$ の計算の仕方を考える。 ③前時と同様に、 $0.5-0.2$ の計算を、0.1を単位として $5-2$ の計算に帰着して考える。 ④前時の加法の学習と本時を、0.1を単位として整数の加減計算に帰着して考えるという見方・考え方で統合的に捉える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し、それらの計算をすることができる。 下 p.12	1	① $2.5+1.8$ の筆算の仕方を考える。 ②小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方をまとめる。 ③ $4.3-1.8$ の筆算の仕方を考える。 ④ $1.2+2.8$, $4.2-3.5$, $5-1.4$ の筆算の仕方を考える。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) 小数のいろいろな見方 下 p.13~17 1時間			
[今日の深い学び] ・小数の表現や構成に着目し、小数についていろいろな見方や表し方を考え、表現することができる。 下 p.13~17	1	①2.8を数直線に表し、いろいろな見方や表し方を考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式や数直線で表す。 ③2.8は数の構成や、相対的な大きさを基にするといろいろな表し方ができることをまとめる。	[思判表]発言・記録
まとめ 下 p.18~20 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的に捉え論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.18	1	[いかしてみよう] ①九九の答えを活用した模様づくりに取り組む。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。 下 p.19~20	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.21	
配当時数	—	活動時期	11月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.21	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	13. 重さをはかって表そう [重さのたんいとはかり方]			教科書の ページ	下 p.22～34, 125
配当時数	9 時間	活動時期	11 月中旬～ 下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(7)

単元の目標		重さの単位と測定について理解し、適切に重さの測定や表し方の選択ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して身の回りのものの重さや重さの単位を統合的に考える力を養うとともに、重さの表し方について考えた過程を振り返り、量感覚を身に付け、日常生活に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	重さについて、単位や単位間の関係を理解し、およその見当をつけ、適切な計器を選んで測定することができる。
	思考・判断・表現	身の回りのものの重さやその単位に着目し、量感や単位の関係を統合的に考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りにあるものの重さやそれらを数値化することのよさ、普遍単位の必要性を振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 重さのくらべ方 下 p.22～25 3 時間		★他教科との関連:理科	
[プロローグ] 下 p.22	1	①p.22 の写真を提示し、物の大きさと重さ、重さの保存性、つり合い（重い方に傾くことなど）についての話し合い活動を通して、重さの比較や測定について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・身の回りのものの重さを道具やもとにする大きさを定め、比較する方法を考え、説明することができる。 下 p.23～24	1	①いろいろな文房具などの重さの比べ方を考える。 ②どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。	
・単位の必要性を認め、重さを表す単位「グラム (g)」を知る。 下 p.25	1	①積み木や一円玉など、適当な任意単位を使って比べ、表にまとめる。 ②1 円玉と自作天びんを使って、いろいろなものの重さを測定する。	
(2) はかりの使い方 下 p.26～32 5 時間			
・重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、目盛りの読み方を理解する。 下 p.26～27	1	①重さとはかりの針の動き方の関係を捉える。 *デジタルコンテンツ設定有 ②はかりを使う際の留意事項をまとめる。 ③秤量 1kg のはかりの目盛りの読み方を調べて、目盛りを読む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・重さを表す単位「キログラム (kg)」, 1kg=1000g の関係を理解する。 下 p.28～29	1	①重さの単位「キログラム(kg)」, 1kg=1000g の関係を理解する。 ②秤量 2kg のはかりの目盛りを読む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 正味, 風袋, 全体の重さの関係を知り, 重さの加法性や測定の方法の工夫について理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.30</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①荷物の重さと箱の重さ, 全体の重さの関係を線分図を用いて理解し, 計算して求める。 ②いろいろなものを使って, 1kg をつくる活動に取り組む。 	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 重い物の重さを表す単位「トン(t)」, 1 t =1000kg の関係を理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.31</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①重さの単位「トン(t)」, 1t=1000kg の関係を理解する。 ②6000kg, 3000kg, 2100kg を t を使って表す。 	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 長さや重さ, 体積などの既習の単位について, それぞれの量の単位の関係を基に考え, 接頭語と単位の関係について説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.32</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①既習の単位を振り返り, 接頭語「キロ(k)」「ミリ(m)」に着目する。 ②接頭語キロ(k)が 1000 倍を意味していることや 1mL のように接頭語ミリ(m)がつく単位で表される量を 1000 倍するとミリ(m)がとれて 1L となることを捉える。 ③単位の関係を活用した単位換算に取り組む。 	[思判表]発言・記録
まとめ 下 p.33~34, 125 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">下 p.33~34</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.125 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に重さについての見方や考え方を広げる。 			

単元名	おぼえているかな?		教科書のページ	下 p.35
配当時数	—	活動時期	11 月下旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 <p style="text-align: right;">下 p.35</p>	—	①「おぼえているかな?」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	14. 分数を使った大きさの表し方を調べよう [分数]		教科書の ページ	下 p.36～49, 126
配当時数	10 時間	活動時期	12 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容 A(6)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(5)

単元の目標		分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解し、それらを用いて分数の加法及び減法の計算をすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して分数での端数の表し方や小数との関係を考える力を養うとともに、分数の仕組みを用いて考えた過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	端数部分を表す数や大きさを表す数としての分数やその表し方を理解し、それらを活用して分数の加法及び減法の計算や 1/10 の位までの小数と分母が 10 の分数の関係について理解している。
	思考・判断・表現	分数は単位量を n 等分した 1 こ分を任意の単位としていることに着目して、数の大きさを比べたり、計算したりする方法を考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	分数を用いることで、整数では表すことのできない等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表せるようになることを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 等分した長さやかさの表し方 [プロローグ] 下 p.36	3 時間	①p.36 の図を提示し、もとの長さの 1/3 の長さが異なるのはなぜなのかを考え、分数の学習の振り返りを行うと同時に、等分したときの大きさの表し方や分数が表す大きさについての考え方を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・1m を 3 等分した 1 こ分の大きさを分数で 1/3m と表すことを理解する。 下 p.37～38	1	①1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さの表し方を考える。 ②1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さを 1m の「三分の一」といい、「1/3m」と書くことを知る。 ③1/3m は、その 3 こ分で 1m になる長さであることを確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・分数を用いた長さの表し方について、単位分数の考え方を基に考え、説明することができる。 下 p.38～39	1	①1m のテープを 3 等分した 2 こ分の長さの表し方を考える。 ②その長さを 1m の「三分の二」といい、「2/3m」と書くことを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・「分数」「分母」「分子」の意味を知り、液量についても長さと同様に端数部分の大きさを分数で表せることを考え、説明することができる。 下 p.40～41	1	①1L を 5 等分した 2 こ分のかさの表し方を考える。 ②1L を 4 等分した 1 こ分、6 等分した 4 こ分のかさの表し方を考える。 ③「分数」「分母」「分子」の意味を知る。 ④「ますりんつうしん」を読む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 分数のしくみ 下 p.42～45 4 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 分数を数直線に表し、分数の大きさの比較や 1m を n 等分したものの n こ分は 1 になることを理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.42</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①数直線を用いて、$4/5\text{m}$ と $3/5\text{m}$ の長さの比較を行う。 ②$4/5\text{m}$ と $3/5\text{m}$ の長さを比べ、違いは 1 目盛り何こ分かを考える。 ③$5/5\text{m}$ は 1m と同じ大きさであることを確認する。 ④1m を 6 等分した数直線から長さをそれぞれ求める。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 単位分数の何こ分という表し方を基に、1 よりも大きい分数の表し方を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.43</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①$1/5\text{m}$ の 6 こ分、7 こ分、…の長さは何 m か考える。 ②$10/5\text{m}$ は 2m と同じ大きさであることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> $3/4\text{m}$ と、もとの長さの $3/4$ の違いについて理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.44</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①図を見て、色を塗った部分の長さが 2m のいくつ分の長さなのかを考える。 ②1m を何等分しているかに着目し、図の色を塗った部分の長さを分数で表す。 ③$3/4\text{m}$ とは、もとの長さ 1m の $3/4$ の長さであることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 分母が 10 の分数と $1/10$ の位までの小数の関係について理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.45</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①$1/10$ を単位とした数直線を基に分数の大きさや、分数と小数の関係について考え、$1/10=0.1$ であることを理解する。 ②小数第一位を「$1/10$ の位」ともいうことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
(3) 分数のしくみとたし算、ひき算 下 p.46～47 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 分数の表し方と仕組みに着目し、同分母の分数の加法及び減法の計算方法を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.46～47</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①分数 ($3/10$ と $2/10$) についても、たし算ができるか考える。 ②小数に置き換えてもできることを確かめ、$1/10$ の何こ分で考えればよいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①分数 ($4/5$ と $2/5$) においても、ひき算ができるか考える。 ②前時の学習を生かして、$1/5$ の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることをまとめる。 	
まとめ 下 p.48～49, 126 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">下 p.48～49</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.126 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に分数で表される大きさについて理解を深める。 			

単元名	15. □を使って場面を式に表そう [□を使った式]			教科書の ページ	下 p.50～57, 127
配当時数	4 時間	活動時期	1 月中旬	学習指導要 領の内容	A(7)ア(7), イ(7)

単元の目標		未知の数量を表す□などの記号を用いて数量の関係を式に表すことについて理解し、数量の関係を式に表したり、□などの記号に数を当てはめて調べたりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数量の関係を簡潔に表したり、式の意味を読み取ったりする力を養うとともに、数量の関係を表す式を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	数量の関係を表す式に未知の数量を表す□などの記号を用いることを理解し、それらを活用して問題場面を式や図に表したり、式の意味を読み取って問題場面を考え、□に当てはまる数の調べ方を理解したりしている。
	思考・判断・表現	数量の関係や問題場面に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて読み取ったりして未知の数量を表す□を用いた式について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	未知の数量を□などの記号を用いて表すことで、問題場面を式や図に表せることよさを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) □を使った式 下 p.50～55 3 時間			
[プロローグ] 下 p.50	1	①p.50 のコマ絵を提示し、各問題場面を式に表すことを通して、これまでの学習を振り返りながら問題場面を式に表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・未知数があっても□を用いるとお話の通りに式で表せることやその□にあてはまる数の調べ方を理解する。 下 p.51～54	1	①お話にしたがって、未知数□を用いて、たし算の式に表す。 ②表した式について、線分図を使ってお話の場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・□を用いた式から問題場面をつくる方法を、前時に□を用いた式をつくった経験を基に考え、説明することができる。 下 p.55	1	①イラストを見て、問題場面を捉える。 ②それぞれの式で、□が何を表しているのかを考え、式にしたがってお話をつくる。 ③できたお話の場面を、式と対応させて確認する。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.56～57, 127 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">下 p.56～57</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】 巻末 p.127 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に未知の数量と逆思考について理解を深める。 			

単元名	16. かけ算の筆算を考えよう [かけ算の筆算(2)]			教科書の ページ	下 p.58～68, 128
配当時数	10 時間	活動時期	1 月中旬～ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		2 位数や 3 位数に 2 位数をかける乗法の計算について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりするとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2～3 位数×1 位数の乗法の筆算の仕方を活用して、2～3 位数×2 位数の乗法の筆算を計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や既習の 2～3 位数×1 位数の筆算の仕方に着目し、2～3 位数×2 位数の筆算について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数×2 位数の筆算について、既習の筆算の計算方法を基に考えられたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 何十をかける計算 下 p.58～61 2 時間			
[プロローグ] 下 p.58	1	①p.58 の表を提示し、既習の 2～3 位数×1 位数の計算や未習の 2～3 位数×2 位数の計算が表のどこに当たるのかを考える活動を通して、未習の 2～3 位数×2 位数の計算方法について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 1 位数×何十の計算の仕方について、図や数直線をも基に考え、説明することができる。 下 p.59～60		①問題場面を捉え、立式する。 ②5×30 の計算の仕方を考える。 ③かける数が 10 倍になると、答えも 10 倍になることをまとめる。 ④1 位数×何十の計算をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 式と答えを比較し、乗法を 10 倍にすると答えも 10 倍になることを理解し、その計算をすることができる。 下 p.60～61	1	①12×30 の計算について考える。 ②2 位数×何十の計算をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 2 けたの数をかける計算 下 p.61～65 6 時間			
・ 2 位数×2 位数 (部分積がみな 2 桁で繰り上がりなし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.61～63	1	①問題場面を捉え、立式する。 ②12×23 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①筆算の仕方をまとめる。 ②適用問題に取り組む。	
・ 2 位数×2 位数 (部分積が 3 桁で繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.63	1	①58×46 の筆算の仕方を考える。 ②適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 2位数×2位数（乗数の末尾に0がある）の簡便な計算の仕方や1位数×2位数の計算の仕方を乗法の性質を基に考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.64</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①86×30の簡便な筆算の方法を考える。 ②3×46の筆算と46×3の筆算を比べてどちらが計算しやすいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 3位数×2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 <p style="text-align: right;">下 p.65</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①587×34の筆算の仕方を、既習の筆算を基に考える。 ②桁数が増えても、既習の筆算と同じように計算できることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①乗法の筆算を練習する	
(3) 暗算 下 p.66 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合の2位数×1位数の暗算の仕方を理解し、その暗算ができる。 <p style="text-align: right;">下 p.66</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①23×3, 230×3, 23×30の暗算の仕方を考える。 ②25×4=100を基にして、25×8の暗算の仕方を考える。 ③8×25の暗算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.67～68, 128 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">下 p.67～68</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.128の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に乗数の桁数が大きくなる時のかけ算の筆算について理解を深める。 			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.69
配当時数	—	活動時期	2月上旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 <p style="text-align: right;">下 p. 69</p>	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	倍の計算			教科書のページ	下 p.70～73
配当時数	3 時間	活動時期	2 月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(4)(7)

単元の目標		基準量や倍の意味について理解し、それぞれ答えを求めることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して演算決定や数量の関係を考える力を養うとともに、二つの数量の関係を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	倍の意味を理解し、問題場面に応じてテープ図や□を用いた式などを用いながら、答えを求めることができる。
	思考・判断・表現	基準量や数量の関係に着目し、倍の意味や計算方法について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	基準量や倍について考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 倍の計算 下 p.70～73 3 時間			
・ある量の何倍かにあたる数を求めるときに、乗法を用いることを理解する。 下 p.70～71	1	①自分の「あた」や「つか」の長さを調べる。 ②15 cmの4倍の長さの求め方を考える。 ③ある量の何倍かにあたる数を求めるときには、乗法を使うことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ある数がもとにする大きさの何倍かを求めるときに、除法が用いられることを理解する。 下 p.72	1	①40m が 5m の何倍かを求める方法を考える。 ②何倍かを求めるには除法を使えばよいことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・基準量を求める場合には、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。 下 p.73	1	①数量の関係をテープ図や数直線に表して考え、□を用いた乗法の式に表す。 ②□にあてはまる数を求めるには、除法を用いることをおさえる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	17. 三角形を調べよう [三角形と角]			教科書の ページ	下 p.74～89
配当時数	8 時間	活動時期	2 月下旬～ 3 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(6)

単元の目標		作図などを通して二等辺三角形や正三角形の関係や角について理解し、図形の特徴を捉えることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して図形を構成する要素や構成の仕方を考える力を養うとともに、図形の要素に着目し、図形を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	作図などの活動を通して、二等辺三角形や正三角形、角の大きさについて知り、それらを活用して基本的な図形の性質や構成する要素を理解している。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方を考えるとともに、基本的な図形の性質について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	辺の長さや角の大きさなどの図形を構成する要素に着目し、学習を通して身の回りのものの形を図形として捉えたことを振り返り、図形の敷き詰めなどの作図に関心を持ったり、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 二等辺三角形と正三角形	下 p.74～83 4 時間	★他教科との関連:英語	
[プロローグ] 下 p.74	1	①p.74 の写真を提示し、身の回りの三角形に着目させるとともに、円周上に点を 12 個等間隔に打った図で、円周上の点や中心を直線で結んでいろいろな三角形をつくる活動を通して、三角形を構成する要素に着目し二等辺三角形や正三角形について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 15 分程度)	
・ 辺の長さに着目して三角形を弁別し、二等辺三角形や正三角形の意味について理解する。 下 p.75～76		①円周上の等間隔の点を結んで、いろいろな三角形をつくり、できた三角形を辺の長さに着目して弁別する。 ②「二等辺三角形」「正三角形」の特徴を理解し、探したり選んだりする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 二等辺三角形の作図の仕方を理解し、作図することができる。 下 p.77	1	①底辺が 3cm で 2 つの辺が 4cm の二等辺三角形のかき方を考える。 ②コンパスと定規を用いて、二等辺三角形を作図する。 ③二等辺三角形の作図練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 正三角形の作図の仕方を、二等辺三角形やの作図の仕方を基に考え、説明することができる。 下 p.78	1	①3 辺が 4cm の正三角形のかき方を考える。 ②コンパスと定規を用いて、正三角形を作図する。 ③正三角形の作図練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>[今日の深い学び]</p> <p>・二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を、円の性質を用いて考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.79～83</p>	1	<p>①ノートにかいた半径 3 cmの円を用いて、中心と円周上に2つの点を結びいろいろな三角形をかき、どれも二等辺三角形になることを確認する。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p> <p>②円周上のどの2点をとっても二等辺三角形になる理由を考え、説明する。</p> <p>③正三角形をかくには、円周上の2点をどのようにとればよいか考える。</p> <p>④円の性質を使うと、二等辺三角形や正三角形がかけるところをまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
(2) 三角形と角 下 p.84～87 2 時間			
<p>・角の意味や角の大きさの相等や大小を調べることができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.84～85</p>	1	<p>①三角定規で、直角や他の鋭角を紙に写し取り、一番とがっている角を探す。</p> <p>②「角」および角の大きさの意味を知る。</p> <p>③紙に写し取った三角定規の角を用いて、角の大きさを比べる。</p> <p>④角の大きさは辺の長さに依存しないことをまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・二等辺三角形や正三角形の角の特徴を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.86～87</p>	1	<p>①二等辺三角形と正三角形のを紙にかいて切り抜き、それぞれの3つの角の大きさを調べる。</p> <p>②二等辺三角形、正三角形の角の性質をまとめる。</p> <p>③三角定規 2 枚で三角形を構成しながら、二等辺三角形と正三角形の性質の理解を深める。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
まとめ 下 p.87～89 2 時間			
<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p style="text-align: right;">下 p.87</p>	1	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①巻末の折り込みにある、二等辺三角形や正三角形を並べて敷き詰める。</p> <p>②コンパスや定規を用いて模様をつくる。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p style="text-align: right;">下 p.88～89</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	18. わかりやすく整理して表そう [ぼうグラフと表]		教科書の ページ	下 p.90~104
配当時間	10 時間	活動時期	3 月上旬~中旬	学習指導要 領の内容 D(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(8)

単元の目標		日常の事象について、観点別にデータを分類整理することについて理解し、表や棒グラフに表したり読んだりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して表やグラフから見出したことを考察する力を養うとともに、データを整理し考察した過程を振り返り、今後の学習や日常生活に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	日時や場所などの観点別にデータを分類整理することを理解し、それらを活用して表やグラフから項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴を読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	目的に応じたデータを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察したり、見出したことを分かりやすく表したりすることについて考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	データを分類整理したり、それらをもとに身の回りの事情について考察したりした過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 整理のしかたとぼうグラフ 下 p.90~96 5 時間			
[プロローグ] 下 p.90	1	①p.90 のイラストを提示し、けがの種類や場所などについての自由な話し合いなどを通して、身の回りの事象を解決するために、データを見やすく整理し考察するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・資料を分類整理する方法や整理した結果を表にまとめる方法を理解する。 下 p.91~92	1	①p.91 の吹き出しを基に、けがの種類別の人数を「正」の字を使って整理する。 ②結果を表に表す。 ③「合計」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①p.133 の記録を基に、けがの場所と人数を表にまとめる。 ②「その他」の意味を知る。	
・資料を棒グラフに表すと、数量の大小が分かりやすいことや、棒グラフの読み取り方を理解する。 下 p.93~94	1	①「棒グラフ」について理解する。 ②表と棒グラフを比較し、どんなことがわかりやすくなったかを考える。 ③棒グラフの長さに着目して、棒グラフの特徴をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・棒グラフのかき方を理解し、表から棒グラフにかき表すことができる。 下 p.94~95	1	①けがの場所と人数を整理した表を見て、棒グラフに表す。 ②項目のとり方、1 目盛りの大きさなどの順に従ってグラフをかく。 *デジタルコンテンツ設定有 ③かいた棒グラフから読み取れることを考える。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> データを表に分類整理し、棒グラフに表したり、倍の考えを用いてデータの分析をしたりすることができる。 下 p.96 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①p.133 のデータを正の字を用いて調べ、表に表す。 ②前時に学習した棒グラフのかき方をもとに、グラフにかき表す。 ③棒グラフからデータ同士の関係を倍を用いて表す。 ④整理したデータを用いて、どんなポスターをつくることができるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) ぼうグラフの1めもりの大きさ 下 p.97~100 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 数量が横軸に表されている棒グラフを読み取ったり、1めもりの取り方について理解したりすることができる。 下 p.97~98 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①横軸に数量がかかっているグラフの読み方や昇順に並べない場合があることを知る。 ②1目盛りの表す大きさが異なる場合の読み取り方を知る。 ③表やグラフ用紙から、1目盛りをいくつにすればよいかを考え、グラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 同じデータからかいた、1目盛りの表す大きさが異なる3つの棒グラフを比較し、棒グラフの読み取りや特徴を理解する。 下 p.99~100 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①1目盛りの表す大きさの異なる3つのグラフを比較する。 ②棒の長さ等に注目しながら、棒グラフの読み取りをする。 ③棒を組み合わせたグラフを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 表のくふう 下 p.101 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を読むことができる。 下 p.101 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①3か月のけがの種類と人数をまとめた3つの一次元表を読む。 ②3つの表をまとめた二次元表に数を書き入れたあと、この表を読む。 ③二次元表の有用性を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.102~104 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的に捉え論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.102 	1	<ul style="list-style-type: none"> [いかしてみよう] ①二次元表からデータを読み取る。 ②二次元表からけが調べのデータを棒グラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 下 p.103~104 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	そろばん			教科書のページ	下 p.105～107
配当時数	2 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A(8)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		そろばんによる数の表し方について理解しそろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して大きな数や小数の仕組みを考える力を養うとともに、計算の過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	そろばんを用いた加減計算の仕方を理解し、それらを活用して簡単な加減計算をすることができる。
	思考・判断・表現	そろばんの仕組みや十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の入れ方や払い方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	そろばんの仕組みと十進数の仕組みを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) そろばん 下 p.105～107 2 時間			
・そろばんの各部分の名称を知り、そろばんにおかれた数の読み方や数の入れ方、払い方を理解し、加減法の基本的な計算をすることができる。 下 p.105～107	2	*デジタルコンテンツ設定有 ①そろばんの各部分の名称を知り、そろばんに数を入れたり、払ったりする練習をする。 ② $64+23$, $70+48$ の計算をして、たし算の基本運珠の仕方を知る。 ③ $64-23$, $70-48$ の計算をして、ひき算の基本運珠の仕方を知る。 ④ $1.2+0.4$ や $2.6-0.3$, 4 万+3 万, 6 万-2 万などの計算に取り組み、小数や大きな数でもそろばんで計算できることを知る。 ⑤「ますりんつうしん」を読み、そろばんの歴史について知り、そろばんへの興味・関心を高める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	考える力をのばそう「間の数に注目して」			教科書のページ	下 p.108～109
配当時数	1 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(7)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 直線や円周上に等間隔に配置されたものの数と間の数との関係に着目して、図を用いて問題内容を整理し、考察する力を伸ばす。 下 p.108～109	1	①場面を捉え、解決の仕方を考える。 ②図を見て、間の数が木の数より 1 小さいことに気づき、答えを求める。 ③場面を捉え、解決の仕方を考える。 ④図を見て立式し、間の数と木の数が等しいことに気づき、答えを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	3 年のふくしゅう			教科書のページ	下 p.110～114
配当時数	3 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A～D

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 下 p.110～114	3	①問題に取り組み、解決する。	[知技]発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「ペントミノ」			教科書のページ	下 p.116
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの図形を組み合わせて正方形や長方形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 下 p.116	—	①正方形を 5 こつなげてできた 12 種類の形からいくつかを選んで、正方形や長方形を作る。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

江戸川区立葛西小学校

単元名	学びのとびら			教科書のページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容	第 3 学年の内容

目標	時数	学習活動
<p>・「もくじ」「授業のページ」「算数マイノートをつくろう」「新しい算数を使った学習の進め方」のページを使って、教科書の使い方や算数科の学び方、問題解決の方法を共有し、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。</p> <p>上 p.2～7</p>	1	<p>①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることに触れ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み上げられていること、以後の学習へつながることに気づかせる。 また、p.1 下欄を見て、前学年までに働かせ、成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点に触れる。 <p>②「授業のページ」(30分) p.2～3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 <p>③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業のページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートのつくり方を学級で共有する。 <p>④「新しい算数を使った学習の進め方」(3分) p.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「ふりかえりコーナー」(知識のふりかえり)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し、適宜活用するとよいことを知らせる。 <p>※「指導者・保護者のみなさまへ」について</p> <p>これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣(特に家庭での自学自習)を身に付けるためには保護者の理解・協力が必須であると考え掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

単元名	1. 1億より大きい数を調べよう [大きい数のしくみ]		教科書の ページ	上 p.8~19, 150
配当時間	7時間	活動時期	4月中旬~下旬	学習指導要 領の内容 A(1)ア(ア), イ(イ) 内容の取扱い(1)(3)

単元の目標		億や兆の単位について知り，十進位取り記数法や4桁区切りによる命数法(万進法)に基づき大きな数の読み方や計算の仕方を考えるとともに，整数の表し方に関わる数学的表現を用いて考えた過程を振り返り，そのよさに気づき今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	億や兆の単位を知り，十進位取り記数法についての理解を深めるとともに，10倍や1/10にした数，被乗数と乗数が3位数の整数の乗法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	整数の仕組みや表し方に着目し，億や兆の単位を用いた整数の仕組みについて類推して考え，大きな数同士の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉え説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	億や兆の仕組みや表し方について，統合的に捉えた過程や結果を振り返り，数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 大きい数のしくみ 上 p.8~13	2時間	★他教科との関連:英語	
[プロローグ] 上 p.8	1	①p.8の図を提示し，日本の都道府県の人口を話題として取り上げ，既習の数の読み方を振り返るとともに，未習の一億より大きい数について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・一億以上の数の構成や読み方，書き方や一億，十億，百億，千億の数の大きさと命数法，記数法を，数の見方や既習の整数の表し方を基に考え，説明することができる。 上 p.9~11		①日本の人口の数の読み方を考える。 ②世界の人口の数の読み方を考える。 ③「一億」「十億」「百億」「千億」の意味を知る。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・一兆以上の数の構成や読み方，書き方や一兆，十兆，百兆，千兆の数の大きさと命数法，記数法を理解する。 上 p.11~13	1	①リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの開催予算の数の読み方を考える。 ②「一兆」「十兆」「百兆」「千兆」の意味を知る。 ③整数の位取りの仕組みをまとめる。 ④万進法を用いて，大きい数を読んだり書いたりする。 ⑤「ますりんつうしん」を読み，日常生活では大きい数を3桁ごとに区切る表し方があることに興味をもつ。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 10倍した数, 1/10にした数 上 p.14~15 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 整数を10倍した数や1/10にした数についてを既習の万の単位までの十進位取り記数法の仕組みを基に考え, 説明することができる。 上 p.14	1	<ul style="list-style-type: none"> ①25億を10倍した数や1/10にした数の並び方を比べる。 ②位に着目させ, 大きい数を10倍した数や1/10にした数でも位の変わり方は変わらないことをまとめる。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 0から9までの数字で, どんな大きさの整数でも表せることを理解する。 上 p.15	1	<ul style="list-style-type: none"> ①整数は, 各位にその位の数が何こ分であるかを表していることを知る。 ②電卓を用いて, 数の表し方の仕組みを考える。 ③10個の数字で, どんな大きさの整数でも表せることをまとめる。 ④0から9までの数字を使って, 10桁の整数をつくる。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	—	【発展】 ①「ますりんつうしん」を読み, 兆より大きい数の単位があることを知り, 大きい数への関心をもつ。	
(3) かけ算 上 p.16~17 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 3位数×3位数の筆算の仕方を理解し, その計算の答えを求めることができる。 上 p.16	1	<ul style="list-style-type: none"> ①365×148の筆算の仕方を, 既習の筆算を基に考える。 ②四則のそれぞれの解, 「和」「差」「積」「商」を知る。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 乗数に0を含む乗法の筆算や末尾に0のある数の乗法の簡便な筆算の仕方を十進位取り記数法の仕組みを基に考え, 説明することができる。 上 p.17	1	<ul style="list-style-type: none"> ①796×407の筆算の簡便な仕方を考える。 ②5400×320の簡便な筆算の仕方を考える。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 上 p.18~19, 150 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り, 価値づける。 上 p.18~19	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】 巻末 p.150の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に大きい数についての理解を深める。 			

単元名	2. グラフや表を使って調べよう [折れ線グラフと表]			教科書の ページ	上 p.20～34
配当時数	9 時間	活動時期	4 月下旬～ 5 月上旬	学習指導要 領の内容	D(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(9)(10)

単元の目標		折れ線グラフの特徴や使い方，分類整理の方法について理解し，それらを活用して資料を折れ線グラフに表したり読み取ったりするとともに，数学的表現を適切に活用して資料の特徴や傾向に着目し，問題解決のためのグラフを選択・判断することを通し，結論について考察する力を養うとともに，資料を折れ線グラフに表し，問題解決のため情報を読み取り，考えた過程を振り返り，日常生活に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	折れ線グラフの特徴や使い方，資料を二次元表による分類整理をすることを理解し，それらを活用して資料を折れ線グラフに表したり，それを読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	資料を目的に応じて分類整理し，それらの特徴や傾向に着目して問題解決に適切なグラフを選択して判断し，結論について考え，説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	問題解決の過程や資料を分類整理した結果，折れ線グラフを活用した過程を振り返り，多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり，数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 折れ線グラフ 上 p.20～27 5 時間		★他教科との関連:理科	
[プロローグ] 上 p.20	1	①p.20 の神戸とリオデジャネイロの春・冬の写真を提示し，自由な話し合いなどを通して気温の違いを話題として取り上げるとともに，資料を折れ線グラフに分かりやすく表したり，折れ線グラフの特徴や傾向を読み取ったりするという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・折れ線グラフの特徴や読み取り方を理解し，情報を適切に読み取ることができる。 上 p.21～22		①神戸の気温の変わり方を分かりやすく表すには，どんなグラフにしたらよいか考える。 ②折れ線グラフの特徴や読み取り方について知る。 ③折れ線グラフの横軸には時間的変化が表されていることを知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・折れ線の傾きと事象の変化の度合いの関係を理解し，説明することができる。 上 p.23	1	①気温の変わり方を調べるとき，折れ線グラフのどこに注目すればいいかを考える。 ②折れ線の傾きに注目して，折れ線グラフから情報を読み取る。 ③折れ線の傾きと変化の度合いの関係をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・折れ線グラフをかき，グラフの特徴や気温の変わり方を読み取り，比較することができる。 上 p.24～25	1	①リオデジャネイロの 1 年間の気温の変わり方を折れ線グラフに表す。 *デジタルコンテンツ設定有 ②神戸とリオデジャネイロの気温のグラフを重ねて，違いを読み取り，気づいたことを話し合う。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・波線の意味や折れ線グラフの表し方の工夫について理解する。</p> <p style="text-align: right;">上 p.26</p>	1	<p>①波線で目盛りの途中を省略したグラフ用紙にリオデジャネイロの1年間の気温の変わり方を折れ線グラフで表す。</p> <p>②同じデータを表したp.24の折れ線グラフと比較する。</p> <p>③目盛りにかき入れた波線の意味を知る。</p> <p>④縦軸の目盛りのとり方が異なる2つの折れ線グラフを比較し、特徴を知る。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・折れ線グラフの読み取り方の工夫について、既習のグラフの特徴や読み取りを基に考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.27</p>	1	<p>①一日の気温の変わり方のグラフを見て、気づいたことを話し合う。</p> <p>②折れ線グラフでの表し方や読み取るときの注意点を考える。</p> <p>③グラフから推測される中間値の正確性を考える。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
(2) 整理のしかた 上 p.28~31 2時間			
<p>・資料を2つの観点から分類整理する方法や二次元表の表し方、特徴の調べ方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">上 p.28~29</p>	1	<p>①けが調べの資料を、一次元表を基に種類と場所の2つの観点で整理する方法を考える。</p> <p>②けが調べの資料を二次元表に整理する。</p> <p>③二次元表から資料の特徴を考える。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・2つの分類項目をもつ資料を、2つの観点から分類整理し、二次元表に表すことができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.30~31</p>	1	<p>①本の利用の様子を1次元表に整理し、先週と今週でそれぞれ本を借りた人と借りなかった人の様子を、分かりやすく表すには、どう整理したらよいか考える。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
まとめ 上 p.32~34 2時間			
<p>・棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフの読み方を理解し、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.32</p>	1	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①グラフを組み合わせると、2つの関係が分かりやすくなることを確認する。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p style="text-align: right;">上 p.33~34</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	上 p.35
配当時数	—	活動時期	5月上旬	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.35	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	3. わり算のしかたを考えよう [わり算の筆算(1)－わる数が1けた]			教科書の ページ	上 p.36～54
配当時数	11 時間	活動時期	5 月中旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		2～3 位数を 1 位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養うとともに、既習の基本的な計算を基に考えた過程を振り返り、今後の学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	既習の乗法九九を 1 回用いて商を求める計算及び簡単な 2 位数を 1 位数で割る計算の方法を活用し、2～3 位数÷1 位数の計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、除法に関して成り立つ性質を見出したりしたことについて考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数÷1 位数の除法の計算方法を、既習の基本的な計算を基に考えたことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 何十、何百のわり算 上 p.36～38 1 時間			
[プロローグ] 上 p.36	1	①p.36 を提示し、除数が 4 で被除数が 24 や 30 の場合の除法計算について振り返り、被除数が大きくなったら計算はどうなるのかという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 10 や 100 のまとまりを用いて、乗法九九 1 回の適用で商が何十や何百になる除法(余りなし)の計算の仕方を考え、説明することができる。 上 p.37～38		①立式し、その式になる理由を考える。 ②80÷4 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
		①600÷3 の計算の仕方を考え、説明する。 ②計算練習をする。	
(2) わり算の筆算(1) 上 p.39～46 6 時間			
・ 2 位数÷1 位数(余りなし)の筆算の仕方を既習の除法の計算方法を基に考え、理解する。 上 p.39～41	1	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②72÷3 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①72÷3 の筆算の仕方をまとめる。 ②72÷3 の答えの確かめをする。 ③計算練習をする。	
・ 2 位数÷1 位数(余りありで、各位ともわり切れない)の筆算の仕方を既習の除法の計算方法を基に考え、計算することができる。 上 p.42～43	1	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②76÷3 の筆算の仕方を考える。 ③76÷3 の計算の検算をする。 ④余りや各位の商の大きさに着目し、2 位数÷1 位数の筆算の誤りに気づき、説明する。 ⑤計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・2位数÷1位数(余りありで、十の位でわり切れる)の筆算の仕方を既習の筆算の仕方を基に考え、その計算方法を説明することができる。</p> <p>上 p.44</p>	1	<p>①86÷4, 62÷3の筆算の仕方を考える。</p> <p>②計算練習をする。</p> <p>③「基準量」や「比較量」から「倍」を求める練習問題をする。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・3位数÷1位数=3位数(各位ともわり切れない、及び一の位でわり切れる)の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。</p> <p>上 p.45</p>	1	<p>①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。</p> <p>②734÷5の筆算の仕方を考える。</p> <p>③734÷5の筆算の仕方をまとめる。</p> <p>④734÷5の計算の検算をする。</p> <p>⑤計算練習をする。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・3位数÷1位数=3位数(商に空位を含む、及び百の位や十の位でわり切れる)の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。</p> <p>上 p.46</p>	1	<p>①843÷4, 619÷3の筆算の仕方を考える。</p> <p>②計算練習をする。</p> <p>③「ますりんつうしん」を読み、3年で学習した除法も筆算で計算できることを知り、筆算の理解を深める。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
(3) わり算の筆算(2) 上 p.47~49 1時間			
<p>・3位数÷1位数=2位数(首位に商がたたない)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>上 p.47~49</p>	1	<p>①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。</p> <p>②256÷4の筆算の仕方を考える。</p> <p>③256÷4の筆算の仕方をまとめる。</p> <p>④256÷4の計算の検算をする。</p> <p>⑤計算練習をする。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
(4) 暗算 上 p.50~51 1時間			
<p>・2位数÷1位数=2位数の除法の暗算と、10, 100の倍数(3位数)を1位数でわる除法の暗算の仕方を計算のきまりを基に考え、説明することができる。</p> <p>上 p.50~51</p>	1	<p>①74÷2の暗算の仕方を考える。</p> <p>②740÷2の暗算の仕方を考える。</p> <p>③暗算の練習をする。</p> <p>④「ますりんつうしん」を読み、世界の国々のわり算の筆算の仕方を比べ、筆算の理解を深める。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
まとめ 上 p.52~54 2時間			
<p>・学習内容を適用して問題を解決する。</p> <p>上 p.52</p>	1	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①わり算の筆算を活用した問題に取り組む。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p>上 p.53~54</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	上 p.55
配当時数	—	活動時期	6月上旬	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.55	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	4. 角の大きさの表し方を調べよう [角の大きさ]		教科書の ページ	上 p.56～73
配当時数	9 時間	活動時期	6 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容
				B(5)ア(7)(イ), イ(7)

単元の目標		角の大きさについて単位と測定の意味について理解し、角の大きさを測定したり角をかいたりできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して角の大きさや図形について考察する力を養うとともに、角を測定した経験を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	角の大きさを回転の大きさとして捉えることを理解し、それらを活用して角の大きさの単位（度（°））や分度器を用いて角の大きさを測定したり、必要な大きさの角を作ったりすることができる。
	思考・判断・表現	図形の角の大きさに着目し、角の大きさについての表現や三角形などの図形を考察し、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	分度器を用いて角の大きさを測定するなどの数学的活動を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 角の大きさ 上 p.56～70 7 時間			
[プロローグ] 上 p.56	1	①p.56 の図を提示し、角の大きさを比べる活動を通して、角の大きさは正確に表現できないことや辺の長さによらないことなどを確認しながら、辺の開きぐあいで決まる角の大きさを数で表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・半直線を回転させると、いろいろな大きさの角ができることを理解する。 上 p.57～58		①巻末折り込みの 2 枚の円を組み合わせていろいろな角をつくり、角の大きさがどのように変わるか調べる。 ②角の大きさを、「直角」を単位にして表す。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・分度器の観察を通して、角の大きさの単位「度（°）」を知り、角の大きさの表し方を理解する。 上 p.59	1	①分度器の目盛りの構造を調べる。 ②角度の単位「度（°）」と、1 直角=90° の関係を知る。	[知技]発言・行動観察
・分度器を用いて角の大きさを測定することができる。 上 p.60～62	1	①分度器を使った角度の測定の仕方を知り、いろいろな角度を測定する。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①90° より小さいか、大きいかの見当をつけてから角度を測定する。 ②三角定規のそれぞれの角度を知る。 ③2 直線が交わってできる向かい合った角の大きさを調べたり、計算したりする。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>[今日の深い学び]</p> <p>・180° より大きい角度の測定の仕方を,既習の分度器を用いた角度の測定の仕方を基に考え,説明することができる。</p> <p>上 p.63~67</p>	1	<p>①180° より大きい角度の工夫した測定の仕方を考える。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p> <p>②友達の図を見て,その考えを式に表したり,説明したりする。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・分度器を使って角をかいたり,三角形をかいたりすることができる。</p> <p>上 p.68~70</p>	1	<p>①決められた2つの角と1辺の大きさから,三角形をかく方法を考える。</p> <p>②分度器を使った角のかき方や三角形のかき方を知る。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
	1	<p>①いろいろな大きさの角をかく。</p> <p>②決められた2つの角と1辺の大きさから,三角形をかく練習をする。</p> <p>③コンパスを用いて正三角形をかき,3つの角度を測定し,すべて等しく60°であることを確認する。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>まとめ 上 p.71~73 2時間</p>			
<p>・算数的活動を通して学習内容の理解を深め,角の大きさについての興味を広げる。</p> <p>上 p.71</p>	1	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①坂道分度器を作り,坂道の角度を測定する。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・学習内容の定着を確認し,理解を確実にする。</p> <p>上 p.72~73</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	5. 小数のしくみを調べよう [小数のしくみ]			教科書のページ	上 p.74～91
配当時数	13 時間	活動時期	6 月下旬～ 7 月中旬	学習指導要領の内容	A(4)ア(イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		小数の意味や表し方について理解し、加法及び減法の計算をすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して小数の仕組みや計算の仕方を考えるとともに、十進位取り記数法を基に整数や小数の仕組みを考えた過程を振り返り、日常生活に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	1/100 の位、1/1000 の位の小数の表し方や仕組みについて理解し、それらを活用して加法や減法の計算をすることができる。
	思考・判断・表現	1/10 未満の数の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数の加法や減法の計算の仕方、数の相対的な大きさについて考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	1/10 未満の小数の表し方及び加法や減法の計算の仕方について、十進位取り記数法のよさや整数や小数の仕組みと関連づけて考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 小数の表し方 上 p.74～78 2 時間			
[プロローグ] 上 p.74	1	①p.74 の写真を提示し、身の回りから小数表示のものを話題として取り上げる活動を通して、数には小数第一位未満のものもあることに気づくとともに、小数の仕組みや表し方について理解を深めていくという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・1/10 の単位に満たない大きさの表し方を理解し、1/100 の位までの小数の書き方、読み方を理解する。 上 p.75～76		①ポットに入る水のかさを調べ、0.1L より小さいはしたの表し方を考える。 ②1/100 の位までの小数の書き方と読み方をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・1/1000 の位までの小数の書き方、読み方を知り、小数の表し方について理解する。 上 p.77～78	1	①新幹線の線路の幅の 1.435m という数について、それぞれの位の数字が表す大きさを調べる。 ②0.001m の書き方と読み方を知る。 ③1kg325g を kg 単位で表し、単名数の表し方を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 小数のしくみ 上 p.79～83 4 時間			
・既習の整数の仕組みに着目して、1 と 0.1, 0.01, 0.001 の関係を考え、説明することができる。 上 p.79～80	1	①1, 10, 100, 1000 の関係を確認する。 ②1, 0.1, 0.01, 0.001 の関係を面積図を用いて調べる。 ③4.384 の数の構成を調べる。 ④4.384 の位取りを調べる。 ⑤「1/100 の位 (小数第二位)」「1/1000 の位 (小数第三位)」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・十進位取り記数法を用いて、小数の大小関係について理解する。</p> <p style="text-align: right;">上 p.81</p>	1	<p>①位取りの表を用いて小数の大小を比べる。</p> <p>②数直線の1目盛りの大きさに着目して、小数を数直線に表す。</p> <p>③小数の大小関係を不等号に表す。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・位の変わり方に着目して、小数を10倍した数や1/10にした数について考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.82</p>	1	<p>①0.74を10倍した数や1/10にした数を、位取りの表を用いて数の並び方を比べる。</p> <p>②小数を10倍した数や1/10にした数についてまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・面積図を用いて、0.01の大きさに着目して、小数の相対的な大きさについて考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.83</p>	1	<p>①2.45は0.01の何こ分か、面積図を見て考える。</p> <p>②0.01を基に、小数の数の大きさについて考える。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
(3) 小数のたし算とひき算 上 p.84～88 5時間			
<p>・1/100の位、1/1000の位の小数の加法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.84～85</p>	1	<p>①1.75+2.64の計算の仕方を考える。</p> <p>②小数の加法の筆算の場合も整数の加法の筆算のように位をそろえて筆算すればよいことをまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
	1	<p>①和の0.800は0.8であることを確かめる。</p> <p>②小数の桁数がそろっていない場合の筆算の仕方を考える。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	
<p>・1/100の位、1/1000の位の小数の減法の筆算の仕方を考え、その計算を説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.86～87</p>	1	<p>①3.64-2.76の計算の仕方を考える。</p> <p>②小数の減法の筆算の場合も整数の減法の筆算のように位をそろえて筆算すればよいことをまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
	1	<p>①小数の桁数がそろっていない(減数の方が桁数が多い)場合の筆算の仕方を考える。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	
<p>・小数の見方について、既習の数直線や多様な数の表し方を基に考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.88</p>	1	<p>①3.45を数直線上に表す。</p> <p>②整数と小数の和で見たり、0.01の何こ分と捉えたりするなど、3.45のいろいろな表し方を考える。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
まとめ 上 p.89～91 2時間			
<p>・学習内容を適用して問題を解決する。</p> <p style="text-align: right;">上 p.89</p>	1	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①小数や長さの単位変換を活用し、問題に取り組む。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p style="text-align: right;">上 p.90～91</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	考える力をのばそう「ちがいに注目して」			教科書のページ	上 p.92～93
配当時数	1 時間	活動時期	7 月中旬	学習指導要領の内容	A(6)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・分配や移動を伴う 2 量の差に着目し、問題構造を図に表して問題を解決することを通して、問題構造を簡潔に捉えられる図のよさに気づくとともに、問題を解決する能力を高める。</p> <p>上 p.92～93</p>	1	<p>①問題の構造を、分配や移動を伴う 2 量の差に着目して、線分図に表して考える。</p> <p>②上で表した図を用いて、説明する。</p> <p>③適用問題に取り組む。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>

単元名	そろばん			教科書のページ	上 p.94～95
配当時数	2時間	活動時期	7月中旬	学習指導要領の内容	A(8)ア(ア), イ(イ)

単元の目標		そろばんの仕組みについて理解し、加法及び減法の計算をすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して大きな数や小数の計算の仕方を考える力を養うとともに、そろばんの仕組みを考えた過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	そろばんの仕組みを活用して億や兆の大きい数や小数の加法及び減法の計算をすることができる。
	思考・判断・表現	十進位取り記数法に着目し、そろばんを用いて計算する方法を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	そろばんの仕組みと数の仕組みを振り返り、数学のよさに気づき学習したことを学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) そろばん 上 p.94～95 2時間			
・そろばんを用いた整数(億や兆の単位を含む数)や小数の表し方を理解する。 上 p.94	1	①そろばんの各部分の名称を振り返るとともに、千万の位などの整数の位や小数の位の位置を知り、そろばんにいろいろな大きさの数を入れる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・そろばんを用いて小数や億や兆の単位を用いた簡単な加減計算ができる。 上 p.95	1	① $8.43+1.3$, $8+4.6$, $8.42-1.3$, $8-4.6$ の計算を通して、そろばんでの小数の加減計算の仕方を考え、たし算やひき算の運珠の仕方の理解を深める。 ②小数の加減計算や億や兆の単位を用いた簡単な加減計算の練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	6. わり算の筆算を考えよう [わり算の筆算(2)－わる数が2けた]			教科書の ページ	上 p.96～113, 151
配当時数	14 時間	活動時期	9 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア) 内容の取扱い (2)(3)(4)

単元の目標		2～3 位数を 2 位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養うとともに、基本的な計算を基に考えた過程を振り返り、今後の学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	既習の除法の筆算の仕方や数のまとまりを用いて 2～3 位数を 2 位数でわる除法の計算を求めることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目して、2～3 位数を 2 位数でわる除法の計算の仕方を考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数÷2 位数の除法の計算方法を、既習の除法の計算を基に考えたことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 何十でわる計算 上 p.96～98 1 時間			
・既習の四則の筆算の仕方を基に考え、何十でわる計算の仕方を理解し、説明することができる。 上 p.96～98	1	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②60÷20 の計算の仕方を考える。 ③60÷20 の計算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。 ⑤90÷20 の計算の仕方を考える。 ⑥計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 2 けたの数でわる筆算(1) 上 p.99～105 6 時間			
・2 位数÷2 位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.99～101	1	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②84÷21 の筆算の仕方を考える。 ③除数を 20（切り捨て）とみて、商の見当をつける。 ④84÷21 の筆算の仕方をまとめる。 ⑤「ますりんつうしん」を読み、商の見当をつける際、被除数と除数の両方をまるめる方法があることを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①87÷21 の筆算をする。 ②87÷21 の計算の検算をする。 ③計算練習をする。	
・2 位数÷2 位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。 上 p.102	1	①86÷23 の筆算の仕方を考える。 ②除数を 20（切り捨て）とみて、商の見当をつける。 ③過大商の場合の仮商修正 1 回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 ④81÷12 の筆算の仕方を考える。 ⑤過大商の場合の仮商修正 2 回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・ 2 位数÷2 位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>上 p.103</p>	1	<p>①78÷19 の筆算の仕方を考える。</p> <p>②除数を 20 (切り上げ) とみて、商の見当をつける。</p> <p>③過小商の場合の仮商修正の仕方を理解し、この型の計算練習をする。</p>	[知技]発言・行動観察
<p>・ 除数に着目して、2 位数÷2 位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。</p> <p>上 p.104</p>	1	<p>①87÷25 の筆算の仕方を考える。</p> <p>②除数を切り捨てた (過大商) 場合と、切り上げた (過小商) 場合の筆算の仕方を比べる。</p> <p>③自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考える。</p> <p>④計算練習をする。</p>	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<p>・ 3 位数÷2 位数=1 位数の筆算の仮商のたて方を 2 位数÷2 位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。</p> <p>上 p.105</p>	1	<p>①153÷24 の筆算の仕方を考える。</p> <p>②計算練習をする。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 2 けたの数でわる筆算(2) 上 p.106~108 3 時間			
<p>・ 3 位数÷2 位数=2 位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>上 p.106~107</p>	1	<p>①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。</p> <p>②345÷21 の筆算の仕方を考える。</p> <p>③345÷21 の筆算の仕方をまとめる。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・ 2 位数÷1 位数=2 位数の筆算の仕方をういて、3 位数÷2 位数=2 位数の筆算をすることができる。</p> <p>上 p.107</p>	1	<p>①計算練習をする。</p> <p>②476÷15 で、除数を切り捨てた (過大商) 場合と、切り上げた (過小商) 場合の筆算の仕方を比べる。</p>	[知技]発言・行動観察
<p>・ 商に 0 がたつ場合 (商が何十) の簡便な筆算の仕方や、除数が 3 桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。</p> <p>上 p.108</p>	1	<p>①941÷23, 960÷16 の筆算の仕方を考える。</p> <p>②計算練習をする。</p> <p>③732÷216 の筆算の仕方を考える。</p> <p>④216 を 200 とみて、仮商をたてる。</p> <p>⑤計算練習をする。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) わり算のせいしつ 上 p.109~110 2 時間			
<p>・ 除法の性質について理解する。</p> <p>上 p.109</p>	1	<p>①商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質について考える。</p> <p>②除法の性質をまとめる。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・ 末尾に 0 のある数の除法の簡便な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。</p> <p>上 p.110</p>	1	<p>①24000÷500 の筆算の仕方を考え、末尾に 0 のある数の除法の簡便な筆算の仕方をまとめる。</p> <p>②2700÷400 の筆算の仕方と、末尾に 0 のある数の除法での余りの求め方を考える。</p> <p>③末尾に 0 のある数の除法の筆算の仕方についてまとめる。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 上 p.111~113, 151 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して問題を解決する。 上 p.111~112	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 上 p.113	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	倍の見方			教科書のページ	上 p.114~119
配当時数	4 時間	活動時期	9 月下旬	学習指導要領の内容	A(3)(6) C(2)ア(7), イ(7)

単元の目標		ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることについて理解し、簡単な場合について割合を求めることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して二つの数量同士の関係の比べ方を考える力を養うとともに、割合を用いて比べた過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	簡単な場合についての割合を活用して、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べることができる。
	思考・判断・表現	日常の事象における数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係について割合を用いて考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	簡単な場合について、割合を用いて比べたことを振り返り、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 倍の計算 上 p.114~119 4 時間			
・倍を求めるには除法を用いればよいことを理解する。 上 p.114~115	1	①15m が 3m の何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 ②「3m の□倍が 15m」の関係をおさえて、 $3 \times \square = 15$ の式で確認する。 ③基準量の何倍かを求めるには除法を用いればよいことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・比較量を求めるには乗法を用いればよいことを理解する。 上 p.116	1	①180 cm の 3 倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 ②基準量の何倍かにあたる量を求めるには乗法を用いることをおさえ、数量の関係をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・基準量を求めるには、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。 上 p.117	1	①数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の式に表す。 ②□にあてはまる数を求めるには、除法を用いるか、数をあてはめて調べるかをすればよいことをおさえる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・差による比較の他に、倍を使っても比較できることを理解する。 上 p.118~119	1	①どちらの包帯がよく伸びるのかを考える。 ② $60 \div 30$, $45 \div 15$ の計算をして、ある数量と数量の関係と別の数量と数量の関係を倍を使って比べる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	7. およその数の使い方と表し方を調べよう [がい数の使い方と表し方]		教科書の ページ	上 p.120～132, 152
配当時数	8 時間	活動時期	10 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容 A(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		概数について理解し、概数を用いたり四捨五入や四則計算の結果の見積もりをしたりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して目的に合った数の処理の仕方を考える力を養うとともに、概数を用いて考えた過程を振り返り、日常の事象に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	概数の用いられる目的や四則計算の見積もりの仕方を理解し、それらを活用して目的に応じて用いることができる。
	思考・判断・表現	日常の事象における場面において、数の処理の仕方に着目し、目的に応じて数を処理するよさについて考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	日常の事象において、目的に応じて数を処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) およその数の表し方 上 p.120～127 5 時間			
[プロローグ] 上 p.120	1	①p.120 の絵を提示し、同じ数が正確な数とおよその数で表されている場面对比し、自由な話し合いなどを通して、概数の用いられる目的や数の処理を場面に応じて活用するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 正確な細かい数を概数で表すことを通して、概数の意味について理解する。 上 p.121～122		①町の人口 21034 人, 32756 人, 38412 人の、およその数の表し方について考える。 ②「がい数」の意味やがい数を「約」を用いて表すことを知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 四捨五入の意味とその方法を理解する。 上 p.122～123	1	①町の小学生の人数 1263 人と 1825 人を概数で約何千人と表す仕方を考える。 ②「四捨五入」の意味や方法を知り、その方法をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 「四捨五入して〇の位までの概数にする」ときの表現や四捨五入の仕方を理解する。 上 p.124	1	①市立図書館にある本と児童書の数を四捨五入して、一万の位までの概数にする仕方を考える。 ②四捨五入して、一万の位までの概数にする場合は、何の位に着目すればよいかをまとめる。	[知技]発言・行動観察
・ 「四捨五入して上から〇桁の概数にする」ときの表現や四捨五入の仕方を理解する。 上 p.125～126	1	①市立図書館にある本と児童書の数を四捨五入して、上から 1 桁までの概数にする仕方を考える。 ②四捨五入して、上から 1 桁までの概数にする場合は、何の位に着目すればよいかをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・四捨五入して概数にする前の、もとの数の範囲や、「以上」「未満」「以下」の意味を理解する。 上 p.126～127	1	①四捨五入して約 130 kmになるのは、何 kmから何kmまでの間になるかを考える。 ②四捨五入して十の位までの概数にしたとき、130 になる整数の範囲をまとめる。 ③数の範囲を表す言葉として、「以上」「未満」「以下」の意味を知る。 ④「ますりんつうしん」を読み、「切り捨て」や「切り上げ」の意味を知り、概数の理解を深める。	[知技]発言・行動観察
(2) がい数を使った計算 上 p.128～130 2 時間			
・概数を用いて、目的に応じ、和や差の見積もりの仕方を説明することができる。 上 p.128～129	1	①3 人の目的に応じた代金の見当のつけ方を考える。 ②目的に応じて、概数にする方法を選ぶとよいことをまとめる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・概数を用いて積や商の見積もりができる。 上 p.130	1	① 620×39 を概数で見積もる方法を考える。 ②乗法の場合、上から 1 桁の概数で見積もるとよいことを知り、積を概数で求める。 ③ $38220 \div 39$ を概数で見積もる方法を考える。 ④除法の場合も上から 1 桁の概数で見積もるとよいことを知り、商を概数で求める。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
まとめ 上 p.131～132, 152 1 時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.131～132	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.152 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に概数についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	上 p.133
配当時数	—	活動時期	10 月中旬	学習指導要領の内容
				—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.133	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	算数で読みとこう「食べ残しをへらそう」			教科書のページ	上 p.134～135
配当時間	1 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要領の内容	D(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を活用して棒グラフや折れ線グラフ、表を考察し、問題解決能力や情報処理能力を高める。 上 p.134～135	1	①棒グラフと折れ線グラフの重なったグラフから問題に関して予想し、話し合う。 ②問題について必要な情報は何かを考える。 ③データより 2 つのことがらの関係について話し合う。 ④問題に対し、理由を含めて話し合う。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.136
配当時間	—	活動時期	10 月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 上 p.136	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技] 発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「コンパスを使って」			教科書のページ	上 p.138
配当時間	—	活動時期	—	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> コンパスを使って、いろいろな形をかいたり、円周のおよその長さを調べたりする活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 上 p.138	—	①ノートや工作用紙に、コンパスを使って、いろいろな形をかく。 【発展】 ①1cm の長さを開いたコンパスで円周を区切って、円周のおよその長さを調べる。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	8. 計算のやくそくを調べよう [計算のきまり]		教科書のページ	下 p.2~16, 142~143
配当時数	8 時間	活動時期	10 月中旬～下旬	A(6)ア(ア)(ウ), イ(ア)(7)ア(ア), イ(ア)内容の取扱い(6)

単元の目標		計算の順序に関するきまりを理解し、四則に関して成り立つ性質について理解を深めることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数量の関係を表す式について考える力を養うとともに、問題場面の数量関係について考えた過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	四則の混合した式や () を用いた式、公式について理解し、それらを活用して (■や▲などの) 記号で数量の関係を表すことができる。
	思考・判断・表現	問題場面の数量の關係に着目し、簡潔に表現したり一般的に表現したりすることについて考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	() を用いて 1 つの式に表すと数量の関係を簡潔に表すことができるなどのよさを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 計算のじゅんじょ 下 p.2~11 4 時間			
[プロローグ] 下 p.2	1	①p.2 の絵を提示し、2 人の買い物の場面とそれらを表す式の対比を通して、計算の順序やきまりを活用して式で表したり、四則について成り立つ性質の理解を深めたりするという単元の課題を設定する。	
・ 2 つの式で表される場面について、1 つの式に表す方法を既習の計算のきまりや () を用いて考え、説明することができる。 下 p.3~4		①2 段階構造の問題を 1 つの式に表す仕方を考える。 ② () のある式の計算順序をまとめ、その計算をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 四則混合の式の表し方や計算順序を理解し、その計算ができる。 下 p.5~6	1	①加減と乗除の 2 段階構造の問題場面を 1 つの式に表し、その計算順序を考える。 ②乗除は、() を省いて書くことがあることや加減よりも先に計算することをまとめる。	[知技]発言・行動観察
	1	①四則混合の 3 段階構造の式の計算順序を考える。 ②四則混合や () のある式の計算順序をまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>[今日の深い学び]</p> <p>・ドットの数の求め方を既習の式のまとめ方を基に考えたり、図を見て考え方を読み取ったりしたことを説明することができる。</p> <p>下 p.7~11</p>	1	<p>①ドットの数を工夫して求め、求め方を1つの式に表す。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p> <p>②他者の考えを読み取り、言葉や式、図に表す。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
(2) 計算のきまりとくふう 下 p.12~14 3時間			
<p>・分配法則を■や●などを使って一般的にまとめたり、それをを用いて計算を簡単に行う工夫を考えたりすることを通して、分配法則についての理解を深める。</p> <p>下 p.12</p>	1	<p>①合計の個数の求め方を考える。</p> <p>②$(13+7) \times 6$と$13 \times 6 + 7 \times 6$とを、等号でつなげられることを確かめる。</p> <p>③■や●などに数をあてはめ、式が成り立つことを確かめ、分配法則について一般的にまとめる。</p> <p>④分配法則を用いて、計算方法を工夫する。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・式の数に着目して、交換法則や結合法則を用いて計算を簡単に行う工夫を考え、説明することができる。</p> <p>下 p.13</p>	1	<p>①交換、結合法則を用いて、計算の工夫の仕方を考える。</p> <p>②■や●などに数をあてはめ、式が成り立つことを確かめ、加法と乗法の交換、結合法則について一般的にまとめる。</p> <p>③加法についての交換・結合法則が、小数でも成り立つことを確かめる。</p> <p>④計算のきまりを用いて、計算方法を工夫する。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・乗数を10倍すると積も10倍になり、被乗数と乗数をそれぞれ10倍すると積は100倍になるという乗法の性質を理解する。</p> <p>下 p.14</p>	1	<p>①$3 \times 6 = 18$の式を基にして、3×60や、30×60の答えの求め方を考える。</p> <p>②$3 \times 6 = 18$、$3 \times 60 = 180$、$30 \times 60 = 1800$の3つの式を見比べ、気づいたことを話し合う。</p> <p>③乗法では乗数を10倍すると積も10倍になる、被乗数と乗数をそれぞれ10倍すると積は100倍になるという性質をまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
まとめ 下 p.15~16, 142~143 1時間			
<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p>下 p.15~16</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・【発展】巻末 p. 142~143 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に計算のきまりについての理解を深める。</p>			

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	下 p.17
配当時数	—	活動時期	10月下旬	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.17	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	9. 四角形の特ちょうを調べよう [垂直, 平行と四角形]		教科書の ページ	下 p.18~39, 144
配当時数	13 時間	活動時期	11 月上旬～ 下旬	学習指導要 領の内容 B(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(7)

単元の目標		直線の位置関係や四角形の構成について理解し、図形についての見方や感覚を豊かにできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して図形の構成の仕方を考える力を養うとともに、図形の性質を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	直線の平行や垂直の関係を理解し、それらを活用して平行四辺形やひし形、台形について理解している。
	思考・判断・表現	辺の位置関係や構成要素に着目して、様々な四角形の性質を見出し表現したり、四角形の対角線の特徴を統一的に考えたり、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りから直線の平行や垂直の関係、様々な四角形を見つけることで学習内容を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 直線の交わり方 下 p.18~21 2 時間			
[プロローグ] 下 p.18	1	①p.18 の柵の写真を提示し、4本の直線が交わってできる四角形や直角に着目する。次に、カードにかかれた点のうち、4つの点を選んで結び、四角形をつくる活動に取り組む。直線の交わり方や、直線がいろいろ交わってできる四角形について気づいたことについての自由な話し合い活動を通して、垂直・平行やいろいろな四角形の構成する要素や位置関係について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・2本の直線の交わり方を調べる活動を通して、垂直の意味を知り、垂直な2直線を識別することができる。 下 p.19~20		①2本の直線の交わり方を調べる。 ②「垂直」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・三角定規を使って、垂直な直線をひくことができる。 下 p.21	1	①2枚の三角定規を使った垂直な直線のひき方を考える。 ②垂直な直線をひく。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 直線の並び方 下 p.22~28 4 時間			
・2本の直線の並び方を調べる活動を通して、平行の意味を知り、その識別ができる。 下 p.22~23	1	①直線の並び方を調べる。 ②「平行」の意味を知る。 ③長方形の垂直な辺、平行な辺を調べる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることや、平行な直線の間の距離は一定であることを理解する。</p> <p>下 p.23～25</p>	1	<p>①平行な直線と、それと交わる直線のできる角度を調べる。</p> <p>②平行な直線は、他の直線と等しい角度で交わることをまとめる。</p> <p>③平行な直線の幅を調べる。</p> <p>④平行な2直線間の距離は一定であることをまとめる。</p> <p>⑤「ますりんつうしん」を読み、幅が等しくても直線でなければ平行とはいわないことを知り、平行の理解を深める。</p>	[知技]発言・行動観察
<p>・三角定規を使って、平行な直線をひくことができる。</p> <p>下 p.26～27</p>	1	<p>①2枚の三角定規を使った平行な直線のひき方を考える。</p> <p>②平行な直線をひく。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・方眼上の直線の垂直や平行の関係を理解する。</p> <p>下 p.28</p>	1	①方眼を手がかりにして、垂直や平行な直線の見つけ方を考える。	[知技]発言・行動観察
(3) いろいろな四角形 下 p.29～34 4時間			
<p>・四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の特徴を理解する。</p> <p>下 p.29～30</p>	1	<p>①図を見て、四角形の仲間分けをする。</p> <p>②「台形」と「平行四辺形」を知る。</p> <p>③方眼や平行な2直線を用いて、平行四辺形や台形をかく。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・平行四辺形の性質について、辺の長さや角の大きさを調べたことを基に説明することができる。</p> <p>下 p.31</p>	1	<p>①辺の長さや角の大きさを調べ、平行四辺形の特徴を調べる。</p> <p>②平行四辺形の特徴をまとめる。</p> <p>③「ますりんつうしん」を読み、長方形と平行四辺形の共通した特徴を調べ、平行四辺形の理解を深める。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・平行四辺形の辺の位置関係や構成要素を基に平行四辺形をかくことができる。</p> <p>下 p.32～33</p>	1	<p>①平行四辺形のかき方を考える。</p> <p>②平行四辺形の意味や性質を用いて、平行四辺形をかく。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<p>・ひし形の辺の位置関係や構成要素を基に、ひし形をかくことができる。</p> <p>下 p.33～34</p>	1	<p>①「ひし形」の意味を知る。</p> <p>②ひし形の性質をまとめる。</p> <p>③ひし形をかく。</p> <p>④「ますりんつうしん」を読み、正方形とひし形の共通した特徴を調べ、ひし形の理解を深める。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) 対角線と四角形の特ちょう 下 p.35～36 1時間			
<p>・対角線の意味と、様々な四角形の対角線の特徴を理解する。</p> <p>下 p.35～36</p>	1	<p>①いろいろな四角形の頂点を直線で結び、その特徴を調べる。</p> <p>②「対角線」の意味を知る。</p> <p>③いろいろな四角形の対角線の特徴を表にまとめる。</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.37～39, 144 2時間			
・学習内容を適用して問題を解決する。 下 p.37	1	[いかしてみよう] ①平行四辺形のしきつめ模様や身の回り にある四角形探しに取り組む。 ②「ますりんつうしん」を読み、等脚台 形とたこ形の対角線を調べ、対角線の 理解を深める。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認し、理 解を確実にする。 下 p.38～39	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り 組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に様々な四角形の特徴についての理解を深める。			

単元名	10. 分数をくわしく調べよう [分数]			教科書のページ	下 p.40～52, 145
配当時間	9 時間	活動時期	12 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(5)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		分数とその計算について理解し、同分母分数の加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数を構成する単位について考える力を養うとともに、分数とその加法及び減法の計算方法について考えた過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	分数の意味や表し方、その加法及び減法の計算方法について理解し、1 より大きい分数を仮分数や帯分数で表したり、簡単な場合について同値分数があることを説明したりすることができる。
	思考・判断・表現	数を構成する単位分数に着目し、同値分数や分数の加法及び減法の計算方法を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	1 より大きい分数を仮分数や帯分数で表すことよさや分数を単位分数の個数で捉え、加法及び減法の計算方法を考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 分数の表し方 下 p.40～45 4 時間			
[プロローグ] 下 p.40	1	①p.40 の図を提示し、分数についてこれまでに学んできたことを振り返り、自由な話し合い活動を通して、分数の様々な表し方を活用し、分かりやすく表現するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・単位分数を基に様々な分数を捉え、真分数や仮分数、帯分数の読み方や意味を理解する。 下 p.41～43	1	① $1/3m$ の 2 こ分, 3 こ分, 5 こ分, $1/4m$ の 3 こ分, 11 こ分の長さの表し方を考える。 ②「真分数」「仮分数」「帯分数」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・真分数や仮分数、帯分数の特徴を理解し、図や数直線から数を読み取ったり、分数の大きさを比較したりすることができる。 下 p.43	1	①真分数や仮分数、帯分数を分類する。 ②図や数直線から読み取った量を帯分数や仮分数に表す。 ③帯分数で表された数の大小を比較する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・数直線を基にして、仮分数を帯分数になおす方法を考え、説明することができる。 下 p.44	1	①数直線を基に単位分数による仮分数、帯分数の構成を考える。 ②整数と同値の仮分数について調べる。 ③仮分数を帯分数や整数になおす方法を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・数直線を基にして、帯分数を仮分数になおす方法を考え、説明することができる。 下 p.45	1	①帯分数と仮分数で表された数の大小を数直線を用いて考える。 ②整数が単位分数の何こ分かを考える。 ③単位分数を基に、帯分数を仮分数になおす方法を考える。 ④帯分数と仮分数で表された数の大小を不等号を用いて表す。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 分母がちがう分数の大きさ 下 p.46~47 1時間			
・数直線を用いて、分母の異なる同値分数について理解し、分子の同じ分数での大小関係について説明することができる。 下 p.46~47	1	①数直線を用いて、 $1/2$, $3/6$, $5/10$ の大きさを比較する。 ②分母が異なる分数でも、大きさの等しい分数があることをまとめる。 ③分子が同じ分数では、分母が大きいほど数の小さい分数になることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 分数のたし算とひき算 下 p.48~50 3時間			
・同分母の分数の加減計算の仕方を、単位分数に着目して既習の加減計算の仕方を基に考え、説明することができる。 下 p.48	1	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ② $4/5+3/5$ の計算の仕方を考える。 ③同分母の真分数や仮分数の加減計算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・同分母の帯分数の加法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の分数のなおし方を基に考え、説明することができる。 下 p.49	1	①1と $3/5+2$ と $1/5$ の計算の仕方を考える。 ②整数部分、分数部分同士をたす方法と、仮分数になおして計算する方法があることをまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・同分母の帯分数の減法計算の仕方を帯分数の構造や既習の分数のなおし方を基に考え、説明することができる。 下 p.50	1	①同分母の帯分数の加法計算の仕方を基に、2と $4/5-1$ と $3/5$ の計算の仕方を考える。 ②帯分数の分数部分がひけないときは、整数部分から繰り下げた1を分数になおして計算する方法と、帯分数を仮分数になおして計算する方法があることをまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.51~52, 145 1時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 下 p.51~52	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.145 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に分数と小数の関係についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.53
配当時数	—	活動時期	12月中旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.53	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	11. どのように変わるか調べよう [変わり方調べ]			教科書の ページ	下 p.54～60, 145
配当時数	4 時間	活動時期	12 月中旬	学習指導要 領の内容	A(6)ア(ウ), イ(ア) C(1)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		伴って変わる二つの数量について、表を用いて調べたり式に表したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して変化や対応の特徴について考える力を養うとともに、二つの数量について考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	伴って変わる二つの量の関係を、表を用いて変化や対応の特徴を調べたり、□や○などを用いて式に表したりすることができる。
	思考・判断・表現	伴って変わる二つの量の関係に着目して、表や式を用いて変化や対応の特徴について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	主体的に問題解決に取り組むとともに、関係を表で調べることのよさや関係を□や○などを用いた式に簡潔に表せることのよさを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 変わり方調べ 下 p.54～59 3 時間			
[プロローグ] 下 p.54	1	①p.54 の絵を提示し、伴って変わる 2 つの量の変わり方の特徴を考察する活動を通して、それらを表を用いて調べたり、記号を用いて式に表したりするという単元の課題を設定する。	
・伴って変わる二つの数量の関係（和が一定）について、表を用いて□や○を使った式に表し、その関係を捉えることができる。 下 p.55～56	1	①巻末折り込みの時計盤を使って、㊦と㊧の時計盤の針が指す時刻の数の関係について調べる。 ②表を用いて、㊦の時計盤の針が指す時刻の数が 1 ずつ増えると、㊧の時計盤の針が指す時刻の数がどのように変わるか調べる。 ③㊦と㊧の時計盤の針が指す時刻の数の関係を式に表す。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・伴って変わる 2 つの数量の関係（差が一定）について、表を用いて□や○を使った式に表し、その関係を捉えることができる。 下 p.57	1	①1 辺が 1cm の正三角形を 1 列に組み合わせていくときの、正三角形の数と周りの長さの関係を調べる。 ②正三角形の数と周りの長さを表にまとめ、その関係を式に表す。 ③正三角形の数が 20 個のときの周りの長さを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・伴って変わる 2 つの数量の関係（商が一定）について、表を用いて□や○を使った式に表し、その関係を捉えることができる。 下 p.58～59	1	①1 辺が 1cm の正方形を階段状に並べたときの段の数と周りの長さの関係を調べる。 ②表に段の数と周りの長さをまとめ、その関係を式に表す。 ③段の数が 50 段のときの周りの長さを求める。 ④「ますりんつうしん」を読み、比例の見方を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.60, 145 1時間			
・学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 下 p.60	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.145 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に数量の変わり方についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.61
配当時数	—	活動時期	12月中旬	学習指導要領の内容 —

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.61	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	12. 広さの表し方を考えよう [面積のはかり方と表し方]			教科書の ページ	下 p.62~81, 146
配当時数	11 時間	活動時期	1 月中旬~下旬	学習指導要 領の内容	A(6)ア(イ), イ(ア) B(4)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(8)

単元の目標		平面図形の面積に関する単位について理解し正方形や長方形の面積を計算して求めることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して面積の求め方や面積の単位と既習の単位との関係について考える力を養うとともに、単位面積を基に考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	面積の単位について理解し、それらを活用して正方形や長方形の面積を求められることやその求め方、面積の単位間の関係を理解するとともに、面積についての量感を身に付けている。
	思考・判断・表現	量や乗法の学習を基に、単位面積や図形の構成要素に着目して、単位面積の何こ分かを数値化することや辺の長さを用いて面積を求めることについて考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	面積を数値化して表すことのよさや身の回りのものの面積を求めたことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 広さの表し方 下 p.62~65 [プロローグ]	2 時間		★他教科との関連: 英語
下 p.62	1	①p.62 の絵を提示し、日常生活の中で面積を比べる場面や陣取りゲームを取り上げ、自由な話し合い活動を通して、広さを数で表し、比較したり面積を求めたりするという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・面積の比べ方を様々な方法で考え、説明することができる。 下 p.63		①陣取りゲームで得られた図形の面積の比べ方を考える。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・面積の単位「平方センチメートル (cm ²)」を知り、面積の意味について理解する。 下 p.64~65	1	①陣取りゲームで得られた図形の面積の表し方を考える。 ②「面積」の意味や面積の単位「平方センチメートル (cm ²)」について知る。 ③図の面積が 1cm ² であることの説明やいろいろな形の 4 cm ² の図形をかく。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 長方形と正方形の面積 下 p.66～73 3 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 長方形, 正方形の面積を計算で求める方法を理解し, 面積を求める公式をつくることができる。 <p style="text-align: right;">下 p.66～68</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①長方形, 正方形の面積を計算で求める方法を考える。 ②「公式」の意味を知り, 長方形, 正方形の面積の公式をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①公式を用いて, 長方形や正方形の面積を求めたり, 辺の長さを求めたりする。 ②測定した値を用いて, 面積を求めることを確認する。 ③周りの長さが等しい長方形や正方形の面積を調べ, 周りの長さが等しくても面積が異なる図形があることを知る。 	
<p>[今日の深い学び]</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して, L字型の図形の面積の求め方を考え, 説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.69～73</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①長方形を組み合わせた図形の面積を, 分割したり, 補ったりするなどのいろいろな考えで求める。 *デジタルコンテンツ設定有 ②他者の考えを図や式から読み取り, 説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
(3) 大きな面積の単位 下 p.74～78 4 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 面積の単位「平方メートル(m^2)」を知り, 辺の長さがmの場合も, 長方形や正方形の面積の公式が適用できることを理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.74～75</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①長方形の形をした教室と正方形の形をした理科室の面積の求め方を考える。 ②面積の単位「平方メートル(m^2)」を知る。 ③辺の長さがmで表されていても, 面積の公式が使えることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> mとcmの関係を基に面積の単位m^2とcm^2の関係を考え, 説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.75</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①$1m^2$は何cm^2になるか調べる。 ②紙を使って, $1m^2$の正方形を作り面積の量感をつかむ活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 面積の単位「アール(a)」「ヘクタール(ha)」「平方キロメートル(km^2)」を知り, 面積の単位の相互関係を理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.76～78</p>	1	①1辺の長さを10mや100mにしたときの面積を考え, 面積の単位「アール(a)」「ヘクタール(ha)」を知る。	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①町の面積を調べ, 面積の単位「平方キロメートル(km^2)」を知る。 ②$1km^2$は何m^2になるか調べる。 	
(4) 長方形のたての長さとの面積の関係 下 p.79 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 長方形の周りの長さとの面積の関係を, 表やグラフを基に考え, 説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.79</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①長方形の縦の長さとの横の長さ, 面積について表にまとめる。 ②縦の長さとの面積の変わり方を折れ線グラフから読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.80～81, 146 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を適用して問題を解決する。 ・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 <p style="text-align: right;">下 p.80～81</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> ・【発展】巻末 p.146 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に面積についての理解を深める。 			

単元名	13. 小数のかけ算とわり算を考えよう [小数のかけ算とわり算]		教科書の ページ	下 p.82~103, 147
配当時数	15 時間	活動時期	2 月上旬~中旬	学習指導要 領の内容 A(4)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(5)

単元の目標		乗数や除数が整数の場合の小数の乗除計算の仕方について理解し、筆算を用いて計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して筆算や計算の工夫を考える力を養うとともに、計算の仕方を既習事項を基に考えた過程を振り返り、日常生活や学習を生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	既習の乗除の計算の仕方を基に、小数×整数、小数÷整数、整数÷整数で商が小数になる場合の計算の仕方を理解し、計算をすることができる。
	思考・判断・表現	位に着目し、小数×整数、小数÷整数、整数÷整数で商が小数になる場合の計算の仕方を考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	小数×整数、小数÷整数、整数÷整数で商が小数になる場合の計算の仕方を、既習の乗除の計算の仕方を基に考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 小数のかけ算 下 p.82~88 4 時間			
[プロローグ] 下 p.82	1	①p.82 の問題場面を提示し、問題場面やテープ図より演算決定をしながら、整数の乗除計算の仕方を振り返る活動を通して、小数においても乗除の計算ができるようになるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 小数×整数の計算を dL や 0.1L を基に考え、説明することができる。 下 p.83~84		①立式し、その式になる理由を考える。 ② 0.3×6 の計算の仕方を考える。 ③ 0.3×6 の計算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ かけ算の性質を基に、 $1/10$ の位までの小数×1 位数の計算の仕方や筆算の仕方を説明することができる。 下 p.84~85	1	① 3.6×7 の計算の仕方を考える。 ② 3.6×7 の筆算の仕方を考える。 ③ 3.6×7 の筆算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ $1/10$ の位までの小数に 1 位数や 2 位数をかける筆算(被乗数が純小数の場合や積の末位が 0 になる場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.86	1	① 0.2×4 , 0.8×5 , 7.5×4 の筆算(被乗数が純小数の場合や、積の末位が 0 になる場合)の仕方を考える。 ②計算練習をする。 ③ 1.8×34 の筆算の仕方を考える。 ④ 1.8×34 の筆算の仕方をまとめる。 ⑤計算問題や文章題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・ かけ算の性質や $1/10$ の位までの小数 $\times 1$ 位数の計算の仕方を基に、$1/100$ の位の小数に 1 位数をかける筆算の仕方を説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.87~88</p>	1	<p>① 1.36×7 の計算の仕方を考える。</p> <p>② 1.36×7 の筆算の仕方を考える。</p> <p>③ 1.36×7 の筆算の仕方をまとめる。</p> <p>④ 計算練習をする。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	—	<p>【発展】</p> <p>① 「ますりんつうしん」を読み、入れ物の個数が 2 倍、3 倍、…になると、入れ物に入る全部の水の量も 2 倍、3 倍、…になることを知る。</p>	
(2) 小数のわり算 下 p.89~97 7 時間			
<p>・ 小数 \div 整数の計算を dL や $0.1L$ を基に考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.89~90</p>	1	<p>① 立式し、その式になる理由を考える。</p> <p>② $3.6 \div 3$ の計算の仕方を考える。</p> <p>③ $3.6 \div 3$ の計算の仕方をまとめる。</p> <p>④ 計算練習をする。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<p>・ $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の計算ができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.90~92</p>	1	<p>① $7.2 \div 3$ の計算の仕方を考える。</p> <p>② $7.2 \div 3$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>③ $7.2 \div 3$ の筆算の仕方をまとめる。</p> <p>④ 計算練習をする。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<p>・ $1/10$ の位までの小数を 1 位数や 2 位数でわる筆算(商が純小数になる場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.93</p>	1	<p>① $6.3 \div 7$ の筆算(商が純小数になる場合)の仕方を考える。</p> <p>② 上記の型の計算問題と文章題に取り組む。</p> <p>③ $95.2 \div 28$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>④ 計算問題と文章題に取り組む。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<p>・ 既習の $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の計算の仕方を基に、$1/100$ の位の小数に 1 位数や 2 位数でわる筆算(商が純小数になる場合や、被除数が純小数の場合を含む)の仕方を考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.94</p>	1	<p>① $9.48 \div 4$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>② 計算練習をする。</p> <p>③ $0.24 \div 6$ の筆算(商が純小数になる場合や、被除数が純小数の場合)の仕方を考える。</p> <p>④ 計算練習をする。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<p>・ 小数 \div 整数で余りを求める計算で、余りの大きさについて理解し、その計算ができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.95</p>	1	<p>① $46.7 \div 3$ の筆算をして、商を一の位まで求める。</p> <p>② 余りの大きさを考える。</p> <p>③ $46.7 \div 3$ の筆算の検算をする。</p> <p>④ 余りの小数点の位置についてまとめる。</p> <p>⑤ 計算練習をする。</p>	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<p>・ 整数 \div 整数でわり進みをするときの筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p style="text-align: right;">下 p.96</p>	1	<p>① $6 \div 4$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>② わり進むとき、被除数に 0 を補って計算を続けることを知る。</p> <p>③ 計算練習をする。</p>	[知技] 発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・小数÷整数でわり進みをするときの筆算の仕方を理解し、その計算ができ、その商を概数で表すことができる。 下 p.97	1	①1.7÷5 の筆算の仕方を考える。 ②適用問題に取り組む。 ③13÷3 の計算をして、商は四捨五入して上から2桁の概数にするには、何の位で四捨五入すればよいか考える。 ④適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察
(3) 小数の倍 下 p.98~100 2時間			
・小数が何倍かを表すのに用いられることを倍の計算を基に考え、説明することができる。 下 p.98~100	1	①80m, 120m, 100m は、40m の何倍かを求める。 ②120m は 80m の何倍かを求める。 ③何倍かを表すときに小数を用いることがあることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①120m, 50m, 80m は、100m の何倍かを求める。 ②倍を表す数が純小数のときの、倍の意味を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.101~103, 147 2時間			
・学習内容を適用して問題を解決する。 下 p.101~102	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 下 p.103	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.147 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基にかけ算やわり算の性質、筆算の仕組みについての理解を深める。			

単元名	どんな計算になるのかな？			教科書のページ	下 p.104~105
配当時数	1時間	活動時期	2月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(4) B(4)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・加減乗除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 下 p.104~105	1	①問題文を読み、それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	14. 箱の形の特ちょうを調べよう [直方体と立方体]			教科書の ページ	下 p.106~119, 148
配当時間	9 時間	活動時期	2 月下旬~ 3 月上旬	学習指導要 領の内容	B(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(3)ア(ア),イ(ア)

単元の目標		立体図形や直方体における直線や平面の関係について理解し説明することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、図形の性質について考える力を養うとともに、図形を構成する要素や位置関係に着目し考察したことを振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	直方体や立方体の特徴や性質、直線や平面の垂直と平行の関係、平面上や空間にあるものの位置の表し方を理解し、それらを活用して展開図や見取図をかいたり、位置を表したりすることができる。
	思考・判断・表現	立体図形の構成要素や位置関係に着目して、直方体や立方体の特徴や性質を考え表現したり、直方体に関連づけて、直線や平面の垂直や平行の関係、ものの位置の表し方を捉えたり説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	図形について、構成する要素や位置関係に着目して捉えたことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 直方体と立方体 下 p.106~111 4 時間		★他教科との関連:英語	
[プロローグ] 下 p.106	1	①p.106 の写真を提示し、3 つの質問をしてどの箱かあてるゲームを行うことを通して、立体図形を構成する要素や位置関係に着目し、捉えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・身の回りの箱の形に関心をもち、既習の平面図形を基に直方体や立方体、立体の意味を理解する。 下 p.107~108		①身の回りのいろいろな箱を面の形に着目して仲間分けする。 ②箱の形の特徴を調べる。 ③「直方体」「立方体」「立体」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・構成要素に着目して直方体や立方体の特徴、性質を理解する。 下 p.109	1	①直方体や立方体の面、辺、頂点についての特徴、性質を調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ②「平面」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・直方体、立方体の展開図をかきことができる。 下 p.110~111	1	①「展開図」の意味を知る。 ②展開図をかき、それを切り抜いて直方体を組み立てる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①展開図をかき、それを切り抜いて立方体を組み立てる。 ②適用問題に取り組む。	
(2) 面や辺の垂直・平行 下 p.112~115 3 時間			
・直方体の面と面の垂直、平行の関係を理解する。 下 p.112~113	1	①写真を見て、直方体や立方体が積み重ねられる理由を考える。 ②直方体の面と面の交わり方、並び方を調べる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・直方体の辺と辺の垂直, 平行の関係や, 面と辺の垂直, 平行の関係を理解する。 下 p.113~114	1	①直方体の辺と辺の交わり方, 並び方を調べる。 ②直方体の面と辺の交わり方を調べる。 ③身の回りのものの中から, 垂直や平行になっている面や辺を見つける。	[知技]発言・行動観察
・直方体, 立方体の見取図をかきことができる。 下 p.115	1	①「見取図」の意味を知り, そのかき方を考える。 ②辺同士の平行の関係をを用いて, 直方体の見取図をかき。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察
(3) 位置の表し方 下 p.116~117 1時間			
・平面上や空間にある点の位置の表し方について理解する。 下 p.116~117	1	①平面上の点の位置の表し方を考える。 ②平面上の点の位置の表し方をまとめる。 ③平面上の点の表し方を基に, 空間にある点の位置の表し方を考える。 ④空間にある点の位置の表し方をまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 下 p.118~119, 148 1時間			
・学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 下 p.118~119	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.148 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に立方体の展開図についての理解を深める。			

単元名	考える力をのぼそう 「共通部分に注目して」			教科書のページ	下 p.120~121
配当時数	1時間	活動時期	3月上旬	学習指導要領の内容	A(6)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2量の共通部分に着目し, 問題構造を図に表して問題を解決することを通して, 問題構造を簡潔に捉えられる図のよさに気づくとともに, 問題を解決する能力を高める。 下 p.120~121	1	①小プールと大プールを泳いだ回数と, 合計の距離から, それぞれのプールの長さを求める問題を, 図を基に考える。 ②上で表した図を用いて, 説明する。 ③適用問題に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	算数で読みとこう 「ぼうさいについて考えよう」			教科書の ページ	下 p.122～123
配当時数	1 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要 領の内容	B(1) D(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を活用していくつかの棒グラフやデータを考察し、問題解決能力や乗法処理能力を高める。 下 p.122～123	1	①問題解決に必要なデータを適切に選択する。 ②時間を日に変換する。 ③問題場面に合わせて演算決定を行い、計算をする。 ④複数の直線の位置関係に着目して問題解決を図る。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	4 年のふくしゅう			教科書の ページ	下 p.124～128
配当時数	3 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要 領の内容	A～D

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 下 p.124～128	3	①問題に取り組み、解決する。	[知技]発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「デジタル数字」			教科書の ページ	下 p.130
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> さかさまから見ても形が変わらない図形を探す活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 下 p.130	—	①デジタル数字で表された 0 から 9 までの数で、さかさまから見ても変わらない数を探す。 *デジタルコンテンツ設定有 ②上で見つけたさかさまから見ても形が変わらない数字を組み合わせるなどして、11 から 999 までの数や、時刻などについて、さかさまから見ても変わらないものを見つける。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

江戸川区立葛西小学校

単元名	学びのとびら			教科書のページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容	第 4 学年の内容

目標	時数	学習活動
<p>・「もくじ」「授業のページ」「算数マイノートをつくろう」「新しい算数を使った学習の進め方」のページを使って、教科書の使い方や算数科の学び方、問題解決の方法を共有し、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。</p> <p>上 p.2～7</p>	1	<p>①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることに触れ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み上げられていること、以後の学習へつながることに気づかせる。 また、p.1 下欄を見て、前学年までに働かせ、成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点に触れる。 <p>②「授業のページ」(30分) p.2～3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 <p>③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業のページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートのつくり方を学級で共有する。 <p>④「新しい算数を使った学習の進め方」(3分) p.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「ふりかえりコーナー」(知識のふりかえり)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し、適宜活用するとよいことを知らせる。 <p>※「指導者・保護者のみなさまへ」について</p> <p>これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣(特に家庭での自学自習)を身に付けるためには保護者の理解・協力が必須であると考え掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

単元名	1. 整数と小数のしくみをまとめよう [整数と小数]			教科書の ページ	上 p.8~15, 142
配当時間	5 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		整数及び小数の表し方についての理解を深め、数学的表現を適切に活用して数の表し方の仕組みを考える力を養うとともに、十進数としての特徴を統合的に捉えようとしたり、そのよさに気付き今後の生活や学習に生かそうとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	整数及び小数について、10 倍、100 倍、1000 倍 (1/10, 1/100, 1/1000) したときの位や小数点の移動の仕方を理解し、それらの大きさの数をつることができる。
	思考・判断・表現	数の表し方に着目し、整数及び小数について十進数として統合的にとらえるとともに、十進位取り記数法をもとに図や式を用いて計算の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	整数及び小数の十進数としての特徴について統合的に捉えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 整数と小数 上 p.8~13 4 時間			
[プロローグ] 上 p.8	1	①p.8 を見て、5 円玉 1 枚の重さを表す数 3.75 はどんな数といえるかを振り返るとともに、整数と小数の仕組みについてまとめるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・整数と小数は十進位取り記数法で表され、0 から 9 までの数字と小数点を使うと、どんな大きさの整数や小数でも表せることを考え、表し方を説明することができる。 上 p.9~10		①徳本峠の高さ 2135m とハンマー投げの投げるサークルの直径 2.135m の数を比べて、それぞれの位の数字の表す大きさを調べる。 ②整数や小数では、0 から 9 までの数字の書かれた位置で何の位かが決まり、各位の数字は、その位の数が何こあるかを表していることをまとめる。 ③0 から 9 までの数字と小数点を使って、いろいろな大きさの数を表す。 ④数の構成を式に表す。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・小数の相対的な大きさを考え、1, 3, 4, 5, 8 の数字と小数点を使っていろいろな小数をつくることを通して、十進位取り記数法のしくみを確認する。 上 p.11	1	①2.135 は 0.001 の何こ分か考える。 ②1, 3, 4, 5, 8 の数字と小数点を使って、いろいろな小数をつくる。	[思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・整数や小数を10倍、100倍、…すると、位はそれぞれ1桁、2桁、…上がり、小数点は右に1桁、2桁、…移動することを理解する。</p> <p>上 p.12</p>	1	<p>①2.98を10倍、100倍、1000倍したときの数を求める。</p> <p>②2.98を10倍、100倍、1000倍したときの位の変わり方を調べる。</p> <p>③2.98を10倍、100倍、1000倍したときの小数点の位置の移り方を調べる。</p> <p>④小数を10倍、100倍、1000倍したときの位の上がり方と小数点の位置の移り方をまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・整数や小数を1/10、1/100、…にすると、位はそれぞれ1桁、2桁、…下がり、小数点は左に1桁、2桁、…移動することを図や式を用いて考え、説明することができる。</p> <p>上 p.13</p>	1	<p>①634を1/10、1/100、1/1000にしたときの数を求める。</p> <p>②634を1/10、1/100、1/1000にしたときの位の変わり方を調べる。</p> <p>③小数を1/10、1/100、1/1000にしたときの小数点の位置の移り方を調べる。</p> <p>④小数を1/10、1/100、1/1000にしたときの位の下がり方と小数点の位置の移り方をまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>まとめ 上 p.14～15, 142 1時間</p>			
<p>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p>上 p.14～15</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・【発展】巻末 p.142 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習内容を基に整数と小数の仕組みについて理解を深める。</p>			

単元名	2. 直方体や立方体のかさの表し方を考えよう [直方体や立方体の体積]			教科書のページ	上 p.16~31, 143
配当時間	8 時間	活動時期	4 月下旬~ 5 月上旬	学習指導要領の内容	B(4)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		立体の体積について理解し、立体を構成する要素に着目して体積の求め方を考える力を養うとともに、体積の求め方を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	体積の単位を知り、立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解するとともに、体積を求めることができる。
	思考・判断・表現	体積の単位や立体を構成する要素に着目し、立体の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を統合的に捉え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	立体の体積の単位や体積の求め方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) もののかさの表し方 上 p.16~25	5 時間		★他教科との関連: 英語
[プロローグ] 上 p.16	1	①p.16 の展開図を見て、縦、横、高さがどんな長さの直方体や立方体ができ、また、どちらの体積が大きいかを予想する活動を通して、体積のイメージをつくるとともに、直方体や立方体の体積の表し方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・「体積」の意味や体積を表す単位「立方センチメートル (cm ³)」について理解する。 上 p.17~18	1	①P.16 の展開図を実際にかいて組み立て、どちらの体積が大きいかを予想する。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・直方体、立方体の体積を求める公式を理解し、公式を適用して体積を求めることができる。 ・単位となる体積を用いて、直方体や立方体の体積の求め方を考え、説明することができる。 上 p.19~20	1	①長さや面積の学習を基に、直方体と立方体の大きさの比べ方を考える。 ②1 辺が 1cm の立方体の積み木で直方体や立方体の大きさを調べる。 ③1 辺が 1cm の立方体の積み木の数で直方体と立方体の大きさを表す。 ④用語「体積」、体積の単位「立方センチメートル」を知る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	①縦 4cm、横 6cm、高さ 5cm の直方体と 1 辺 5cm の立方体の体積を計算で求める方法を考える。 ②それぞれ 1cm ³ の立方体の何こ分か調べる。 ③直方体、立方体の体積を求める公式をまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	①直方体や立方体の体積を、公式を使って求める。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>[今日の深い学び]</p> <p>・直方体を組み合わせた立体の体積の求め方を、図形の特徴を基にして考え、説明することができる。</p> <p>上 p.21～25</p>	1	<p>①直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を工夫しながら多様に考え、図や式を使って表す。</p> <p>②他者の考えを読み取り、図や式に表す。</p> <p>③直方体を組み合わせた立体の体積は、直方体や立方体を基にして考えると求められることをまとめる。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
(2) いろいろな体積の単位 上 p.26～29 2時間			
<p>・体積を表す単位「立方メートル(m^3)」や、$1m^3=1000000cm^3$の関係について理解する。</p> <p>上 p.26～27</p>	1	<p>①体積の単位「立方メートル」を知り、縦3m、横4m、高さ2mの直方体の体積を求める。</p> <p>②$1m^3$は何cm^3か調べ、$1m^3=1000000cm^3$の関係をまとめる。</p> <p>③$1m^3$の立方体を作り、$1m^3$の体積を実感する。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・「内のり」「容積」の意味や容積の求め方、$1L=1000cm^3$の関係について理解する。</p> <p>・体積の単位と長さや面積の単位との関係を、もとにする長さを基にして考え、説明することができる。</p> <p>上 p.27～29</p>	1	<p>①縦、横、深さが10cmの1Lのますに入る水の体積を考える。</p> <p>②用語「内のり」「容積」の意味を知る。</p> <p>③$1L=1000cm^3$の関係をもとに、$1mL=1cm^3$、$1kL=1m^3$の関係を調べる。</p> <p>④長さ、面積、体積の単位を、表にまとめて整理し、単位間の関係を調べる。</p> <p>⑤「ますりん通信」を読み、複雑な形のものでも水の中に入れることによって、その体積がはかれることを理解する。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
まとめ 上 p.30～31, 143 1時間			
<p>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p>上 p.30～31</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・【発展】巻末 p.143 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容を基に容積について理解を深める。</p>			

単元名	3. 変わり方を調べよう(1) [比例]			教科書のページ	上 p.32～38
配当時数	4 時間	活動時期	5 月中旬	学習指導要領の内容	C(1)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		簡単な場合の比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係を表を用いて考える力を養うとともに、伴って変わる2つの数量の変化や対応の特徴を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	簡単な場合について比例の関係があることを知り、表を用いて比例の関係を見いだすことができる。
	思考・判断・表現	伴って変わる2つの数量の関係に着目し、表を用いて比例の関係を捉え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	簡単な場合の比例の関係について、表を用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 比例 上 p.32～37 3 時間			
[プロローグ] 上 p.32	1	①いろいろな場合の伴って変わる2つの数量について、その変わり方を考えるとともに、伴って変わる2つの数量の変化や対応の特徴を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・「比例」の関係について理解する。 上 p.33～34		①底面を固定して、直方体の高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのようになるかを調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ②用語「比例」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・比例の関係を使って、表にない部分の体積の求め方を考え、説明することができる。 上 p.34～35	1	①高さが30cmのときの直方体の体積について、比例の関係を使った求め方を考える。 ②適用問題に取り組み、表から比例の関係を判断する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・数直線が比例の関係を表していることを理解し、数直線を活用して問題を解決することができる。 ・リボンを買う長さや代金という既習場面を比例の関係ととらえ、比例の関係を表した数直線を用いて、式の立て方や答えの求め方を考え、説明することができる。 上 p.36～37	1	①リボンを買う長さを2倍、3倍、…にすると、代金はどのように変わるかを調べ、代金は長さに比例することをまとめる。 ②②の数直線やp.148～149を参照し、比例の関係を数直線でも表せることを確認する。 ③数直線に表された比例の関係をjつて、問題を解決する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 上 p.38 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上 p.38	1	[いかしてみよう] ①比例の関係を活用して階段の段数から床の高さを求める問題に取り組む。	[思判表]発言・記録

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	上 p.39
配当時数	—	活動時期	5月中旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 上 p.39	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	4. かけ算の世界を広げよう [小数のかけ算]			教科書のページ	上 p.40～51, 144
配当時数	9 時間	活動時期	5 月中旬～ 6 月上旬	学習指導要領の内容	A(3)ア(7)(イ)(ウ), イ(7)(6)

単元の目標		乗数が小数の場合の乗法の意味について理解し、その計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、乗数が小数の場合の乗法の計算の仕方を乗法の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、乗法の意味を捉え直したり今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	乗数が小数の場合の乗法の意味や、小数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解するとともに、乗数が小数の場合の乗法の計算ができる。
	思考・判断・表現	乗法の意味に着目し、乗法の性質を活用して、乗数が小数の場合の乗法の計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	乗数が小数の場合の乗法の意味を捉え直したり、その計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 小数のかけ算 上 p.40～49 8 時間			
[プロローグ] 上 p.40	1	①かけ算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して、乗数が小数の場合のかけ算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 小数をかけることの意味を図や式を用いて考え、説明することができる。 上 p.41～42		①自分の考えで立式する。 ②その式になる理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する。 ③「1 とみたとき、○にあたる」という既習の倍の見方を活用して、乗法の意味を捉え直す。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・ 整数×小数の計算の仕方を、数直線を用いて考え、説明することができる。 上 p.43～44	1	①80×2.3 の計算の仕方を考える。 ②80×2.3 の計算の仕方をまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 小数×小数の計算の仕方を、乗法の性質をもとに考え、説明することができる。 上 p.44～45	1	①立式を考える。 ②乗法の性質を活用して、2.14×3.8 の計算の仕方を考える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 小数×小数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.45～46	1	①小数×小数の筆算の仕方をまとめる。 ②練習問題に取り組む。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 小数×小数の筆算(末尾の0を処理したり、0を補ったりする場合)の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.46	1	①4.92×7.5, 0.18×3.4 の筆算の仕方を考える。 ②練習問題に取り組む。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・純小数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解し、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.47</p>	1	<p>①$400 \times 1.3$ と 400×0.6 の計算をして、積と被乗数の大きさを比べる。</p> <p>②純小数をかけると、積が被乗数より小さくなることをまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・長方形や直方体の辺の長さが小数の場合も、面積や体積の公式を適用できることを理解し、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.48</p>	1	<p>①縦 2.3cm, 横 3.6cm の長方形の面積の求め方を考える。</p> <p>②長方形の中に、1 辺が 1mm の正方形が何個あるかを調べてから 2.3×3.6 の計算で求める。</p> <p>③縦 0.8m, 横 1.2m, 高さ 0.7m の直方体の体積の求め方を考える。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
<p>・整数について成り立つ交換, 結合, 分配法則は, 小数の場合でも成り立つことを帰納的に考え, 説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.49</p>	1	<p>① $\blacksquare \times \bullet = \bullet \times \blacksquare$, $(\blacksquare \times \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times (\bullet \times \blacktriangle)$, $(\blacksquare + \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle + \bullet \times \blacktriangle$, $(\blacksquare - \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle - \bullet \times \blacktriangle$</p> <p>小数をあてはめ, 式が成り立つか調べる。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>まとめ 上 p.50~51, 144 1時間</p>			
<p>・学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p style="text-align: right;">上 p.50~51</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・【発展】巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み, 学習内容を基に小数の乘法について理解を深める。</p>			

単元名	5. わり算の世界を広げよう [小数のわり算]		教科書のページ	上 p.52～63, 144
配当時数	9 時間	活動時期	6 月上旬～中旬	学習指導要領の内容 A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		除数が小数の場合の除法の意味について理解し、その計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、除数が小数の場合の除法の計算の仕方を除法の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、除法の意味を捉え直したり今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	除数が小数の場合の除法の意味について理解するとともに、除数が小数の場合の除法の計算ができる。
	思考・判断・表現	除法の意味に着目し、除法の性質を活用して、除数が小数の場合の除法の計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	除数が小数の場合の除法の意味を捉え直したり、その計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 小数のわり算 上 p.52～61 8 時間			
[プロローグ] 上 p.52	1	①わり算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して、除数が小数の場合のわり算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・小数でわることを意味を図や式を用いて考え、説明することができる。 上 p.53～54		①自分の考えで立式する。 ②その式になる理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する。 ③「1 とみたとき、〇にあたる」という既習の倍の見方を活用して、除法の意味を捉え直す。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・整数÷小数の計算の仕方を、数直線を用いて考え、説明することができる。 上 p.55～56	1	① $300 \div 2.5$ の計算の仕方を考える。 ② $300 \div 2.5$ の計算の仕方をまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・小数÷小数の計算の仕方を、除法の性質をもとに考え、説明することができる。 上 p.56～57	1	①立式を考える。 ②除法の性質を活用して、 $7.56 \div 6.3$ の計算の仕方を考える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・小数÷小数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.57～58	1	①小数÷小数の筆算の仕方をまとめる。 ②練習問題に取り組む。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・小数÷小数の筆算(商が純小数の場合、被除数に 0 を補う場合)の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.58	1	① $2.34 \div 3.9$, $1.8 \div 2.4$, $8 \div 2.5$ の筆算の仕方を考える。 ②練習問題に取り組む。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解し、説明することができる。 上 p.59 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① $240 \div 1.2$ と $240 \div 0.8$ の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ② 純小数でわると、商が被除数より大きくなることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 小数の除法での余りの意味を理解し、余りを求めることができる。 上 p.60 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 2.5m のリボンを、1 人に 0.7m ずつ配ると何人に配れて、リボンはどれだけ余るかを考える。 ② 小数の除法の、余りの小数点をうつ位置についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 小数の除法で商を概数で求めるときの処理の仕方を理解し、商を概数で表すことができる。 上 p.61 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 1.5L の砂の重さが 2.5kg のときの、1L の砂の重さは何kgか考える。 ② わり切れないときの商の表し方について考え、上から 2 桁の概数で求める。 ③ わり算でわり切れないときや商の桁数が多いときなどに、商を概数で表すことがあることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
まとめ 上 p.62～63, 144 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.62～63 	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 「たしかめよう」に取り組む。 ② 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】 巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、学習内容を基に小数の除法について理解を深める。 			

単元名	小数の倍			教科書のページ	上 p.64～69
配当時数	5 時間	活動時期	6 月下旬	学習指導要領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		既習の倍の意味をもとに基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について理解し、倍の意味を図や式を用いて考える力を養うとともに、整数と小数の倍の意味を統合的に捉えたりこれまでの倍の学習を生活や学習に生かそうとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について理解し、説明している。
	思考・判断・表現	2 量の関係に着目し、基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について、整数倍の意味と統合的に捉えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 小数の倍 上 p.64～69 5 時間			
・ 2 量の関係について、基準量を変えると倍を表す数が変わることをおさえ、倍の意味の理解を深める。 上 p.64～65	1	① [プロローグ] 差や倍で大きさを比べてきた既習を振り返り、倍の意味を確認する。 ② 赤のリボンと青のリボンの関係について、基準量を変えて倍で表す。 ③ 基準量を変えると倍を表す数が変わることをまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 比較量、基準量が小数の場合も、倍を求めるときは除法を用いればよいことを、図や式を用いて考え、説明することができる。 上 p.66	1	① 4.8km, 3.6km, 1.8km は 2.4km の何倍か ($2.4 \times \square$) を求める方法を図や式を用いて考える。 ② 比較量、基準量が小数の場合でも倍を求めるには除法を使うことをまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 小数倍の意味について、図や式を用いて考え説明し、倍の意味の理解を深める。 上 p.67	1	① 5m の 3 倍, 3.5 倍, 0.6 倍の長さを求める。 ② 倍を表す式の意味を、図や式を用いて考え、説明する。 ③ 整数倍と小数倍の倍の意味を統合的に捉える。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 倍を表す数が小数の場合も基準量を求めるときは \square を用いて乗法の式に表して考えればよいことを、図や式を用いて説明することができる。 上 p.68	1	① 630g が基準量の 1.8 倍にあたる時の、基準量の求め方を考える。 ② 倍を表す数が小数の場合も、基準量を求めるには、 \square を使って乗法の式に表して考えればよいことをまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 倍を表す数が小数の場合も倍を使った比較の仕方を考え、説明することができる。 上 p.69	1	① $110 \div 160$, $150 \div 200$ の計算をして、値段の上がり方を、倍を使って比べる。 ② 倍を表す数が小数の場合も、倍を使って比較できることをまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

単元名	どんな計算になるのかな？			教科書のページ	上 p.70
配当時数	2 時間	活動時期	6 月下旬	学習指導要領の内容	A(3)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・小数の乗法や除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を高める。 上 p.70	2	①図や問題文を読み，それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.71
配当時数	—	活動時期	6 月下旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.71	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	6. 形も大きさも同じ図形を調べよう [合同な図形]		教科書の ページ	上 p.72～83, 144
配当時数	8 時間	活動時期	7 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容
				B(1)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		図形の合同の意味や合同な図形の性質などについて理解し、図形を構成する要素や図形間の関係に着目して図形の性質について考える力を養うとともに、図形を合同という観点で考察した過程を振り返り、合同の観点から既習の図形を捉え直したり今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	図形の形や大きさが決まる要素や図形の合同について理解するとともに、合同な図形を弁別したりかいたりすることができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、合同な図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	合同という観点で既習の図形の性質を見直したり、対角線に着目して合同な図形を捉えたりしたことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 合同な図形 上 p.72～81 7 時間			
[プロローグ] 上 p.72	1	①p.72 の写真を見て、ぴったり重なる理由についての話し合いを通して、形も大きさも同じ図形（合同な図形）を調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・「合同」の意味について理解する。 上 p.73～74		①与えられた三角形、四角形と形も大きさも同じ図形を見つける。 ②用語「合同」の意味を知る。 ③四角形を裏返して重ね合わせるができるかどうかを調べる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・頂点、辺、角について「対応する」の意味を知り、合同な図形の性質について理解する。 上 p.74～75	1	①合同な図形について、重なり合う辺、角、頂点を調べる。 ②用語「対応する」の意味を知る。 ③合同な図形の性質をまとめ、それを用いて合同かどうかを判別する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・四角形を対角線で分割してできた三角形が合同であるかどうかを調べ、既習の図形を合同の観点で捉え直す。 上 p.76	1	①台形や平行四辺形など、これまで学習した四角形を 1 本の対角線で分割すると、どのような三角形ができるか考える。 ②分割してできた三角形について、合同であるかどうか調べる。 ③同じようにして、2 本の対角線で分割したときの三角形について、合同であるかどうか調べる。 ④既習の四角形の中には、合同な三角形を組み合わせてできた形があることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 合同な三角形のかき方を考え、説明することができる。 合同な三角形のかき方を理解し、合同な三角形をかくことができる。 <p style="text-align: right;">上 p.77～79</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①三角形の構成要素に着目して、合同な三角形のかき方を考える。 ②頂点 A の位置の決め方について考える。 	[思判表]発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①二辺夾角，二角夾辺，三辺のかき方で合同な三角形をかく。 ②それぞれのかき方でどの辺や角を使っているかを整理し，すべての構成要素を使わなくても合同な三角形がかけられることをおさえる。 ③合同な三角形のかき方をまとめる。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 合同な三角形のかき方を理解し，かくことができる。 <p style="text-align: right;">上 p.80</p>	1	①練習問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 合同な三角形のかき方を活用して，合同な平行四辺形のかき方を考え，説明することができる。 <p style="text-align: right;">上 p.81</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①合同な三角形のかき方を基に，合同な平行四辺形のかき方を考える。 ②三角形の場合と異なり，4つの辺の長さだけでは，形が決まらずかけないことを知る。 ③対角線で2つの三角形に分けると，合同な平行四辺形をかくことができることをまとめる。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 上 p.82～83, 144 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに，数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p style="text-align: right;">上 p.82～83</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み，学習内容を基に合同な図形について理解を深める。 			

単元名	7. 図形の角を調べよう [図形の角]			教科書のページ	上 p.84～95, 145
配当時数	6 時間	活動時期	9 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(イ), イ(ア)内容の取扱い(2)

単元の目標		三角形や四角形の内角の和について理解し、それを用いて多角形の角の性質を考える力を養うとともに、機能的及び演繹的に考えるよさに気づき、今後の生活や学習に生かそうとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	三角形の内角の和について理解し、それを基に四角形や他の多角形の内角の和を求めることができる。
	思考・判断・表現	図形の角に着目し、三角形の内角の和についての性質を見だし、それを基に四角形や他の多角形の内角の和について演繹的に考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	三角形の内角の和が 180° であること基に、四角形や他の多角形の性質を考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 三角形と四角形の角 上 p.84～92 4 時間			
[プロローグ] 上 p.84	1	①p.84 の円の半径を使ったいろいろな二等辺三角形を見て、3 つの角の大きさの関係について関心を持ち話し合うことを通して、図形の角を調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 三角形の角の大きさについて調べ、内角の和の性質を見だし、説明することができる。 ・ 三角形の内角の和は 180° であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求めることができる。 上 p.85～86	1	①㉗～㉘の二等辺三角形を基に、三角形の 3 つの角の大きさのきまりを調べる。 ②㉗～㉘の二等辺三角形では 3 つの角の大きさの和が 180° であることを確認し、他の三角形についての見通しをもつ。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
	1	①いろいろな三角形について、3 つの角の大きさの和が 180° になることを確認する。 ②三角形の内角の和が 180° になることを活用して、三角形のいろいろな角度を計算で求める。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
[今日の深い学び] ・ 三角形の内角の和を基にして、四角形の内角の和を考え、説明することができる。 上 p.87～91	1	①角度をはからず、四角形の 4 つの内角の和を求める方法を考え、図や式を使って表す。 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③四角形を三角形に分けて考えると、四角形の内角の和は 360° になることをまとめる。 * デジタルコンテンツ設定有	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・「多角形」を知り，多角形の内角の和の求め方を考え，説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.92</p>	1	<p>①「五角形」「六角形」「多角形」の意味を理解する。</p> <p>②五角形，六角形の内角の和を三角形に分けて調べ，多角形の内角の和について表にまとめる。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p>
(2) しきつめ 上 p.93 1時間			
<p>・四角形が敷き詰められる理由を考え，内角の和を基にして説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">上 p.93</p>	1	<p>①折り込みにある一般四角形の同じ図形を並べて，すきまなく敷き詰める。</p> <p>②形も大きさも同じ四角形が敷き詰められる理由を考える。</p> <p>③4つの角を1つの点に集めれば，敷き詰められることをまとめる。</p>	<p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
まとめ 上 p.94～95, 145 1時間			
<p>・学習内容の定着を確認するとともに，数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p style="text-align: right;">上 p.94～95</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[知技]発言・行動観察</p> <p>[思判表]発言・記録</p> <p>[態度]発言・行動観察</p>
<p>・【発展】巻末 p.145 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み，学習内容を基に合同な図形や内角の和について理解を深める。</p>			

単元名	8. 整数の性質を調べよう [偶数と奇数, 倍数と約数]		教科書の ページ	上 p.96~109, 146
配当時間	12 時間	活動時期	9 月中旬~下旬	学習指導要 領の内容 A(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		偶数, 奇数及び倍数, 約数などについて知り, 整数の性質についての理解を深め, 観点を決めて整数を分類したり数の構成について考えたりする力を養うとともに, 整数を乗法や除法に着目して分類した過程を振り返り, そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	偶数, 奇数, 及び倍数, 約数について知り, それらの意味について理解するとともに, 偶数と奇数を分類したり倍数と約数を求めたりすることができる。
	思考・判断・表現	乗法及び除法に着目し, 整数を偶数と奇数の二つの集合に分類して捉えたり, 倍数と約数の集合を捉えたりするとともに, 整数の性質を図や式を用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	整数の性質について, 観点を決めて分類したり, 倍数と約数の集合を捉えたりした過程や結果を振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 偶数と奇数 上 p.96~99 3 時間			
[プロローグ] 上 p.96	1	①p.96 の数あてクイズをして, 整数を乗法や除法の結果として捉え話し合うことを通して, 整数の性質を調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10~15 分程度)	
・整数を 2 つの集合に分ける方法を考え, 説明することができる。 ・「偶数」「奇数」の意味や性質を知り, 整数は偶数と奇数に分類できることを理解する。 上 p.97~98	1	①p.97 を見て, あたりとはずれをどのように 2 つに分けているか調べる。 ②2 つに分けられた数の特徴を調べて, 整数の分け方を考える。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・偶数と奇数を式に表し, その性質を考え, 説明することができる。 上 p.99	1	①偶数と奇数を, それぞれ 2 でわったときの余りについて調べる。 ②用語「偶数」「奇数」の意味を知る。 ③偶数, 奇数はどのように並んでいるか調べる。 ④すべての整数は, 偶数と奇数に分けられることをまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・偶数と奇数を式に表し, その性質を考え, 説明することができる。 上 p.99	1	①偶数と奇数を, $2 \times \square$, $2 \times \square + 1$ の式に表し, 偶数と奇数の意味や性質を考える。 ②偶数は 2 に整数をかけた数とみられることをまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
(2) 倍数と公倍数 上 p.100~103 4 時間			
・「倍数」の意味について理解する。 上 p.100	1	①鉛筆とキャップの数が等しくなるのは何本のときか考える。 ②用語「倍数」を知る。 ③倍数の意味を確かめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 「公倍数」「最小公倍数」の意味について理解する。 上 p.101 	1	①用語「公倍数」「最小公倍数」を知る。 ②公倍数の意味を確かめる。 ③数直線上でいろいろな数の公倍数を見つける。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 2つの数の公倍数は、最小公倍数の倍数になっていることを理解し、2つの数の公倍数を求めることができる。 上 p.102 	1	①4と6の公倍数の求め方を考える。 ②公倍数は最小公倍数の倍数であることに気づき、公倍数の求め方に活用する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 2つの数の公倍数の求め方を活用して、3つの数の公倍数の求め方を考え、説明する。 上 p.103 	1	①2と3と4の公倍数の求め方を考える。 ②2と3と4の公倍数は、最小公倍数の倍数になっているかを確認する。 * プログラミング体験ページ設定有 (p.126)	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 約数と公約数 上 p.104~106 3時間			
<ul style="list-style-type: none"> 「約数」の意味について理解する。 上 p.104~105 	1	①縦12cm、横18cmの長方形の中に合同な正方形を敷き詰めるとき、隙間なく敷き詰められるのは、1辺の長さが何cmの正方形のときか考える。 ②縦に隙間なく敷き詰められる場合を調べる。 ③用語「約数」を知る。 ④約数と倍数の関係をとらえる。 ⑤約数の性質(ある数を約数でわった商もまたある数の約数になる)を調べる。 ⑥横に隙間なく敷き詰められる場合を調べる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 「公約数」「最大公約数」の意味について理解する。 上 p.105 	1	①縦、横ともに隙間なく敷き詰められる場合を調べる。 ②用語「公約数」「最大公約数」を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 2つの数の公約数は、最大公約数の約数になっていることを理解し、2つの数の公約数を求めることができる。 上 p.106 	1	①24と36の公約数の求め方を考える。 ②公約数は最大公約数の公約数になっていることに気づき、公約数の求め方に活用する。 ③3つの数の最大公約数を求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 上 p.107~109, 146 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上 p.107 	1	[いかしてみよう] ①倍数を活用して新幹線の座席の座り方を考え、式に表す問題に取り組む。	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.108~109 	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.146 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、学習内容を基に公倍数について見方や考え方を広げる。 			

単元名	9. 分数と小数, 整数の関係を調べよう [分数と小数, 整数の関係]		教科書の ページ	上 p.110~119, 146
配当時数	6 時間	活動時期	10 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容
				A(4)ア(7)(イ), イ(イ)

単元の目標		整数の除法の結果を分数で表すこと及び分数と小数, 整数の関係について理解し, 分数の表現に着目してこれまで学習した分数の意味を捉えるとともに, 除法の結果を分数で表したり分数と小数, 整数の関係について考えたりした過程を振り返り, そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	整数の除法の結果は分数を用いると1つの数で表せることや, 分数と小数, 整数の関係を理解するとともに, $a \div b$ を a/b , a/b を $a \div b$ とみたり, 分数を小数で表したり, 小数, 整数を分数の形になおしたりすることができる。
	思考・判断・表現	分数の表現に着目し, 分数を整数の除法の結果として捉えたり, 分数と小数, 整数の関係を捉えたりするとともに, それらを分数や式を用いて考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	整数の除法の結果を分数で表したり, 分数と小数, 整数の関係を考えたりした過程や結果を振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) わり算と分数 上 p.110~114 3 時間			
[プロローグ] 上 p.110	1	①p.110 を使って, 除法と小数, 分数の関係についての既習の内容を振り返り, 話し合うことを通して, 分数と小数, 整数の関係を調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・整数の除法の商は分数を用いて表せることを理解する。 上 p.111~112		①2Lのジュースを3等分すると1こ分は何Lになるか考える。 ② $2 \div 3$ の商を小数で表す。 ③整数の除法の商は分数で表すことができることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・整数の除法の商を分数で表すことができる。 上 p.113	1	①適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・分数倍の意味について, 整数倍や小数倍の意味を基に図を活用して考え, 説明する。 上 p.114	1	①4m は, 5m の何倍にあたるか考える。 ②基準量, 比較量がどれかをとらえて立式し, 答えを求める。 ③倍を表す数に分数を使うことがあることをまとめる。 ④分数倍も「1とみたときに○にあたる」という倍の意味は同じであることをまとめ, 整数倍や小数倍の意味と統合的に捉える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 分数と小数, 整数の関係 上 p.115~117 2時間			
・整数の商を分数で表せることを活用して, 分数を小数で表す方法を考え, 説明する。 上 p.115~116	1	① $3 \div 5$ の商を分数と小数で表し, 0.6 と $\frac{3}{5}$ が等しいことを数直線で確かめる。 ② $\frac{3}{4}$, $\frac{2}{9}$ を小数で表す方法を考える。 ③分数を小数で表す方法をまとめる。 ④「ますりん通信」を読み, 分数について理解を深める。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・小数や整数を分数で表す方法を考え, 説明する。 上 p.117	1	①0.3, 0.29, 1.57, 4, 12 を分数で表す方法を考える。 ②小数を分数で表す方法をまとめる。 ③整数を分数で表す方法をまとめる。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
まとめ 上 p.118~119, 146 1時間			
・学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.118~119	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・【発展】巻末 p.146 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み, 学習内容を基に分数の形で表せる循環小数について理解を深める。			

単元名	考える力をのばそう「差や和に注目して」			教科書のページ	上 p.120~121
配当時数	2時間	活動時期	10月中旬	学習指導要領の内容	C(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・変化する2つの数量とその和や差に着目し, 表に表すことを通して, 変化の規則を見だし問題を解決する能力を伸ばす。 上 p.120~121	2	①問題場면을表に表しながら, 変化の仕方を考察する。 ②変化の規則性に気づき, 問題を解決する。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	算数で読みとこう 「日本をおとずれる外国の人たち」			教科書のページ	上 p.122~123
配当時数	2時間	活動時期	10月中旬	学習指導要領の内容	D(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習事項を活用してグラフを考察し, 問題解決能力や情報処理能力を伸ばす。 上 p.122~123	2	①日本を訪れた外国人旅行者に関するグラフを見て, 目的に応じた必要な情報を活用して問題を解決する。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.124
配当時数	—	活動時期	10月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.124	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	プログラミングを体験しよう！ 「倍数を求める手順を考えよう」			教科書のページ	上 p.126
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・倍数を求めるためのプログラミングについて、倍数の性質を基に論理的に考え、説明することができる。 上 p.126	—	①「プログラミング」の意味を知る。 ②コンピューターを使って3の倍数を求める手順を考え、説明する。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「ブロック遊び」			教科書のページ	上 p.127
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ブロックを組み合わせて形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 上 p.127	—	①ブロックを組み合わせて、六角形や大きな三角形、台形に敷き詰める。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	10. 分数のたし算, ひき算を広げよう [分数のたし算とひき算]		教科書の ページ	下 p.2~18, 144
配当時間	10 時間	活動時期	10 月中旬～ 下旬	学習指導要 領の内容
				A(4)ア(ウ)(エ), イ(ア) (5)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		分数の性質や異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し, 通分, 約分の仕方や計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに, 通分, 約分の仕方や異分母の分数の加減計算の仕方を分数の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り, 今後の学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	分数の性質や通分, 約分の意味, 異分母の分数の加法及び減法の意味について理解するとともに, 通分や約分, 異分母の分数の加減計算ができる。
	思考・判断・表現	単位分数に着目して, 分数の相当及び大小関係や, 異分母の分数の加減計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	通分や約分の意味や, 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を, 図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 学習したことを今後の学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 通分と分数のたし算, ひき算 [プロローグ]	下 p.2~9 4 時間		
下 p.2	1	①p.2 の考えなどを参考にし, 分数の既習事項についての話し合いを通して, 未習の分数のたし算, ひき算について考えるという単元全体の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・異分母の分数の加減計算について, 分母をそろえることの意味を考え, 説明する。 下 p.3~4		① $1/2+1/3$ の計算の仕方を考える。 ②数直線を使って, $1/2, 1/3$ と大きさの等しい分数を見つける。 ③ $1/6$ をもとにして, 計算の仕方を考える。 ④異分母の分数の加減計算は, 分母をそろえると計算できることをまとめる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・分数の分母と分子に同じ数をかけても, 同じ数でわっても, 分数の大きさは変わらないことを見出し, 大きさの等しい分数の作り方を説明することができる。 下 p.5~6	1	① $3/4$ と大きさの等しい分数を見て, 大きさの等しい分数の作り方を考える。 ② $3/4=12/16$ であることを確かめる。 ③分数の性質として大きさの等しい分数の作り方をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・「通分」の意味について理解する。 下 p.7~9	1	① $3/5$ と $1/4$ の差を求める方法を考える。 ②用語「通分」を知る。 ③通分した分数を見て, 通分の仕方を考え, まとめる。 ④ $3/5$ と $1/4$ の差を求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	① $1/2$ と $2/3$ と $1/4$ の通分の仕方を考える。 ②適用問題に取り組む。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 約分と分数のたし算, ひき算 下 p.10~13 2時間			
・「約分」の意味について理解する。 下 p.10~12	1	① $1/3+1/6$ の計算の仕方を考える。 ② $9/18, 3/6$ と大きさの等しい分数で、分母がいちばん小さい分数を見つける。 ③用語「約分」を知り、方法をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・異分母の分数の加減計算の仕方を振り返り、説明する。 下 p.13	1	① $1/6+3/8$ の計算の仕方を説明する。 ②通分してから計算すること、答えが約分できるときは約分することをおさえる。 ③計算練習をする。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) いろいろな分数のたし算, ひき算 下 p.14~15 2時間			
・帯分数の加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.14	1	①2 と $3/4-1$ と $2/3$ の計算の仕方を考える。 ②通分してから整数部分、分数部分どうしを計算する方法と、仮分数になおして通分して計算する方法があることをおさえる。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・分数と小数の加減混合計算について、数の表し方に着目して考え、説明することができる。 下 p.15	1	① $2/5+0.3$ の計算の仕方を考える。 ②小数を分数で表せばいつでも計算できることを理解する。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) 時間と分数 下 p.16 1時間			
・分数を用いた時間の表し方を理解する。 下 p.16	1	①45 分を時間の単位で表すことを考える。 ② $9/12$ 時間, $3/4$ 時間が $45/60$ 時間と等しいことを通分して確かめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 下 p.17~18, 144 1時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.17~18	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、学習内容を基に、分数の加減計算についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	下 p.19
配当時数	—	活動時期	10月下旬	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.19	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	11. ならした大きさを考えよう [平均]			教科書のページ	下 p.20～27
配当時数	5 時間	活動時期	11 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	D(2)ア(ア), イ(イ)

単元の目標		平均の意味について理解し、測定した結果を平均する方法について図や式を用いて考える力を養うとともに、平均の意味や平均を求める方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	平均の意味について理解するとともに、測定した結果の平均を求めることができる。
	思考・判断・表現	概括的に捉えることに着目して、測定した結果を平均する方法を図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	平均の意味や、測定した結果を平均する方法を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 平均 下 p.20～25 3 時間			
[プロローグ] 下 p.20	1	①p.20 の 3 組の写真を見て、「ならす」ということの意味や意味についての話し合いを通して、ならした大きさを考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・「平均」の意味と求め方について理解する。 下 p.21～22		①5 個のオレンジから絞ったジュースの量から、1 個あたりにしぼれる量について考える。 ②棒グラフを使い、凸凹をならしてならした量を求める。 ③ならした量を計算で求める方法を考える。 ④用語「平均」を知り、求め方をまとめる。 ⑤平均を求める問題の解決を通して、平均の意味や求め方を確かめる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・平均から全体量を求める方法を、平均の意味や図を基にして考え、説明することができる。 下 p.23	1	①前時で求めた、1 個のオレンジからとれたジュースの平均の量から、20 個ではどれだけの量になるか考える。 ②平均を使って、全体量を予測する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・値に 0 がある場合の平均の求め方や、分離量でも平均値は小数で表す場合があることを理解する。 下 p.24～25	1	①サッカーの 1 試合当たりの平均得点について考える。 ②平均を求めるときは 0 を含めて考えることや、分離量であっても平均が小数になる場合があることが分かる。 ③「まずりん通信」を読み、仮平均について知る。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.26~27 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 <p style="text-align: right;">下 p.26</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① [いかしてみよう] 自分の1歩の歩幅を、平均の考えを使って求め、それを使って実際にいろいろな距離や道のりを調べる。 ② 「ますりん通信」を読み、外れ値について知る。 	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p style="text-align: right;">下 p.27</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 「たしかめよう」に取り組む。 	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	12. 比べ方を考えよう(1) [単位量あたりの大きさ]		教科書の ページ	下 p.28～42
配当時数	10 時間	活動時期	11 月中旬～ 下旬	学習指導要 領の内容 C(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		異種の2量の割合としてとらえられる数量について、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量あたりの大きさを用いた比べ方や表し方について図や式を用いて考える力を養うとともに、単位量あたりの大きさの意味や表し方などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	異種の2量の割合としてとらえられる数量について、速さや単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、速さや単位量あたりの大きさを求めたり、比べたりすることができる。
	思考・判断・表現	異種の2量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	速さや単位量あたりの大きさの意味及び表し方などを、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) こみぐあい 下 p.28～31 2 時間			
[プロローグ] 下 p.28	1	①p.28のイラストを見て、㊦と㊧では本数が、㊨と㊩では面積がそろっているため値段や混み具合を比較できることを話し合い、単位量あたりの大きさの比べ方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。 下 p.29～31	1	①面積とうさぎの数が違う3つの小屋の混み具合の比べ方を考える。 ②AとB, BとCを比べ、どちらかがそろっていると比べられることをおさえる。 ③AとCの比較を通して、匹数か面積のどちらかをそろえればよいことを考える。 ④AとCの比べ方を、数直線の図を使って確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①A, C, Dの比較を行う。調べる数が多くても、混み具合を一度に比べやすい方法を考える。 ②面積をそろえて1m ² あたりの匹数で比べたり、匹数をそろえて1匹あたりの面積で比べたりすればよいことをまとめる。 ③前者の方が分かりやすいことをおさえる。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) いろいろな単位量あたりの大きさ 下 p.32～33 2 時間			
・「人口密度」の意味とその求め方を理解する。 下 p.32	1	①北海道と沖縄県の人口の混み具合を比べる。 ②「人口密度」を知り、人口密度を求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・単位量あたりの大きさを用いて、問題を解決できる。 下 p.33	1	①米のとれ具合を、単位量あたりの大きさを用いて調べる。	[知技]発言・行動観察
(3) 速さ 下 p.34～39 4 時間			
・速さは単位量あたりの大きさの考えを用いて表せることを図や式を用いて考え、説明する。 下 p.34～35	1	①p.34を見て、速さを決めるために必要な量について考える。 ②走った距離、時間が異なる人の速さの比べ方を考える。 ③時間をそろえて1秒間当たりの距離で比べたり、距離をそろえて1m当たりの時間で比べたりすればよいことを数直線の図を使って考え、まとめる。 ④混み具合と速さの比べ方や表し方について、単位量あたりの大きさを使っていることを統合的に捉える。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。 ・時速、分速、秒速の意味を理解する。 下 p.36～37	1	①新幹線のはやぶさ号とかがやき号の速さを比べる。 ②速さを求める公式をまとめる。 ③「時速」「分速」「秒速」の意味を知り、公式を用いて速さを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求めることができる。 下 p.38	1	①ツバメの速さと時間から道のりの求め方を考える。 ②道のりを求める公式をまとめ、公式を用いて道のりを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・速さと道のりから時間を求める方法について考え、説明する。 下 p.39	1	①台風の速さと道のりから時間の求め方を考える。 ②かかる時間を□時間として式に表し、時間を求める。 ③速さ、道のり、時間の関係を振り返り、それぞれの求め方を統合的にとらえる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.40～42 2 時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.40	1	[いかしてみよう] ①身の回りから単位量あたりの考えを使っている場面を探す。 ②雷の音が伝わる速さについての問題を、単位量あたりの考えを活用して解決する。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.41～42	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	下 p.43
配当時数	—	活動時期	11月下旬	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.43	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	13. 面積の求め方を考えよう [四角形と三角形の面積]		教科書の ページ	下 p.44～64, 145～146
配当時数	11 時間	活動時期	12 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容
				B(3)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		四角形や三角形の面積の求め方を理解し，図形の構成要素に着目して面積の求め方を数学的表現を用いて考える力を養うとともに，四角形や三角形の面積の求め方を考えた過程を振り返り，多面的に粘り強く考えたり，今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	平行四辺形，三角形，台形，ひし形などの面積の求め方を理解し，公式を用いて面積を求めることができる。
	思考・判断・表現	平行四辺形，三角形，台形，ひし形などの構成要素や性質に着目し，既習の面積の求め方を基にして，図や式を用いて面積の求め方を考え，表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	平行四辺形，三角形，台形，ひし形などの面積を，図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り，多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり，数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 平行四辺形の面積の求め方 [プロローグ]	下 p.44～50 3 時間		
下 p.44	1	①p.44 のいろいろな図形を提示し，図形についての既習事項，未習事項を話し合うことを通して，面積の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・平行四辺形の性質に着目し，面積の求め方を考え，説明することができる。 下 p.45～46		①求積方法が既習の図形を想起し，平行四辺形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ②長方形に等積変形する平行四辺形の面積の求め方を説明し，まとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・平行四辺形の性質に着目し，面積を求める公式を考え，説明することができる。 下 p.47～48	1	①平行四辺形の面積を求める公式を考える。 ②公式をつくるには，等積変形した長方形のどこの長さが分かればよいかを考える。 ③平行四辺形の「底辺」「高さ」の意味を知り，底辺をどこにするかで高さが決まることをおさえる。 ④平行四辺形の面積を求める公式をまとめ，公式を適用して面積を求める。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的にとらえる。 どんな形の平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.48～50</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> ①高さが平行四辺形の外にある場合の面積の求め方を考える。 ②平行四辺形の向かい合う辺が平行であることから、平行四辺形の高さは、底辺をのばした直線と底辺と向かい合った辺をのばした直線の幅と考えることができることをまとめる。 ③平行な2直線上にある平行四辺形の面積を求め、面積が等しいことをおさえる。 	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
(2) 三角形の面積の求め方 下 p.51～56 3時間			
<ul style="list-style-type: none"> 三角形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.51～52</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> ①求積方法が既習の図形を想起し、三角形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ②平行四辺形や長方形に倍積変形する三角形の面積の求め方を説明し、まとめる。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 三角形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.53～54</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> ①三角形の面積を求める公式を考える。 ②公式をつくるには、倍積変形した平行四辺形のどこの長さが分かればよいか考える。 ③三角形の「底辺」「高さ」の意味を知り、底辺をどこにするかで高さが決まることをおさえる。 ④三角形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。 	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 三角形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的にとらえる。 どんな形の三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.54～56</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> ①高さが三角形の外にある場合の面積の求め方を考える。 ②平行四辺形の高さの学習を想起し、三角形の高さは、底辺をのばした直線と底辺と向かい合った頂点を通り、底辺に平行な直線の幅と考えることができることをまとめる。 ③平行な2直線上にある三角形の面積を求め、面積が等しいことをおさえる。 	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
(3) いろいろな四角形の面積の求め方 下 p.57～61 3時間			
<ul style="list-style-type: none"> 台形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.57～58</p>	1	<ol style="list-style-type: none"> ①求積方法が既習の図形を想起し、台形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。 ②平行四辺形や三角形に変形する台形の面積の求め方を説明し、まとめる。 ③求積方法が分かっている図形に帰着して考えることを介して、平行四辺形、三角形の面積の求め方の学習と本時の学習を統合的にとらえる。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 台形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.58～59</p>	1	①台形の面積を求める公式を考える。 ②公式をつくるには、倍積変形した平行四辺形のどこの長さが分かればよいか考える。 ③台形の「上底」「下底」「高さ」の意味を知る。 ④台形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> ひし形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。 たこ形の性質に着目し、たこ形の求積方法をひし形の求積公式を活用して考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.60～61</p>	1	①求積方法が既習の面積の求め方を用いて、ひし形の面積の求め方を考える。 ②対角線の長さの積がひし形の面積の2倍になっていることを利用して、ひし形の面積を求める公式を考える。 ③ひし形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。 ④ひし形の求積公式を活用して、たこ形の面積の求め方を考える。	[思判表]発言・記録
(4) 三角形の高さと面積の関係 下 p.62 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 三角形の底辺の長さを一定にして高さを変えたとき、面積は高さに比例することを理解する。 <p style="text-align: right;">下 p.62</p>	1	①三角形の高さを□cm、面積を○cm ² として面積を求める式を考える。 ②底辺の長さが4cmの三角形で、高さが1cm, 2cm, …, 8cmと変化するときの面積の大きさを調べ、面積は高さに比例していることをおさえる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 下 p.63～64, 145～146 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p style="text-align: right;">下 p.63～64</p>	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.145～146 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、学習内容を基に求積公式から図形どうしの関係を考える。 			

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.65
配当時数	—	活動時期	12月中旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 <p style="text-align: right;">下 p.65</p>	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	14. 比べ方を考えよう(2) [割合]			教科書のページ	下 p.66～82
配当時間	9 時間	活動時期	1 月中旬～下旬	学習指導要領の内容	C(3)ア(ア)(イ), イ(ア)内容の取扱い(4)

単元の目標		2 つの数量の関係について、割合で比べる場合があることや、その表し方についての百分率を理解し、割合を用いた比べ方や百分率の表し方について図や式を用いて考える力を養うとともに、割合を用いた比べ方や百分率の表し方などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	2 つの数量の関係について、割合を用いた比べ方や百分率の表し方などを理解し、割合を用いて比べたり、割合や百分率を求めたりすることができる。
	思考・判断・表現	2 つの数量の関係に着目し、倍の意味を基に、割合を用いた比べ方や表し方を図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 つの数量の関係の比べ方や表し方などを、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 割合 下 p.66～73 3 時間			
[プロローグ] 下 p.66～67	1	①p.66 のシュートの記録を見て、入った数とシュートした数の一方が同じであれば比べられることや、半分より入っている（入っていない）という見方について話し合い、2 つの数量の関係の比べ方を考えるという単元の課題を設定する。	
・倍の意味を基にして、割合を用いた 2 つの数量の関係の比べ方を図や式を用いて考え説明することができる。 下 p.68～71	1	①4 人のシュートの記録の比べ方を考える。 ②4 人のシュートの入った割合を求める。 ③割合を求める式をまとめる。 ④1 を超える割合について考える。 ⑤「ますりん通信」を読んで、割合を使った数量の関係の比べ方の理解を深める。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。 下 p.72～73	1	①5 年生の人数を基にした、サッカークラブに入っている人の割合を求める。 ②「パーセント (%)」「百分率」を知り、割合を百分率で表す。 ③「ますりん通信」を読んで、「歩合」の意味と、「割」「分」「厘」が日常生活のなかで用いられていることを知る。	[知技]発言・行動観察
(2) 百分率の問題 下 p.74～77 2 時間			
・比較量は、基準量×割合で求められることを理解する。 下 p.74～75	1	①果汁 20%の 280mL の飲み物に含まれている、果汁の量の求め方を考える。 ②比較量を求める式をまとめる。 ③割合を求める式と比較量を求める式を比べ、各量の間関係を確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 基準量は、比較量÷割合で求められることを理解する。 下 p.76~77 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①増量後のお茶の量600mLが増量前のお茶の量の120%にあたる時、増量前のお茶の量の求め方を考える。 ②基準量を求める式をまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 練習 下 p.78 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して問題を解決する。 下 p.78 	1	①「練習」に取り組む。	[知技]発言・行動観察
(4) わりびき, わりましの問題 下 p.79 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 和や差を含んだ割合の場合について、比較量や基準量を求めることができる。 下 p.79 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①250円のフェルトペンを30%びきで買うときの、代金の求め方を考える。 ②600円の筆箱に利益を30%加えたときの売値の求め方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.80~82 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.80 	1	<ul style="list-style-type: none"> [いかしてみよう] ①割引に関する問題を解決する。 	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下 p.81~82 	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.83
配当時数	—	活動時期	1月下旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 下 p.83 	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	15. 割合をグラフに表して調べよう [帯グラフと円グラフ]			教科書の ページ	下 p.84～94
配当時数	8 時間	活動時期	1 月下旬～ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	D(1)ア(ア)(イ), イ(イ) 内容の取扱い(5)

単元の目標		円グラフや帯グラフの特徴とそれらの使い方や、統計的な問題解決の方法について理解し、目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察する力を養うとともに、統計的な問題解決の方法について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	円グラフや帯グラフの特徴とそれらの使い方や、データの収集や適切な手法の選択などを理解し、統計的な問題解決をすることができる。
	思考・判断・表現	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察している。
	主体的に学習に 取り組む態度	統計的な問題解決の方法について、数学的に表現・処理した過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 帯グラフと円グラフ 下 p.84～91 5 時間		★他教科との関連:英語	
[プロローグ] 下 p.84～85	1	①p.84～85 の場面を提示し、リクエスト給食のメニューを決めるために、学校全体の好きな給食のメニューを調べるという問題を設定する。学校全体のデータを表した表や棒グラフを読み取り、好きな給食のメニューについての話し合いを通して、割合をグラフに表して判断するという単元の課題を設定する。	
・帯グラフや円グラフの読み方 や特徴を理解する。 下 p.85～87	1	①好きな給食のメニューの全体の人数に対する、メニュー別の人数の割合はどのようなグラフに表せばよいかを考える。 ②「帯グラフ」「円グラフ」を知る。 ③好きな給食のメニューの、帯グラフ、円グラフを読む。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・帯グラフや円グラフのかき方 を理解する。 下 p.87～89	1	①学年ごとの、好きな給食のメニューの割合を百分率で求めて、それを帯グラフと円グラフに表す。 ②学年ごとの帯グラフと円グラフを見て、どんなメニューを選べばよいか判断し、話し合う。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・複数のグラフから、割合や絶対量 を読み取り、データの特徴や傾向 について説明することができる。 下 p.90	1	①20 年前と今の好きな給食のメニューの、割合や絶対量を読み取り、問題を解決する。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・これまでの学習を振り返り、統計的な問題解決の方法を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.91</p>	1	①前時までの学習と関連させながら、統計的な問題解決の方法について振り返り、まとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.92～94 3時間			
<p>・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</p> <p style="text-align: right;">下 p.92</p>	2	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①身の回りの事象について、興味・関心や問題意識に基づき統計的に解決可能な問題を自分たちで設定し、統計的な問題解決の方法を活用して、問題解決する。</p>	[思判表]発言・記録
<p>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p style="text-align: right;">下 p.93～94</p>	1	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p> <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	16. 変わり方を調べよう(2) [変わり方調べ]		教科書のページ	下 p.95～99
配当時数	1 時間	活動時期	2 月上旬	学習指導要領の内容 A(6)ア(ア), イ(イ)

単元の目標		伴って変わる 2 つの数量について、表や式、図を用いて変化や対応の特徴を調べたり表したりすることができるようにするとともに、伴って変わる 2 つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式、図を用いて変化や対応の特徴について考える力を養うとともに、伴って変わる 2 つの数量の変化や対応の特徴を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	伴って変わる 2 つの数量について、表や式、図を用いて変化や対応の特徴を調べ、式に表すことができる。
	思考・判断・表現	伴って変わる 2 つの数量の関係に着目し、表や式、図を用いてその関係を説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	伴って変わる 2 つの数量の関係について、表や式、図を用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 変わり方調べ 下 p.95～99 1 時間			
[今日の深い学び] ・ 伴って変わる 2 つの数量の関係を表や図、式に表して、問題解決の方法を説明することができる。 下 p.95～99	1	①4 本の棒で正方形を作り、それを横に並べていく。正方形を 30 個作るとき、棒は何本いるか考える。 ②図や表をかいて、2 つの数量の規則性を見つける。 ③規則性を表した式の数値の意味を考える。 ④見つけたきまりを使って、正方形の数が 50 個のときの棒の数を計算で求める。 ⑤正方形の数を□個、棒の数を○本として、その関係を式に表す。 ⑥図や表を使って、2 つの数量の関係を見いだすことのよさを確認する。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	17. 多角形と円をくわしく調べよう [正多角形と円周の長さ]		教科書の ページ	下 p.100～113
配当時間	9 時間	活動時期	2 月中旬～下旬	学習指導要 領の内容 B(1)ア(ウ)(エ), イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		正多角形の性質や円周率の意味について理解し、図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、構成の仕方を考えたり図形の性質を見いだしたりする力を養うとともに、円と関連させて正多角形の性質を捉えたり、円周率について帰納的に考察したりした過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	正多角形の性質や円周率の意味を理解し、円を使って正多角形をかいたり、円周率を使って直径や円周の長さを求めたりすることができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、正多角形の性質を見いだしたり、円を使った正多角形のかき方を考えたり、円周率が一定であることを捉えたりして、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	円と関連させて正多角形の性質やかき方を考えたり、円周率について帰納的に考えたりした過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 正多角形 下 p.100～104 3 時間			
[プロローグ] 下 p.100	1	①p.100 の写真を示し、真上から見た傘は正多角形の形であり、辺の数が増えると正多角形が円に近づいていく様子をとらえ、話し合いを通して、多角形と円について調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・「正多角形」の意味や性質を理解する。 下 p.101～102		①円をかいた折り紙を 3 回折り、弦で切つて広げるとどんな形になるかを考える。 ②正八角形や正五角形、正六角形の辺の長さや角の大きさを比べる。 ③正多角形の意味や性質を知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・円と関連させて正多角形の性質の理解を深め、円の中心の周りの角を等分して正多角形をかき方法を理解する。 下 p.103	1	①円を使って正八角形をかき方法を考える。 ②円の中心の周りを等分する方法で、正五角形や正六角形をかき。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・図形の構成要素に着目して、円を使って正六角形がかけられる理由を考え、説明することができる。 下 p.104	1	①円の周りを半径の長さで区切って正六角形をかき。 ②6 つの合同な正三角形を手がかりに、正六角形がかけられるわけを考える。 * プログラミング体験ページ設定有 (p.134)	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 円のまわりの長さ 下 p.105~110 4 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 「円周」について知り、正多角形の性質に着目して、円周は直径の3倍以上4倍以下であることを考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.105~106</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①円に接する正多角形の周りの長さを確認し、円の直径と円周の関係について考える。 ②「円周」の意味を知る。 ③正多角形の性質を使って、円周の長さは直径のおよそ何倍か調べる。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	<ul style="list-style-type: none"> [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 円の形をしたいろいろなものの直径と円周の長さの関係を調べることができる。 円周率の意味や求め方を理解し、円周の長さを求めることができる。 <p style="text-align: right;">下 p.107~109</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①円の形をしたいろいろなものの円周と直径の長さを調べて表にまとめる。 ②調べた結果から、円周の長さとの直径の長さのきまりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「円周率」の意味を知り、その求め方をまとめる。 ②「ますりん通信」を読み、円周率についての歴史に関心をもつ。 	
<ul style="list-style-type: none"> 円の直径の長さと円周の長さの関係に着目して、円周の長さは直径の長さに比例していることを表を使って見だし、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.110</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①直径を□、円周を○として、円周を求める式を書き、表にまとめる。 ②円の直径の長さが変わるにつれて、円周の長さはどのように変わるか調べ、円周の長さは直径の長さに比例していることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
まとめ 下 p.111~113 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 <p style="text-align: right;">下 p.111</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> [いかしてみよう] ①円と円周についての問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p style="text-align: right;">下 p.112~113</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	18. 立体をくわしく調べよう [角柱と円柱]			教科書のページ	下 p.114～123, 147
配当時数	7 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容	B(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		角柱, 円柱の意味や性質について理解し, 図形を構成する要素に着目して図形の性質を見いだしたり図形の展開図のかき方について考えたりする力を養うとともに, 図形を角柱, 円柱として考察した過程を振り返り, 既習の図形を角柱として捉え直したり, 今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	角柱, 円柱の意味や性質について理解し, 角柱, 円柱の展開図をかいて構成することができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素に着目し, 角柱, 円柱の構成要素やそれらの位置関係の性質を見だし, その性質を基に既習の図形を捉え直し, 説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	既習の図形を角柱として捉え直したり, 角柱, 円柱の性質を考察したりした過程や結果を振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 角柱と円柱 下 p.114～119 4 時間			
[プロローグ] 下 p.114	1	①p.114 の写真を基に, 手で触りながら積み木を選ぶゲームを行うことを通して, 箱の中に入れた三角柱を探し出すにはどんな特徴に着目すればよいかを話し合い, 角柱, 円柱の特徴を調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 15 分程度)	
・角柱について, 底面の位置関係や底面, 側面の形, 底面, 側面, 辺の数を調べることを通して, その意味や性質を理解する。 下 p.115～117	1	①p.115 の立体を角柱と円柱に仲間分けして, 角柱の特徴を調べる観点をとらえる。 ②構成要素に着目して角柱の特徴を調べる。 ③「角柱」「底面」「側面」を知る。 ④用語「三角柱」「四角柱」などを知る。 ⑤既習の図形の見方と関連づけながら, 角柱の性質をまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・円柱について, 底面の位置関係や底面, 側面の形を調べることを通して, その意味や性質を理解する。 下 p.118	1	①角柱の側面, 頂点, 辺の数を調べる。 ①円柱の底面や側面の形状を調べる。 ②「円柱」を知る。 ③角柱の性質と関連づけながら, 円柱の性質をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・角柱や円柱についての理解を深める。 下 p.119	1	①身の回りの角柱, 円柱の形をしたものを探す。 ②角柱, 円柱の見取り図をかく。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 角柱と円柱の展開図 下 p.120～121 2 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素に着目して、角柱の展開図のかき方や読み取り方を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.120</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①三角柱の見取り図を基に、展開図について考える。 ②三角柱の展開図をかき、実際に組み立てて確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素に着目して、円柱の展開図のかき方や読み取り方を考え、説明することができる。 <p style="text-align: right;">下 p.121</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①円柱の見取り図を基に、展開図について考える。 ②側面の長方形の横の長さは、底面の円の円周と等しくなることをおさえる。 ③円柱の展開図をかき、実際に組み立てて確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.122～123, 147 1 時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p style="text-align: right;">下 p.122～123</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.147 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、学習内容を基に円柱についての理解を深める。 			

単元名	考える力をのぼそう 「もとにする大きさに注目して」			教科書のページ	下 p.124～125
配当時数	2 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容	C(3)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係について、基準量に着目し、図を用いて考えることを通して、問題を解決する能力を高める。 <p style="text-align: right;">下 p.124～125</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①15%増量したシャンプーについて、増量後の量が 460mL のとき、増量前のシャンプーの量の求め方を考える。 ②基準量を□mL として、量の間係を図に表して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①20%軽量化されたノートについて、軽量化後の重さが 96g のとき、軽量化前のノートの重さの求め方を考える。 ②量の間係を図に表して、求め方を考える。 	

単元名	算数で読みとこう 「国土をくわしく調べよう」			教科書の ページ	下 p.126～127
配当時数	2 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要 領の内容	D(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習事項を活用してグラフ や表を考察し，問題解決能 力や情報処理能力を伸ば す。 下 p.126～127	1	①日本の森林についての表を見て，目的 に応じた必要な情報を用いて問題を解 決する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①日本全体や都道府県ごとの国土の利用 の様子を表したデータを見て，情報を 読み取り問題を解決したり，話し合っ たりする。	

単元名	5 年のふくしゅう			教科書の ページ	下 p.128～132
配当時数	5 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要 領の内容	A～D

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認す る。 下 p.128～132	5	①問題を解決する。	[知技]発言・行動観察

単元名	プログラミングを体験しよう！ 「正多角形をかく手順を考えよう」			教科書の ページ	下 p.134
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・正多角形をかくためのプロ グラミングについて，正多 角形の性質を基に論理的に 考え，説明することができる。 下 p.134	—	①コンピューターを使って正多角形をか く手順を考え，説明する。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「しきつめもよう」		教科書のページ	下 p.135
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 基本図形の敷き詰めを通して、図形に親しみ、その美しさを感得する。 <p style="text-align: right;">下 p.135</p>	—	①平行四辺形の一部を変形して行って、おもしろい敷き詰め模様を作る。 *デジタルコンテンツ設定有	[態度]発言・行動観察

江戸川区立葛西小学校

単元名	学びのとびら			教科書のページ	p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容	第 5 学年の内容

目標	時数	学習活動
<p>・「もくじ」「授業のページ」「算数マイノートをつくろう」「新しい算数を使った学習の進め方」のページを使って、教科書の使い方や算数科の学び方、問題解決の方法を共有し、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。</p> <p>p.2～7</p>	1	<p>①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることに触れ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み上げられていること、以後の学習へつながることに気づかせる。 また、p.1 下欄を見て、前学年までに働かせ、成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点に触れる。 <p>②「授業のページ」(30分) p.2～3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 <p>③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業のページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートのつくり方を学級で共有する。 <p>④「新しい算数を使った学習の進め方」(3分) p.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「ふりかえりコーナー」(知識のふりかえり)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し、適宜活用するとよいことを知らせる。 <p>※「指導者・保護者のみなさまへ」について</p> <p>これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣(特に家庭での自学自習)を身に付けるためには保護者の理解・協力が必須であると考え掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

単元名	1. つり合いのとれた図形を調べよう [対称な図形]			教科書の ページ	p.8～23
配当時数	12 時間	活動時期	4 月中旬～ 5 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)ア(イ), イ(ア)

単元の目標		対称な図形の観察や構成を通してその意味や性質を理解し、図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりする力などを養うとともに、図形を対称という観点で考察した過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	線対称、点対称な図形の意味や性質について理解し、線対称、点対称な図形をかくことができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、対称という観点で既習の図形を見直しその性質を捉えて説明し、図形に対する見方を深めている。
	主体的に学習に取り組む態度	対称な図形について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 線対称 p.8～13 4 時間			
[プロローグ] p.8	1	①p.8 の写真を提示し、対称な形を観察して、それらの形について気づいたことや感じたことの話し合いを通して、つり合いのとれた図形(対称な図形)を調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・線対称な図形と対称の軸の意味について理解する。 p.9～10		①つり合いのとれた図形の見えている部分から全体の形を予想する。 ②形の特徴に着目して分けたAの仲間の図形について、二つ折りにすると、両側の部分はどうなるかを考える。 ③「線対称」「対称の軸」の意味を知る。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・対応する辺、角、点の意味を知り、線対称な図形の性質について理解する。 p.10～11	1	①線対称な図形の性質を調べる際に、着目する観点を考える。 ②対応する辺、角、点の意味を知る。 ③対応する辺の長さや角の大きさを比べる。 ④線対称な図形の性質をまとめる。	[知技]発言・行動観察
・線対称な図形の性質について理解を深める。 p.11～12	1	①線対称な図形について、対応する点を結ぶ直線と対称の軸との交わり方を調べる。 ②対応する点を結ぶ直線と対称の軸に関する性質をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・線対称な図形のかき方を、線対称な図形の性質を基に考え、説明することができる。 p.13	1	①線対称な図形の性質を用いた、線対称な図形のかき方を考える。 ②線対称な図形の性質を用いて、線対称な図形をかく。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 点対称 p.14～18 4時間			
・点対称な図形と対称の中心の意味について理解する。 p.14	1	①②の仲間の図形について、点Oを中心にして何度回転させるともとの形にぴったり重なるかを考える。 ②「点対称」「対称の中心」の意味を知る。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察
・対応する辺、角、点の意味を知り、点対称な図形の性質について理解する。 p.15～16	1	①点対称な図形の性質を調べる際に、着目する観点を、線対称な図形の性質を調べた際に、考える。 ②対応する辺、角、点の意味を知る。 ③対応する辺の長さや角の大きさを比べる。 ④点対称な図形の性質をまとめる。	[知技]発言・行動観察
・点対称な図形の性質について理解を深める。 p.16～17	1	①点対称な図形について、対応する点を結ぶ直線と対称の中心との関係を調べる。 ②対応する点を結ぶ直線と対称の中心に関する性質をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・点対称な図形のかき方を、点対称な図形の性質を基に考え、説明することができる。 p.18	1	①点対称な図形の性質を用いた、点対称な図形のかき方を考える。 ②点対称な図形の性質を用いて、点対称な図形をかく。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 多角形と対称 p.19～20 2時間			
・おもな基本的な平面図形の対称性を調べることを通して、既習の図形に対する見方を深める。 p.19～20	1	①正方形、長方形、ひし形、平行四辺形などの四角形の対称性について調べ、表にまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①三角形や正多角形などの図形の対称性について調べ、表にまとめる。	
まとめ p.21～23 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 p.21	1	[いかしてみよう] ①折り紙を折り、いろいろな模様をかくて切り抜き、できる形の不思議さ、おもしろさにふれる。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.22～23	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	2. 数量やその関係を式に表そう [文字と式]		教科書のページ	p.24～32, 258
配当時数	5 時間	活動時期	5 月中旬	学習指導要領の内容 A(2)ア(ア), イ(イ)

単元の目標		具体的な場面について、数量の関係を文字を用いて式で一般的に表すことを理解し、文字に数を当てはめて調べることができ、数学的表現である式を活用する力を養うとともに、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	数量の関係を言葉や□、○などの代わりに、文字を用いて式に表すことを理解し、数量の関係を文字を用いて式に表したり、式から具体的な場面に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすることができる。
	思考・判断・表現	文字にいろいろな数を当てはめられることを基に、数量の関係を文字を用いた式で表すことの簡潔さや一般性について考えている。
	主体的に学習に取り組む態度	数量の関係を表す式について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 文字と式 p.24～31 4 時間			
[プロローグ] p.24	1	①p.24 の図を提示し、いろいろな場面を□を使って式に表しながら、どんなときに式を用いてきたかについての話し合いを通して、既習の式の使い方を振り返るとともに、式についてさらに学習するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・数量の大きさを、文字 x を用いた式で一般的に表すことを理解する。 p.25～27		①幅 5cm のテープの長さ□cm のときの長方形の面積を式に表す。 ②□の代わりに、文字 x を使って式に表すことを知る。 ③ x に数値を代入して、式の値を求める。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・数量の関係を、文字 x, y を用いた式で一般的に表すことを理解する。 p.27～28	1	①円の直径の長さを□cm、円周の長さを○cm として、この関係を式に表す。 ②□や○の代わりに、文字 x, y を使って式に表すことを知る。 ③ x に数値を代入して、 y の値を求める。 ④ y に数値を代入して、 x の値を求める。 ⑤ x, y を使って、具体的な場面を式に表す。	[知技]発言・行動観察
・ x, y を用いて表された式から、具体的な場面をつくり、言葉や図で表すことができる。 p.29	1	① $20+x=y, 20-x=y, 20 \times x=y, 20 \div x=y$ の式を見て、具体的な場面をつくり、言葉や図で表す。 ②上記の式の 20 を他の数に変えて、いろいろな場面をつくる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 未知数があっても文字 x を用いると, 数量の関係を式に表せることを理解する。 <p>p.30~31</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①底辺の長さがわからないことを確認し, 未知数を x として, 平行四辺形の面積を求める式に表す。 ②x に当てはまる数の求め方を考える。 ③「ますりん通信」を読み, 計算法則などにも用いることができることを知り, 文字に親しむ。 	[知技]発言・行動観察
まとめ p.32, 258 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p>p.32</p>	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.258 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を数学の世界で活用し, 文字と式についての理解を深める。 			

単元名	おぼえているかな?			教科書のページ	p.33
配当時数	—	活動時期	5月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 <p>p.33</p>	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	3. 分数のかけ算を考えよう [分数のかけ算]			教科書のページ	p.34～52, 259
配当時数	13 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月中旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) (2)ア(ア), イ(ア) 内容の取扱い(1)(2)

単元の目標		分数×整数，分数÷整数も含めて，分数の乗法の意味について理解し，その計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに，計算の仕方を乗法の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り，多面的に粘り強く考えたり，今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	分数の乗法の意味や，分数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解するとともに，分数の乗法の計算ができる。
	思考・判断・表現	乗数が分数の場合の乗法計算の仕方について，乗法の性質や比例の考えを基に考え，数直線や式などを用いて表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	乗数が分数の場合の乗法の意味を捉え直したことや，その計算方法について乗法の性質や図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り，多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり，数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 分数のかけ算とわり算 p.34～39 4 時間			
[プロローグ] p.34	1	①かけ算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して，未習の分数のかけ算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・分数×整数の計算の意味や計算の仕方を理解し，その計算ができる。 p.35～37	1	①1dL で $3/7m^2$ 塗れるペンキがあるとき，2dL で塗れる面積を求める式を考える。 ② $3/7 \times 2$ の計算の仕方を考える。 ③分数×整数の計算の仕方をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・分数÷整数の計算の意味や計算の仕方を考え，その計算ができる。 p.38	1	① $5/18 \times 3$ の計算の仕方を考える。 ②途中で約分できる場合の計算の仕方をまとめる。	
・分数÷整数の計算の意味や計算の仕方を考え，その計算ができる。 p.39	1	①2dL で $4/5m^2$ 塗れるペンキがあるとき，1dL で塗れる面積を求める式を考える。 ② $4/5 \div 2$ の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・分数÷整数の計算の仕方を理解し，その計算ができる。 p.39	1	① $4/5 \div 3$ の計算の仕方を考える。 ②分数÷整数の計算の仕方をまとめる。	[知技]発言・行動観察
(2) 練習 p.40 1 時間			
・学習内容を適用して問題を解決する。 p.40	1	①「練習」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) 分数のかけ算 p.41～50 7時間			
<ul style="list-style-type: none"> 分数をかけることの意味を図や式を用いて考え、説明することができる。 <p>p.41～42</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①1dLで$4/5\text{m}^2$ぬれるペンキがあるとき、$2/3\text{dL}$でぬれる面積を求める式を考える。 ②その式になる理由を考え、説明する。 ③乗数が小数の場合の乗法を想起しながら、乗法の意味を捉え直す。 	<ul style="list-style-type: none"> [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 真分数×真分数の計算の仕方を、図や式を用いて考え、説明することができる。 <p>p.43～44</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①$4/5 \times 2/3$の計算の仕方を考える。 ②真分数×真分数の計算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 計算の途中で約分できるときは、途中で約分すると簡単に計算できることを理解する。 分数の連乗の計算の仕方を理解し、その計算ができる。 <p>p.44～45</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①$8/9 \times 3/10$の計算の工夫の仕方を考える。 ②$3/4 \times 5/9 \times 2/5$の計算の仕方を考える。 ③計算練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 整数×分数の計算や、帯分数の乗法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 真分数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解する。 <p>p.46～47</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①$3 \times 2/7$、1と$2/3 \times 3/10$の計算の仕方を考える。 ②$120 \times 1$と$1/3$と、120と$2/3$の計算をして、積と被乗数の大きさを比べる。 ③真分数をかけると、積が被乗数より小さくなることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さが分数の場合も、面積や体積を求める公式を適用できることを理解する。 <p>p.47～48</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①縦が$3/5\text{m}$、横が$7/8\text{m}$の長方形の面積、縦が$3/5\text{m}$、横が$7/8\text{m}$、高さが$3/4\text{m}$の直方体の体積の求め方を考える。 ②辺の長さが分数の場合も、面積や体積を求める公式が適用できることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数について成り立つ交換、結合、分配法則は、分数の場合でも成り立つことを理解する。 <p>p.49</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①分数の場合も、交換、結合、分配法則が成り立つかどうかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 逆数の意味とその求め方を理解する。 <p>p.50</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「逆数」の意味を知る。 ②真分数や仮分数の逆数は、分子と分母を入れ替えた分数になることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察
まとめ p.51～52, 259 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p>p.51～52</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】巻末 p.259の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、分数の乗法についての理解を深める。 			

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	p.53	
配当時数	—	活動時期	6月中旬	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 p.53	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	4. 分数のわり算を考えよう [分数のわり算]			教科書のページ	p.54～69, 260
配当時数	7時間	活動時期	6月中旬～下旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(2)ア(ア), イ(ア)内容の取扱い(1)(2)

単元の目標		分数の除法の意味について理解し、その計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を除法の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	分数の除法の意味や、分数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解するとともに、分数の除法の計算ができる。
	思考・判断・表現	除数が分数の場合の除法計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	除数が分数の場合の除法の意味を捉え直したことや、その計算方法について除法の性質や図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 分数のわり算 p.54～67 6時間			
[プロローグ] p.54	1	①わり算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して、未習の分数のわり算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・分数でわることを図や式を用いて考え、説明することができる。 p.55～56		①3/4dLのペンキで2/5m ² ぬるとき、1dLでぬれる面積を求める式を考える。 ②その式になる理由を考え、説明する。 ③除数が小数の場合の除法などを想起しながら、除法の意味を捉え直す。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・真分数÷真分数の計算の仕方を図や式を用いて考え、説明することができる。 p.57～59	1	①2/5÷3/4の計算の仕方を考える。 ②真分数÷真分数の計算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・計算の途中で約分できるときは、途中で約分すると簡単に計算できることを理解する。 ・3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、その計算ができる。 p.59～60	1	①9/14÷3/4の計算の工夫の仕方を考える。 ②3/4÷6/5×1/5の計算の仕方を考える。 ③計算練習をする。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・整数÷分数の計算や、帯分数の除法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・真分数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。 p.60～61	1	①4÷9/2, 2/3÷3と1/5の計算の仕方を考える。 ②12÷1と1/3と、12÷2/3の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ③真分数でわると、商が被除数より大きくなることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いた除法の演算決定について理解を深める。 <p>p.62</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①7/4m の重さが 2/5kg のホースについて、ホース 1m の重さ、及びホース 1kg の長さを求める式を、数直線を活用しながら考える。 	[思判表] 発言・記録
<p>[今日の深い学び]</p> <ul style="list-style-type: none"> 分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明することができる。 <p>p.63～67</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①0.3÷3/2×3 の計算の仕方を考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③間違った計算を正し、計算の順序を振り返る。 ④0.2÷2/3×3 の計算の仕方を考える。 ⑤分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方をまとめる。 ⑥計算練習をする。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
まとめ p.68～69, 260 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p>p.68～69</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 【発展】 巻末 p.260 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、分数の除法についての理解を深める。 			

単元名	分数の倍			教科書のページ	p.70～73
配当時間	3時間	活動時期	6月下旬	学習指導要領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(2)ア(ア), イ(ア) 内容の取扱い(1)(2)

単元の目標		既習の倍の意味をもとに基準量や比較量が分数の場合の倍の意味について理解し、倍の意味を図や式を用いて考える力を養うとともに、整数や小数、分数の倍の意味を統合的に捉えたりこれまでの倍の学習を今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	基準量や比較量が分数の場合の倍の意味について理解し、説明している。
	思考・判断・表現	2量の関係に着目し、基準量や比較量が分数の場合の倍の意味について図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	基準量や比較量が分数の場合の倍の意味について、整数倍や小数倍の意味と統合的に捉えたり、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしたりとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 分数の倍 p.70～73 3時間			
<ul style="list-style-type: none"> 比較量, 基準量が分数の場合も, 倍を表す数は除法で求められることを, 図や式を用いて考え, 説明することができる。 <p>p.70～71</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①5/4m, 3/8m は 1/2m の何倍かの求め方を考える。 ②比較量, 基準量が分数のときの何倍かの求め方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 倍を表す数が分数の場合も, 基準量×倍=比較量で比較量が求められることを, 図や式を用いて説明することができる。 <p>p.72</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①600円の6/5倍, 3/5倍の代金の求め方を考える。 ②基準量の分数倍にあたる大きさの求め方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 倍を表す数が分数の場合も, 基準量は比較量÷分数倍で求められることを, 図や式を用いて説明することができる。 <p>p.73</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①900円がもとの値段の5/3倍にあたるときの, もとの値段の求め方を考える。 ②xを用いて立式し, xにあてはまる数を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> [知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録

単元名	どんな計算に なるのかな？			教科書の ページ	p.74
配当時数	2 時間	活動時期	6 月下旬	学習指導要 領の内容	A(1)(2) 内容の取扱い(2)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 分数の乗法や除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 <p>p.74</p>	2	①問題文を読み、それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	p.75
配当時数	—	活動時期	6 月下旬	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解を確認する。 <p>p.75</p>	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	5. 割合の表し方を調べよう [比]			教科書のページ	p.76～88, 261
配当時間	8 時間	活動時期	7 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(2)ア(ア), イ(イ) C(2)ア(ア), イ(イ)

単元の目標		2 つの数量の割合を表す方法として、比について理解し、既習の割合と関連付け、数量の関係の比べ方を考える力を養うとともに、日常の事象を目的に応じて比で捉えることや数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	比の意味や表し方、比の相等の意味を理解し、2 つの数量の関係を調べて比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。
	思考・判断・表現	日常の事象における数量の関係に着目し、比を用いた関係の比べ方を既習の割合と関連づけて統一的にとらえ、割合の適用場面で考え方を工夫している。
	主体的に学習に取り組む態度	日常の事象を目的に応じて比で捉えたことや数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 比と比の値 p.76～80 2 時間			
[プロローグ] p.76	1	①p.76 の写真を提示し、同じ味のハンバーグソースをたくさん作ることを想定した話し合いを通して、既習の割合について振り返るとともに、割合の表し方を調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・比の意味と表し方について理解する。 p.77～78		①「比」の意味と表し方を知る。 ②2 つの量の割合を比で表す。 ③3 人が使ったウスターソースとケチャップの量の割合を調べる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・比の値や等しい比の意味について理解する。 p.79～80	1	①「比の値」の意味と求め方をまとめる。 ②2 : 3, 4 : 6, 6 : 9 の比の値を比べる。 ③等しい比の意味と表し方をまとめる。 ④「ますりん通信」を読み、比と割合の関連を考え、比の理解を深める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 等しい比の性質 p.81～83 3 時間			
・等しい比どうしの関係を調べることを通して、等しい比のつくり方と比の性質について理解する。 p.81	1	①等しい比のつくり方を考える。 ②比の前項と後項に同じ数をかけても同じ数でわっても比は等しいという比の性質をまとめる。	[知技]発言・行動観察
・比の性質や比の値を用いて、比を簡単にすることができる。 p.82	1	①49 : 63 の比を簡単にする方法を考える。 ②等しい比どうしの関係を使ったり、比の値を求めたりして、比を簡単にする。 ③比を簡単にすることの意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・小数や分数で表された比を簡単にすることができる。 p.83	1	①0.9 : 1.5, 2/3 : 4/5 の比を簡単にする方法を考える。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) 比の利用 p.84～86 2時間			
・比と前項(後項)の値から後項(前項)の値を求める方法を考え、説明することができる。 p.84	1	①砂糖と小麦粉の重さの比が5:7で、小麦粉を140g使うときの砂糖の重さを、比の性質を使って求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・全体の量を比例配分する方法を考え、説明することができる。 p.85～86	1	①1200mLのミルクティーを、牛乳と紅茶を3:5の割合で混ぜて作るときの牛乳の量を、比の性質を使って求める。 ②「ますりん通信」を読み、連比について知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
まとめ p.87～88, 261 1時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.87～88	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.261 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、比についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな?		教科書のページ	p.89
配当時数	—	活動時期	7月中旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 p.89	—	①「おぼえているかな?」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	算数で読みとこう 「陸上競技の記録について考えよう」		教科書のページ	p.90～91
配当時数	2時間	活動時期	7月中旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習事項を活用して、データを考察し、問題解決能力や情報処理能力を高める。 p.90～91	1	①陸上競技の記録に関するデータを見て、目的に応じた必要な情報を用いて問題を解決する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①陸上競技の記録に関するデータを見て、既習事項を活用して問題を解決する。	

単元名	6. 形が同じで大きさがちがう図形を調べよう [拡大図と縮図]		教科書のページ	p.92～103, 262
配当時間	8 時間	活動時期	9 月上旬～中旬	学習指導要領の内容
				B(1)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		拡大図や縮図の観察やかくことを通して拡大図, 縮図の意味や性質について理解し, 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりする力を養うとともに, 拡大図や縮図という観点で考察した過程を振り返り, 多面的に粘り強く考えたり, 今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	拡大図, 縮図の意味や性質を理解し, 対応する辺の長さや角の大きさを求めたり, 拡大図, 縮図をかいたりすることができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 合同の意味や比の考えを基に, 拡大図, 縮図の意味や性質, 作図の仕方について考え説明し, 図形に対する見方を深めている。
	主体的に学習に取り組む態度	既習の図形を捉え直したことや数学的に表現・処理したことを振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 拡大図と縮図 p.92～98 5 時間			
[プロローグ] p.92	1	①p.92 の写真を提示し, 3 つの映像の共通点や相違点についての話し合いを通して, 形が同じで大きさがちがう図形を調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 拡大図, 縮図の意味や性質について理解する。 p.93～95	1	①方眼を用いてつくったいろいろな図形の中から, 形が同じとみることができるのはどれかを考える。 ②もとの図形と形が同じ図形について, 対応する辺の長さの比や角の大きさを調べる。 ③「拡大図」「縮図」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①拡大図, 縮図の弁別をする。 ②方眼を手がかりに, 拡大図, 縮図をかく。 ③拡大図, 縮図の性質を確かめ, 対応する辺の長さや角の大きさを求める。	
・ 辺の長さや角の大きさを用いた, 拡大図, 縮図のかき方を考え, 説明することができる。 p.96	1	①1 辺を基にした拡大図のかき方を考える。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録
・ 1 つの点を中心とした拡大図, 縮図のかき方を考え, 説明することができる。 p.97	1	①1 つの点を中心とした拡大図のかき方を考える。 ②四角形に適用して拡大図や縮図をかく。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<p>・おもな基本的な平面図形が拡大図, 縮図の関係になっているかを調べることを通して, 既習の図形に対する見方を深める。</p> <p>p.98</p>	1	①二等辺三角形, 正三角形, 長方形, 正方形, 平行四辺形, ひし形, 正五角形, 正六角形が, 拡大図, 縮図の関係になっているかを調べる。	[思判表] 発言・記録
(2) 縮図の利用 p.99~101 2時間			
<p>・縮尺の意味について理解し, 縮図から実際の長さを求めることができる。</p> <p>p.99</p>	1	①縮図の縮めた割合を求める。 ②「縮尺」の意味を知る。 ③縮尺の表し方をまとめる。	[知技] 発言・行動観察
<p>・縮図をかいて, 実際の長さを求めることができる。</p> <p>p.100~101</p>	1	①直接には長さをはかれない校舎の高さを求める方法を考える。 ②縮図をかいて実際の校舎の高さを求める。	[知技] 発言・行動観察 [態度] 発言・行動観察
まとめ p.102~103, 262 1時間			
<p>・学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p>p.102~103</p>	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
<p>・【発展】 巻末 p.262 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み, 単元の学習内容を数学の世界で活用し, 拡大図と縮図についての理解を深める。</p>			

単元名	7. 円の面積の求め方を考えよう [円の面積]		教科書の ページ	p.104～118, 263
配当時間	6 時間	活動時期	9 月中旬～下旬	学習指導要 領の内容 B(3)ア(ア), イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		円の面積の計算による求め方について理解し、図形を構成する要素などに着目し、図形の面積について考える力を養うとともに、円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	円の面積について、求め方や計算で求められることを理解し、円の面積を求める公式を用いて円などの面積を求めることができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素などに着目し、円などの面積の求め方を図や式を用いて考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 円の面積 p.104～115 4 時間			
[プロローグ] p.104	1	①円に関わる話し合いを通して、円について学習したことを振り返り、面積の求め方が未習であることを確認し、その面積の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・円のおよその面積を求めることができる。 p.105～107		①半径 10cm の円の面積の求め方を考える。 ②半径 10cm の円の面積の見当をつける。	[態度]発言・行動観察
	1	①既習の面積の求め方(方眼、三角形分割)を活用して、およその面積を求める。 ②円の面積について、円周率との関係を予想する。	
・円の面積を求める公式を理解する。 ・円の面積を求める公式を、半径×半径に着目して読み取り、円周率についての理解を深める。 p.108～110	1	①前時の学習を振り返り、より簡単で正確に円の面積を求める方法を考える。 ②円をおうぎ形で細かく等分割していくと、より正確な面積の値に近づくことを知る。 ③分割でできたおうぎ形を並べ替えると、平行四辺形から長方形に近づいていくことを確かめる。 ④円の面積を求める公式をまとめる。 ⑤「ますりん通信」を読み、円を三角形に変形して考え、円の面積の公式の理解を深める。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
[今日の深い学び] ・多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。 p.111～115	1	①複合図形の面積の求め方を考える。 ②各自の考えた求め方について発表し、検討する。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
まとめ p.116～118, 263 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 p.116	1	[いかしてみよう] ①ピザ作りに関わる問題を、円の面積などを活用して解決する。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.117～118	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.263 の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、円の面積についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな?		教科書のページ	p.119
配当時数	—	活動時期	9月下旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 p.119	—	①「おぼえているかな?」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	8. 角柱と円柱の体積の求め方を考えよう [角柱と円柱の体積]		教科書の ページ	p.120～127, 263
配当時間	5 時間	活動時期	10 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容
				B(4)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		角柱や円柱の体積の計算による求め方について理解し、図形を構成する要素に着目し、図形の体積について考える力を養うとともに、角柱や円柱の体積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	角柱や円柱の体積は底面積×高さにまとめられることを理解し、角柱や円柱の体積を公式を用いて求めることができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素に着目し、角柱や円柱の体積の求め方について、直方体の体積の求め方から類推し、図や式を用いて考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	角柱や円柱の体積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 角柱と円柱の体積 p.120～125 4 時間			
[プロローグ] p.120	1	①角柱や円柱に関わる話し合いを通して、角柱や円柱について学習したことを振り返り、体積の求め方が未習であることを確認し、その体積の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・四角柱の体積の求め方を理解する。 p.121～122		①四角柱の体積の求め方を考える。 ②高さ 1cm の四角柱の体積を表す数と、底面の面積を表す数を比べる。 ③四角柱の体積の求め方をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・角柱の体積の求め方を理解する。 p.122～123	1	①三角柱の体積の求め方を考える。 ②角柱の体積を求める公式をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・円柱の体積の求め方を理解し、角柱、円柱の体積を求める式を統合する。 p.123～124	1	①円柱の体積の求め方を考える。 ②角柱、円柱の体積を求める公式をまとめる。	[知技]発言・行動観察
・直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、角柱とみて考え、図や式を用いて説明することができる。 p.125	1	①直方体を組み合わせた図形の体積を求めるのに、底面積×高さの式が使えないか考える。 ②直方体を組み合わせた図形の体積も、角柱とみて、底面積×高さの式で求めることができることをまとめる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
まとめ p.126～127, 263 1 時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.126～127	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.263 の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、角柱や円柱の体積についての理解を深める。			

単元名	9. およその面積と体積を求めよう [およその面積と体積]			教科書の ページ	p.128～132
配当時間	5 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	B(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		身の回りにあるものの形について、その概形を捉えることでおよその面積や体積を求められることを理解し、図形を構成する要素や性質に着目し、面積や体積の求め方を筋道立てて考える力を養うとともに、既習の面積や体積の学習に基づき概則などを用いて目的に応じて能率よく測定した過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	身の回りにあるものの形について、その概形を捉えることで、およその面積や体積を求められることを理解し、面積や体積を求めることができる。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素や性質に着目し、身の回りにあるものの形について、概形を捉えて、およその面積や体積の求め方を筋道立てて考えている。
	主体的に学習に 取り組む態度	既習の面積や体積の学習に基づき概則などを用いて目的に応じて能率よく測定した過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) およその面積や体積 p.128～130 3 時間			
・身の回りにあるものの形について、その概形を捉えることで面積を求められることを理解する。 p.128～129	1	①東京ドームの形を基本図形の概形ととらえ、およその面積の求め方を考える。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①身の回りにあるいろいろなもののおよその面積を求める。	
・身の回りにあるものの形について、その概形を捉えることで容積や体積を求められることを理解する。 p.130	1	①ランドセルの形を基本図形の概形と捉え、およその容積の求め方を考える。 ②身の回りにあるいろいろなもののおよその容積や体積を求める。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
まとめ p.131～132 2 時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 p.131	1	[いかしてみよう] ①地図を使って、いろいろな都道府県や市区町村などのおよその面積を求める。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.132	1	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	p.133
配当時数	—	活動時期	10月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 p.133	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	考える力をのばそう「全体を決めて」			教科書のページ	p.134～135
配当時数	2時間	活動時期	10月中旬	学習指導要領の内容	A(2) C(2)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・図や表に表すよさを認め、既習の考えを活用して、問題を解決する能力を高める。 p.134～135	1	①舗装する道路の長さを仮に30mとみたり、1とみたりして、2つの機械を同時に使ったときの、舗装するのにかかる日数を求める。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①もう1つの機械を合わせた3つの機械を同時に使ったときの場合の求め方を考える。 ②舗装する道路の長さをあらためて仮に60mとみたり、1とみたりする考えを比べて、気づいたことを話し合う。	

単元名	10. 比例の関係をくわしく調べよう [比例と反比例]		教科書の ページ	p.136～162, 264
配当時数	15 時間	活動時期	10 月下旬～ 11 月下旬	学習指導要 領の内容 A(2)ア(ア), イ(ア) C(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる 2 つの数量やそれらの関係に着目し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見いだして 2 つの数量の関係を考察する力を養うとともに、比例や反比例の関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の関係にある 2 つの数量の関係を表や式、グラフに表したり、比例の関係をj用いて問題解決したりすることができる。
	思考・判断・表現	伴って変わる 2 つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して変化や対応の特徴を見いだして問題解決に活用している。
	主体的に学習に 取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 比例の性質 p.136～140 2 時間			
[プロローグ] p.136～137	1	①p.122～123 の図を提示し、 y が x に比例しているのはどれか、表にあてはまる数を入れて調べる。また、一方が増えれば、もう一方も増えるという関係が必ずしも比例ではないことを確認する。 ②◎の場面を基にした比例に関わる話し合いを通して、比例の関係を詳しく調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10～15 分程度)	
・ 比例の性質について理解する。 p.138～139		①比例する 2 つの量の関係には、どんな性質があるか調べる。 ② y が x に比例するとき、 x の値が 0.5 倍、2.5 倍などになると、それに伴って y の値も 0.5 倍、2.5 倍などになること、 x の値が $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍、…になると、それに伴って y の値も $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍、…になることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 比例の性質について理解を深め、まとめる。 p.139～140	1	①前時に続き、比例する 2 つの量の関係には、どんな性質があるか調べる。 ② y が x に比例するとき、 x の値が□倍になると、それに対応する y の値も□倍になることをまとめる。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 比例の式 p.141～142 2時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・ y が x に比例するとき、$y =$ 決まった数 $\times x$ と表せることを理解し、比例の関係を式に表すことができる。 <p>p.141～142</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①比例の関係を、式に表す方法を考える。 ②y を x でわった商はどうなるかを調べる。 ③y が x に比例するとき、y を x でわった商は一定で、その関係を一般的な形の式に表せることをまとめる。 	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①水槽の場面で水を入れる時間を5分に決めたとき、1分当たりに入る水の深さと水槽の水の深さの関係を調べる。	
(3) 比例のグラフ p.143～146 3時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の関係をグラフに表して考察することができ、比例のグラフの特徴を理解する。 <p>p.143～145</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①水槽の水の深さが水を入れる時間に比例する関係をグラフに表して、その特徴を調べる。 ②式から求めた2量の組み合わせをグラフに表す。 ③比例のグラフは原点を通る直線となることをまとめる。 ④比例のグラフから、x や y の値を読み取る。 	[知技]発言・行動観察
	1	①道のりは時間に比例する問題で、グラフに表して、道のりを求めたり、時間を求めたりする。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフを考察することを通して、比例のグラフについて理解を深める。 <p>p.146</p>	1	①2本の比例のグラフから、①～④のことを読み取る。	[知技]発言・行動観察
(4) 比例の利用 p.147～152 2時間			
[今日の深い学び] <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。 <p>p.147～151</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①画用紙300枚を、全部数えないで用意する方法を考える。 ②画用紙について、伴って変わる2つの数量を見いだす。 ③画用紙の重さは枚数に比例することを使って、問題を解決する。 ④各自の考えた求め方について発表し、検討する。 ⑤画用紙の厚さは枚数に比例することを使って、問題を解決する。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	p.152	1	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(5) 練習 p.153 1時間			
・学習内容を適用して問題を解決する。 p.153	1	①「練習」に取り組む。	[知技]発言・行動観察
(6) 反比例 p.154～160 4時間			
・反比例の意味について理解する。 p.154～156	1	①伴って変わるいろいろな2つの数量の変わり方を調べる。 ②水槽の場面で水の深さを60cmに決めたとき、1分当たりに入る水の深さと水を入れる時間の関係を調べる。 ③1分当たりに入る水の深さが2倍、3倍、…になると、水を入れる時間はどうか調べる。 ④「反比例」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・反比例の性質について理解する。 p.157	1	①反比例する2つの量の関係には、どんな性質があるか調べる。 ②yがxに反比例するとき、xの値が1/2倍、1/3倍、…になると、それに伴ってyの値は2倍、3倍、…になることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・yがxに反比例するとき、 $y = \text{決まった数} \div x$ と表せることを理解し、反比例の関係を式に表すことができる。 p.158～159	1	①反比例の関係を、式に表す方法を考える。 ②yがxに反比例するとき、xとyの積は一定で、その関係を一般的な形の式に表せることをまとめる。 ③適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・反比例の関係をグラフに表して考察することができ、反比例のグラフの特徴を理解する。 p.160	1	①反比例する関係をグラフに表して、その特徴を調べる。	[知技]発言・行動観察
まとめ p.161～162, 264 1時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.161～162	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末p.264の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習内容を数学の世界で活用し、比例についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？		教科書の ページ	p.163	
配当時数	—	活動時期	11月下旬	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 p.163	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	11. 順序よく整理して調べよう [並べ方と組み合わせ方]			教科書の ページ	p.164～173
配当時数	6 時間	活動時期	11 月下旬～ 12 月上旬	学習指導要 領の内容	D(2)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		順列や組み合わせについて、落ちや重ならないように、起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの使い方を理解し、事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて落ちや重なりなく調べる方法を考察する力を養うとともに、筋道立てて考えを進めていこうとする態度や、数学的表現を用いて落ちや重ならないように調べた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	順列や組み合わせについて、落ちや重ならないように調べるには、ある観点に着目したり、図や表などにかき表したりするとよいことを理解している。
	思考・判断・表現	事象の特徴に着目し、順列や組み合わせについて、落ちや重ならないように図や表を適切に用いたり、名称を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道立てて考えている。
	主体的に学習に取り組む態度	順列や組み合わせについて、図や表などを用いて工夫をしながら、落ちや重なりがないように調べた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 並べ方 p.164～168 2 時間			
[プロローグ] p.164	1	①p.164 の絵を提示し、スポーツ大会に関わる話し合いを通して、リレーの4人の走る順序や、バスケットボールの4つのチームの対戦にはいろいろあることを確認し、順序よく整理して調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
・ 順列について、落ちや重ならないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。 p.165～167		①落ちや重なりがないように、4人の走る順序を考える。 ②走る人を記号化して考えるとよいことを知る。 ③表や樹形図を用いて調べる。 ④表や樹形図を用いた調べ方について話し合う。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・ 順列について、落ちや重ならないように調べる方法について理解を深める。 p.167～168	1	①4つの数字で2桁の整数が何通りできるか調べる。 ②メダルを3回投げたときの表と裏の出方が何通りあるか調べる。 ③「ますりん通信」を読み、いくつかの数字を使ってつくる、4桁のパスワードが何通りできるか考える。	[知技] 発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 組み合わせ方 p.169～171 2時間			
・組み合わせについて、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。 p.169～171	1	①4 チームの総当たりの場合の、試合数の調べ方を考える。 ②表や図を用いて考える。 ③多角形の辺や対角線を使って調べる考えを取り上げる。 ④それぞれの考えについて話し合う。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①5 種類のアイスクリームから 2 つを選ぶときの組み合わせを考える。 ②身の回りから順列や組み合わせの場面を見つけて調べる。	
まとめ p.172～173 2時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 p.172	1	[いかしてみよう] ①レストランでできるセットメニューの組み合わせについて調べる。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.173	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	考える力をのばそう「関係に注目して」		教科書のページ	p.174～175
配当時数	2時間	活動時期	12月上旬	学習指導要領の内容 A(2) C(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・変化する 2 つの数量を表に表すことを通して、数量関係や規則性を見つける能力を伸ばす。 p.174～175	1	①正三角形の板を並べていくと、21 段めには、正三角形の板が何枚並ぶか考える。 ②段の数を x 段、板の数を y 枚として、1 段め、2 段め、…と、6 段めまで順に板の数を求め、段の数と板の数の関係を調べる。 ③見つけたきまりを使って、21 段めに並ぶ板の数を工夫して求める。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①21 段めに並ぶ板の数を求める式、 $1+2 \times (21-1)$ の中に出てくる、1, 2, $(21-1)$ は、それぞれ何を表しているか考え、それを用いて 50 段めに並ぶ板の数を求める。 ②x と y の関係を式に表す。	

単元名	12. データの特ちょうを調べて判断しよう [データの調べ方]		教科書の ページ	p.176～195
配当時数	13 時間	活動時期	12 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容
				D(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)

単元の目標		代表値の意味や求め方、度数分布表や柱状グラフ、統計的な問題解決の方法について理解し、目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断したり、その妥当性について考察したりする力を養うとともに、統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	代表値の意味や求め方、度数分布表や柱状グラフ、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について理解している。
	思考・判断・表現	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察している。
	主体的に学習に 取り組む態度	統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 問題の解決の進め方 p.176～189 8 時間		★他教科との関連: 英語	
[プロローグ] p.176～177	1	①p.176～177 の場面を提示し、8 の字跳びの大会で 1 組が優勝できそうかどうかを予想するという問題を設定する。また、1 組の練習した日のデータだけで優勝できそうかどうかを予想できるかについての話し合いを通して、データの特徴を調べて判断するという単元の課題を設定する。	
・代表値としての平均値について理解する。 p.178～179	1	①3 クラスのデータを比べるには、どうすればよいか考える。 ②比べ方について話し合う。 ③「平均値」について知る。 ④平均値を求めて比べることがあることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・データをドットプロットに整理する方法を理解し、データの散らばりの様子を考察することができる。 ・代表値としての最頻値について理解する。 p.180～181	1	①「ドットプロット」について知る。 ②3 クラスのデータをドットプロットに表して、散らばりの様子を調べる。 ③「最頻値」について知る。 ④ドットプロットに表すよさ、最頻値を求めて比べることがあることをまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> データを度数分布表に整理する方法を理解し、読み取ることができる。 <p>p.182～183</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①跳んだ回数を5回ずつの範囲に区切った表に整理する。 ②「階級」「階級の幅」「度数」「度数分布表」について知る。 ③表を考察して、散らばりの様子を調べる。 ④散らばりの様子を調べると、データの特徴が分かりやすくなることをまとめる。 	[知技]発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> 柱状グラフの読み方、かき方について理解する。 代表値としての中央値について理解し、代表値としてまとめる。 <p>p.184～186</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「柱状グラフ（ヒストグラム）」について知る。 ②2, 3組のデータを柱状グラフに表す。 ③3クラスのデータを表した柱状グラフを読む。 ④柱状グラフは、散らばりの様子を見るのに便利であることをまとめる。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[知技]発言・行動観察
	1	<ul style="list-style-type: none"> ①「中央値（メジアン）」について知る。 ②1クラスの中央値を求める。 ③「代表値」について知る。 <p>*プログラミング体験ページ設定有 (p.242)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、代表値などを用いて判断することができる。 <p>p.187</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①前時までの学習を基に、3クラスのデータについて、統計的な観点で調べて整理した表をつくる。 ②いろいろな比べ方をし、その比べ方や判断について話し合う。 	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習に関連して新たな問題を設定し、解決するとともに、統計的な問題解決の方法を理解する。 <p>p.188～189</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①データのよいところを見つけて、理由を明確にして賞をつくる。 ②p.189を読み、これまでの学習と関連させながら、統計的な問題解決の方法について振り返り、まとめる。 	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) いろいろなグラフ p.190～192 1時間			
<ul style="list-style-type: none"> 既習のグラフを組み合わせたグラフの読み方を理解する。 <p>p.190～192</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ①いろいろなグラフを見て、既習のグラフとの違いを考える。 ②既習のグラフを組み合わせたグラフを読む。 <p>*デジタルコンテンツ設定有</p>	[知技]発言・行動観察
	—	<p>【発展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「ますりん通信」を読み、ダイヤグラムや階段グラフについて知る。 ②「ますりん通信」を読み、一部の小さい範囲の様子を基に、全体の様子について見当をつける方法があることを知る。 	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ p.193～195 4時間			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 <p>p.193</p>	3	[いかしてみよう] ①身の回りの事象について、興味・関心や問題意識に基づき統計的に解決可能な問題を自分たちで設定し、統計的な問題解決の方法を活用して、問題を解決する。	[思判表]発言・記録
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 <p>p.194～195</p>	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	算数で読みとこう「情報通信技術の進化や利用について調べよう」		教科書のページ	p.196～197
配当時数	2時間	活動時期	12月中旬	学習指導要領の内容 D(1)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用して、グラフを考察し、問題解決能力や情報処理能力を高める。 <p>p.196～197</p>	1	①現在のインターネットの利用の様子に関するグラフを見て、目的に応じた必要な情報を用いて問題を解決する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①自動運転自動車の開発者の立場に立って、問題を既習事項を活用して解決する。	

単元名	13. 算数の学習をしあげよう [算数のしあげ]			教科書のページ	p.198～227
配当時数	25 時間	活動時期	1 月中旬～ 2 月下旬	学習指導要領の内容	A～D

単元の目標		6 年間の算数の学習を振り返りながら，本単元の学習に取り組むことを通して，数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し，これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，数学のよさに気付き，算数と日常生活との関連についての理解を深め，算数を主体的に生活や学習に生かそうとしたり，問題解決の過程や結果を評価・改善しようとするなど，数学的に考える資質・能力を育成する。
単元の観点別評価規準	知識・技能	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに，日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き，学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり，算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 数と計算 p.198～206 8 時間			
・数の表し方と仕組みに関する学習内容の理解を深める。 p.198～199	2	①数の表し方と仕組みの復習をする。	[知技]発言・行動観察
・加減計算に関する学習内容の理解を深める。 p.200～201	2	①加減計算の復習をする。	[知技]発言・行動観察
・乗除計算に関する学習内容の理解を深める。 p.202～203	2	①乗除計算の復習をする。	[知技]発言・行動観察
・数の性質や処理に関する学習内容の理解を深める。 p.204～206	2	①数の性質や処理の復習をする。 ②ふりかえろう「数と計算」の目を活用しながら，数学的な見方・考え方の成長を自覚する。	[知技]発言・行動観察
(2) 図形 p.207～211 4 時間			
・図形の性質に関する学習内容の理解を深める。 p.207～208	2	①図形の性質の復習をする。	[知技]発言・行動観察
・面積，体積に関する学習内容の理解を深める。 p.209～211	2	①面積，体積の復習をする。 ②ふりかえろう「図形」の目を活用しながら，数学的な見方・考え方の成長を自覚する。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(3) 測定 p.212～213 2時間			
・量の比べ方と単位に関する学習内容の理解を深める。 p.212～213	2	①量の比べ方と単位の復習をする。 ②ふりかえろう「測定」の目を活用しながら、数学的な見方・考え方の成長を自覚する。	[知技]発言・行動観察
(4) 変化と関係 p.214～220 6時間			
・変わり方と比例,反比例に関する学習内容の理解を深める。 p.214～215	2	①変わり方と比例,反比例の復習をする。	[知技]発言・行動観察
・速さ,単位量当たりの大きさに関する学習内容の理解を深める。 p.216～217	2	①速さ,単位量当たりの大きさの復習をする。	[知技]発言・行動観察
・割合に関する学習内容の理解を深める。 p.218～220	2	①割合の復習をする。 ②ふりかえろう「変化と関係」の目を活用しながら、数学的な見方・考え方の成長を自覚する。	[知技]発言・行動観察
(5) データの活用 p.221～224 3時間			
・データの活用に関する学習内容の理解を深める。 p.221～224	3	①データの活用の復習をする。 ②ふりかえろう「データの活用」の目を活用しながら、数学的な見方・考え方の成長を自覚する。	[知技]発言・行動観察
(6) 考える方法や表現 p.225～227 2時間			
・筋道立てて考える方法の理解を深める。 p.225	1	①筋道立てて考える方法(帰納的な考え,演繹的な考え)の復習をする。	[知技]発言・行動観察
・考えるときの表現の理解を深める。 p.226～227	1	①考えるときの表現(表,式,図)の復習をする。	[知技]発言・行動観察

単元名	算数卒業旅行			教科書のページ	p.228～240
配当時数	13 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容	A～D

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
[プロローグ] p.228	13	①p.228 の絵を提示し、どのコースを選ぶか話し合い、取り組むコースを決める。 (時間的な余裕があれば全コース取り組ませたい。) (所要時間は 5～10 分程度) ※以下の 4 つを選択課題とし、グループ活動などで取り組み、体験したり、調べたりしたことを発表する。	
・中学校の数学の内容にふれることを通して、算数・数学に関する興味を広げる。 p.229～231		【発展】 ①0 より小さい数にふれる。 ②図形の性質を利用した作図にふれる。	[態度]発言・行動観察
・他の国の算数に興味をもち、算数・数学に関する興味を広げる。 p.232～234		①いくつかの国の筆算の仕方にふれる。 ②いろいろな国の数の読み方を知る。 ★他教科との関連: 英語	[態度]発言・行動観察
・和算にふれることを通して、算数・数学に関する興味を広げる。 p.235～237		①江戸時代に発達した算数の問題を解く。 ②江戸時代の算額に書かれた問題を解く。	[態度]発言・行動観察
・クイズやパズルを通して、考える楽しさや算数のもつおもしろさにふれる。 p.238～240		①投影図の素地的な問題を解く。 ②数や図形に関するパズルを解く。	[態度]発言・行動観察

単元名	プログラミングを体験しよう！ 「数の並べかえ方を考えよう」		教科書の ページ	p.242～243
配当時間	—	活動時期	—	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数を並べかえるためのプログラミングについて、数の大小を基に論理的に考え、説明することができる。 <p>p.242～243</p>	—	① コンピューターを使って数を並べかえる手順を考え、説明する。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう 「一筆がき」「不思議な輪の変身」		教科書の ページ	p.244～245
配当時間	—	活動時期	—	学習指導要 領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一筆がきを楽しむことを通して、一筆がきの条件を知り、奇数・偶数の不思議さに関心をもつ。 <p>p.244</p>	—	① 一筆がきのかき方やルールを知る。 ② 教科書の図について、一筆がきができるかどうか調べる。 ③ 一筆がきの条件を知る。 ④ 上の条件を基に、一筆がきの問題をつくる。	[態度] 発言・行動観察
<ul style="list-style-type: none"> ・ メビウスの輪や2つの輪を使っていろいろな形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 <p>p.245</p>	—	① メビウスの輪を、輪の真ん中や1/3のところでは切り、どんな形になるか調べる。 ② 同じ大きさの輪を2つ作り、貼り合わせて切る。 ③ 2つの輪の大きさによって様々な模様ができることを調べる。	[思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察